

被告人松平クマ島太郎等ハ御客又ハ使用人トシテ其ノ所爲ニ出テタルニ過キサレモノナルヲ以テ斯ル取引カ取引所法違反ナルコトヲ熟知セル證明ナキ限り刑法第三十八條第三項ヲ適用シ最モ輕キ罰金刑ヲ以テ處斷スルカ當然ニシテ罰金百圓ノ處罰ハ重キニ失スル違法アリト云フヘシト云フニ在レトモ取引所法ノ規定ニ依ル差金授受行爲ハ賭博罪ヲ構成スルモノニ非スト雖同法第三十二條ノ五前段所定ノ行爲カ賭博罪ニ該當スル要件ヲ具備スルハ明白ニシテ刑法第八十六條ノ外取引所法第三十二條ノ五ヲ設ケタルハ普通ノ場合ニ比シ刑ヲ加重スルノ必要ニ基クモノト謂フヘク常習トシテ犯ス場合ハ刑法第八十六條第一項ニ該當スルコト勿論ニシテ取引所法第三十二條ノ五但書ハ單ニ注意的ニ右ノ趣旨ヲ表明シタルモノニ過キス此ノ趣旨ニ依レハ原判決ノ擬律ハ正當ニシテ被告吉次郎以外ノ被告ニ對シ取引所法第三十二條ノ五ノ外刑法第八十五條第五十四條ヲ適用セサリシハ當然ト謂フヘシ取引所法第三十二條ノ五ノ規定ヲ知ラサリシトスルモ犯意ヲ阻却スルコトナシ論旨孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十一年(九)第九二號 棄却)
(同年四月二日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 高田茂八郎 辯護人 松岡 豊

【第一審】 出町區裁判所 【第二審】 富山地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法第九十八條第二項ニ所謂個々面接ノ意義

○判決要旨

一定ノ候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ各別ニ連續應對スル以上開カ偶然ノ機會ニ於テ行ハレタル特ニ作爲セラレタル機會ニ於テ行ハレタルトヲ問ハス衆議院議員選舉法第九十八條第二項ニ所謂個々面接ニ該當スルモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戶別訪問ヲ爲スコトヲ得ス

衆議院議員選舉法第九十八條第二項ニ所謂個々面接ノ意義

何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル富山縣縣會議員選舉ニ際シ法定ノ選舉運動員ニ非サリシトコロ同議員候補者高島開作ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

(一) 同月十三日午後五時頃同縣西礪波郡戸出町市野瀬清川原田圃道ニ於テ選舉人タル吉田伊四郎ニ對シ右高島候補者ノ爲投票並選舉運動ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ後日辨當代(金五十錢位宛)ヲ供與スヘキ旨申向ケ其ノ承諾ヲ得テ金錢供與ノ約束ヲ爲シ

(二) 同月二十二日正午頃同町字二十石ノ田圃道ニ於テ選舉人タル中村菊次郎ニ對シ右高島候補者ノ爲投票方ヲ依頼シ後日其ノ報酬トシテ辨當代(金五十錢位)ヲ供與スヘキ旨ノ申込ヲ爲シ

(三) 同月二十三日午前十時頃同町市野瀬清水佐四郎方前田圃道ニ於テ選舉人タル清水佐四郎ニ對シ右高島候補者ノ爲投票方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ後日辨當代(金五十錢位)ヲ供與スヘキ旨申向ケ其ノ承諾ヲ得テ金錢供與ノ約束ヲ爲シ以テ選舉運動ヲ爲シ

タルモノニシテ右(一)並(三)ノ各金錢供與ノ約束ヲ爲シタル行爲及(二)ノ金錢供與ノ申込ヲ爲シタル行爲ハ何レモ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中無資格選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條ニ個々面接ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第二項第二百二十九條ニ金錢

供與ノ申込ヲ爲シ又ハ其ノ約束ヲ爲シタル點ハ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ各該當スルトコロ右無資格選舉運動個々面接及金錢供與ニ關スル所爲ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ且右金錢供與ニ關スル所爲ハ連續ニ係ルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條第五十五條ヲ適用シ最モ重キ金錢供與ノ約束ヲ爲シタル罪ノ刑ニ從ヒ處斷スヘク所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二月ニ處スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人松岡豊上告趣意書第三點假ニ檢事ノ控訴申立ヲ適法ナリトスルモ原判決ハ事實ノ誤認又ハ擬律ノ錯誤アリ衆議院議員選舉法第九十八條第二項ニ所謂個々面接罪ノ成立ニハ投票ヲ得若クハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ個々ノ選舉人ニ對シ面接シタルコトヲ要ス原判決ハ被告人ハ候補者高島開作ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉人タル判示吉田伊四郎 中村菊次郎及清水佐四郎ニ對シ判示日時場所ニ於テ個々ニ面接シタリトノ事實ヲ認定セリ然レトモ本件記録ニ依レハ被告人ハ候補者高島開作ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉人タル判示吉田伊四郎 中村菊次郎及清水佐四郎等ニ對シ連續シテ個々ニ面接シタルニ非ス被告人カ右吉田等ト判示日時場所ニ於テ面接シタルハ何レモ偶然ノ機會ナリシコトハ司法警察官並ニ檢事ノ被告人及右三名ニ對スル聽取書及第一審第二審ノ公判調書中被告人ノ

供述ニ徴シ明カナル處ナリ然ラハ被告人カ判示日時場所ニ於テ右三名等ト夫々偶然出會シ同人等ニ對シ投票方ノ依頼ヲナシ且金錢供與ニ關スル所爲ヲナシタルハ選舉法ニ所謂無資格運動及金錢供與ニ關スル犯罪ノ成立スルコトアラシモ個々面接罪ノ成立スルコト非サルヘシ故ニ此ノ點ニ付キ原判決ハ事實誤認又ハ擬律ノ錯誤アリト言フニ在レトモ

【要旨】

一定ノ候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ各別ニ連續應對スル以上縱今開カ偶然ノ機會ニ於テ行ハレタルト特ニ作爲セラレタル機會ニ於テ行ハレタルト問ハス等シク衆議院議員選舉法第九十八條ニ所謂個々面接ニ該當スルモノトス而シテ原判示事實ニ依レハ被告人ハ判示縣會議員選舉ニ際シ候補者高島開作ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ昭和十年九月二十日ヨリ二十三日ニ至ル迄前後三回ニ互リ選舉人吉田伊四郎外二名ニ對シ各別ニ右高島候補ノ爲投票方ヲ依頼シタルモノナリト言フニ在ルヲ以テ右カ府縣制第三十九條第四十條ヲ以テ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十八條第二項第二百二十九條ヲ以テ處斷セラルヘキコト當然ニシテ右事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ之ヲ證明スルニ足り記録ニ徴スルモ該事實ノ認定ニ誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ヲ發見セス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○郵便法違反被告事件 (昭和十一年(九)第一一三號 棄却)
同年四月二日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 西川 卓一

【第一審】 福岡區裁判所 【第二審】 福岡地方裁判所

○判示事項

郵便法第二十三條ノ適用

○判決要旨

郵便料ヲ完納シタル受信人連名ノ郵便物ナルニ於テハ其ノ一人カ遠隔ノ地ニ住スル爲之ヲ廻送スルノ煩アルトキト雖肩書地居住ノ受信人ハ之力受取ヲ拒ムヲ得サルモノトス

【参照】 郵便法第二十三條 受取人ハ郵便料ヲ完納シタル郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ

郵便法第二十三條ノ適用

得ス

差出人ハ還付郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

同法第四十三條 第四條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第五條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第六條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ事由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミ又ハ第二十三條ニ違反シテ郵便物ノ受取ヲ拒ミタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ科料五圓ニ處ス右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年九月一日被告人肩書居宅ニ於テ差出人寄川藤三郎外一名受取人福岡市博多上小山町四十七番地(被告人前住所)被告人及古川廣吉ナル料金完納ノ内容證明、配達證明、書留、通常郵便物ノ配達ヲ受ケ乍ラ其ノ受領ヲ拒絶シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ郵便法第二十三條第一項ニ違反シ同法第四十三條ニ該當スルヲ以テ所定刑中科料刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ニ對シ主文ノ刑ヲ量定處斷シ右科料不完納ノ場合ニ付刑法第十八條ニ從ヒ一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

被告人上告趣意書一、私ハ小學校ヲ卒ヘタノミテ正規ノ學歷ヲ有セス從ツテ次ノ如キ觀念ノ下ニ本件ハ發生シタモノデアリマス二、郵便法トハ事件發生後特別法規テアルト知リマシタカ發生當時ハ郵便局員カ定メタル勝手ナ内規ノ如ク考ヘテ斯ノ如キ不合理ナ郵便物ハ發信人へ返還スルノカ當然テ之内規ヲ楯ニ強ヒテ受取レト云フ郵便局ソノモノカ餘リニモ官僚的強壓テアルトノ感想モ一基因シテ居リマス三、私ハ約十年福岡市内ニ居住シマスカ曾テ一度モ本回ノ如ク他人ト連名宛ノ郵便物ニ接シタ事實ハアリマセヌ四、本郵便物ハ私以外ノ福岡縣内ニ在住セサル他人ノ宛名アル爲メ他人ノ信書ト認メ他人ノ信書ヲ獨斷開封スレハ國法上ノ罪ヲ構成スルモノナリト豫テ聞知シテ居リマシタノテ罪ヲ犯シテ迄受取ラネハナラヌ程ノ義務ヲ有セヌト考ヘマシタ五、同一場所ニ居住セサル他人ノ宛名アルノミナラス發信人ハ一面識モナキニ依リ誤送郵便物ニテハナキヤノ感起リ此ノ爲メ責任ヲ生シ又他人ニ迷惑ヲ及ホス如キコトアツテハナラヌトノ考ヲ起シマシタ六、私カ想像出來ル同姓同名ノ他人ハ生來佐賀縣ニ居住シ私ハ約十年福岡市ニ居住シ宛名ノ他人カ此ノ者トスレハ實ニ山川數十里ヲ隔テテ相逢フノ期ナク同時ニ受領開封等一切不能斯ノ如キ郵便物ヲ發信スル發信人ノ不法及之ヲ強ヒテ受取レト云フ郵便局コソ理論的ニ見テ不合理ノモノト思ヒマス返還ヲ主張スル私ニ罪アルヲ疑フ次第テ寧ロ郵便局ニ煩ヲ加ヘ他人ニ迷惑ヲ及ホス斯ノ如キ不合理ノ郵便物ヲ發信シタル發信人ニ罪無キカヲ考ヘサ

郵便法第二十三條ノ適用

セラレマス七、本郵便物ハ内容不明ナルモ内容證明配達證明郵便物ナルヲ以テ内容重大ノ文書トモ想像サルルニ依リ受取リテ生スル重大ナル他人ノ利害迄モ責任ヲ負擔サセラルルコトアルヤヲ及他人ニ重大ナル迷惑ヲカクルコトアルヤヲ想像致シマシタハ、本件ニ對スル本日迄ノ判決理由トスル料金完納ノ郵便物ハ如何ナル理由アルモ受取ヲ拒ムコトヲ得ストセハ有夫ノ妻ニ對シ未知ノ男性ヨリ料金完納ノ郵便物來リタル場合夫ヨリ其ノ貞操ヲ疑ハレルモ受取ヲ拒メハ國法ハ之ヲ罪セラルルモノナリヤ又未婚ノ處女モ不純ナル郵便物ト知リツツモ受取ヲ拒ムコトヲ得ヌモノナリヤ又數百里ノ遠隔地ノ連名ノ郵便物ヲモ受取ヲ拒ムコトヲ得ヌモノナリヤトノ疑ヲ想起スルモノテアリマス右ノ趣意ニ付當然無罪ノ御判決可相成ト奉存候ト云フニ在レトモ

【要旨】
被告人ハ郵便法カ郵便局ノ定メタル内規ニ過キサルモノト思料シタル爲判示郵便物ノ受領ヲ拒絶シタルニ外ナラストノ所論ハ畢竟法律ノ不知ニ當リ犯意阻却ノ事由トナラサルモノトス而シテ郵便料ヲ完納シタル郵便物ナルニ於テハ其ノ宛名カ所論ノ如ク遠隔ノ地ニ住スル者ト連名ト爲リ之ヲ廻送スルノ煩アルトキ又ハ郵便物ノ内容カ所論ノ如キ場合ナルトキト雖受取人ニ於テ之カ受取ヲ拒ムヲ得サルコト郵便法第二十三條ノ律意ニ徴シ疑ナキ所ナリ蓋シ受取人ニ於テ受取ノ義務ナキモノトセハ郵便官署ハ一々受取人ノ同意ヲ俟ツテ郵便物ヲ配達セサルヘカラサル結果ト爲リ無數配達ノ取扱ヲ迅速ニ行フヲ職トスル郵便事務ノ運行ハ事實上不可能トナル場合ヲ發生スル虞アレハナリ原判決ニ依レハ被告人

ハ昭和十年九月一日肩書居宅ニ於テ差出人寄川藤三郎外一名受取人福岡市博多上小山町四十七番地(被告人前住所)被告人及古川廣吉ナル料金完納ノ内容證明配達證明書留通常郵便物ノ配達ヲ受ケ乍ラ其ノ受領ヲ拒絶シタルモノナリト云フニ在リテ郵便法第二十三條ニ違反シ同法第四十三條ニ依リ處斷スヘキモノナルコト定ニ明ナリ論旨理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事池田克關與

○詐欺被告事件(昭和十一年(れ)第一一七號 棄却)

(同年四月二日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 關 東 藏 辯護人 (河野友鳥 外一名 下地敏之)

【第一審】 那覇區裁判所 【第二審】 那覇地方裁判所

○判示事項

無効ナル生命保険契約ノ保險證券ト詐欺罪ノ目的物

無効ナル生命保險契約ノ保險證券ト詐欺罪ノ目的物

○判決要旨

生命保險契約當時被保險者既ニ死亡シ且保險契約者之ヲ知レル爲保險契約無効ナルトキト雖保險證券ハ詐欺罪ノ目的物タルニ妨ナキモノトス

【參照】 刑法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

商法第四百三十三條第一項 第三百九十五條、第三百九十七條、第三百九十九條、第四百

條、第四百一十一條、第四百三十一條、第四百五十一條乃至第四百七十一條、第四百八十一條、第四百九十一條、第四百九十七條、第四百九十九條、第四百一

條、第四百七十七條及ヒ第四百八十八條ノ規定ハ生命保險ニ之ヲ準用ス

同法第三百九十七條 保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサル

ヘキコト又ハ既ニ生シタルコトヲ知レルトキハ其契約ハ無効トス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人東藏ヲ懲役六月ニ被告人篤藏ヲ懲役五月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人東藏ハ東京市京橋區京橋三丁目ニ本店ヲ有スル第一生命保險相互會社ノ沖繩縣勤務外交員ニシテ被告人篤藏ハ右東藏ノ知人ナルトコロ篤藏ノ妹山城カナ(大正五年七月二十九日生)カ肺結核ニ罹リ昭和十年三月頃ヨリ那覇市下泉町金城病院ニ入院加療中ナリシヲ以テ被告人兩名ハ共謀ノ上被告人篤藏ヲ保險契約者トシ右第一生命保險相互會社ニ對シ山城カナノ疾病ヲ祕シ同女ヲ被保險者トスル保險契約ヲ締結シ因テ同會社ヨリ之カ保險證券並被保險者死亡ノ場合保險金名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ同會社ニ對スル之ニ關スル手續ハ被告人東藏ニ於テ萬事取計フコトト爲シタルカ同被告人ノ取計ヒニ依リ同年六月十五日同會社ノ診査醫宮田清カ「カナ」ノ身體ヲ診査スル爲被告人篤藏ノ肩書住居ニ出張スルヤ被告人等ハ同醫師ニ對シ豫テ「カナ」ノ身替トシテ物色シ置キタル健康體ナル仲本カマテ(當二十七年)ヲ「カナ」ナリト申欺キテ同醫師ヲ誤信セシメ「カマテ」ノ身體ヲ診査シ被告人篤藏ノ妹カナカ保險加入ニ適スル健康體ナル旨ノ診査報告書ヲ作成セシメタル上其ノ頃保險契約者被告人篤藏被保險者山城カナ 保險金額六千圓ナル同會社宛ノ保險契約申込書ヲ同會社鹿兒島支部ノ支部長坂本伊作ノ手ヲ經テ前記同會社本店ニ提出シ以テ同會社係員ヲシテ「カナ」カ眞實被保險者タルニ適スル健康體ノ所有者ナル如ク誤信セシメタル末同年七月三日保險契約者被告人篤藏被保險者山城カナ保險金額六千圓保險金受取人山城カナ若シ同人カ保險期間内ニ死亡シタルトキハ被告人篤藏ヲ保險金受取人トスル養老生命保險契約ヲ締結セシメ因テ同月二十日過頃該保險證券一通(證第一號)ヲ被告人篤藏方ニ送付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

被告人東藏ノ辯護人ハ本件ハ被保險者死亡後ニ於テ保險契約カ成立シタルモノナルヲ以テ該契約ハ無効ニシテ從テ保險證券モ亦無効ナルヲ以テ無効ナル證券ノ詐欺ハ成立スルモノニアラス又東藏ハ篤藏ノ本件犯行ヲ幫助シタルモノニシテ共同正犯ニアラサル旨辯疏スレトモ本件保險證券ノ表示スル契約カ無効ナリトスルモ該證書ニ表示セラレタル契約カ形式上成立シタル如キ體裁ヲ具備スルニ於テハ何人ノ所有ヲモ許ササル偽造文書ト異リ該證券ハ詐欺罪ノ目的物

ト爲り得ルモノナルヲ以テ之ヲ騙取スレハ詐欺罪ヲ成立スルコト勿論ナリ又被告人東藏ハ判示認定ノ如ク本件詐欺ノ最初ニ於テ篤藏ト之カ謀議ヲ爲シタルノミナラス山城カナノ疾病ヲ祕シ之カ身替ト爲ルヘキ者ヲ物色シ自ラ診査醫ニ對シ仲本カマテヲ山城カナナリト申欺キテ診査セシメ且保險契約ニ關シ篤藏ニ代リテ一切ノ手續ヲ取計ヒタル者ナルヲ以テ本件犯罪ノ共同正犯ヲ以テ論スヘク從テ右辯疏ハ何レモ理由ナシ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ各刑法第六十條第二百四十六條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人東藏ヲ懲役六月ニ被告人篤藏ヲ懲役五月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人關東藏辯護人河野友鳥上告趣意書第二點原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アリ凡ソ本件犯罪ノ手段タル保險契約ハ其ノ保險金拂込アリタル時ヲ以テ有效ニ成立スルモノナル事ハ證第一號保險證券記載ノ保險約款ニヨリ明白ナルト共ニ保險契約ノ有效ニ成立センカ爲ニハ成立當時被保險者ノ生存ヲ絶對的要件トスルモノナリ然ルニ被告人東藏ノ昭和十年十月二十四日ノ檢事聽取書五項中「六月三十日附テ鹿兒島支部カラ立替申請ヲ交付シタト云フ通知カ私宛ニ來テ居リマシタカラ其ノ日附テ契約締結ノ效力カ發生シタモノト思ツテ居リマス」ノ陳述證第一號證中契約成立ノ日カ昭和十年七月三日ナル旨ノ記載被告人篤藏ノ昭和十年十月二十四日ノ檢事聽取書二項中「妹カナハ本年二月初頃市内上

ノ藏町山本病院ニ診テ貫ツタトコロ肺結核タト云フ事テ三月ニ市内下泉町金城病院ニ入院シ療養シマシタカ病性ハ惡化シルキレキカ出來タノテ其ノ切開ノ爲ニ金城病院ヲ退院シテ山本病院ニ入院シマシタ其ノ後矢張り病氣ハ良クナラス六月二十六日ニ死亡シマシタ」ノ陳述ニ徵スレハ保險契約成立ノ時即昭和十年七月三日ニハ既ニ被保險者タル山城カナハ死亡シ居リタル事明白ナリ然ルニ本件被告人等ノ意思ハ被保險者山城カナノ替玉トシテ仲本カマテヲ診査セシメ因テ成立セシメタル無効ナル保險契約ヲ有效ナルカ如ク裝ヒ被保險人死亡ノ後適法ナル死亡診斷書ヲ得テ保險金ヲ領得スルニアリタル事一件記録上明瞭ニシテ此ノ場合保險證券ノ受領ハ死亡ノ事實ヲ俟チテ必然的ニ保險金ノ交付ヲ受ケ得ラルヘキ關係ニアルモノナレハ保險證券ノ受領ハ詐欺ノ既遂トシテ處罰セラルヘキモ本件ニ於テハ犯罪ノ實行ニ著手後保險證券受領前被保險者死亡シタル爲遂ニ被告人ノ認識ト相違シ死亡者ヲ被保險者トスル保險證券ヲ受領シタルニ止マルモノニシテ被告人等ノ豫見シタル結果ニ到ラザリシヲ以テ被告人篤藏ニ於テ保險證券ヲ受領シタル事實ヲ以テハ未タ必然的ニ保險金受領ヲ受ケ得ラルヘキ關係ナク更ニ死亡診斷書ヲ偽造スルカ又ハ醫師ニ偽造セシムルカノ手段ヲ用キ會社ヲシテ被保險者山城カナカ保險契約成立後ニ死亡シタル者ト誤認セシムルニ非サレハ保險金ノ騙取ヲ爲シ得ヘカラサルモノナレハ此ノ場合保險證券ノ受領ハ保險金受領ナル事實ト一連ノ關係ニアルモノト謂フヘカラサルヲ以テ被告人等ノ犯行ハ被保險者山城カナノ契約成立前ノ死亡ナル被告人等ノ意外ノ事實ニ因リ未遂ニ終リタ

無効ナル生命保險契約ノ保險證券ト詐欺罪ノ目的物

ルモノナルニ拘ラス原審カ詐欺ノ既遂ナリト判斷シ刑法第二百四十六條第一項ヲ適用シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルモノト謂フヘシト云ヒ」被告人山城篤藏辯護人下地敏之上告趣意書第一點原判決ハ法律ノ適用ヲ爲ササルカ若クハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法アリ一、原判決ハ本件事案ニ付辯護人カ「本件ハ被保險者死亡後ニ於テ保險契約カ成立シタルモノナルヲ以テ該契約ハ無効ニシテ保險證券モ亦無効ナルヲ以テ無効ナル證券ノ詐欺ハ成立スルモノニ非ス」ト辯疏シタルニ對シ「本件保險證券ノ表示スル契約カ無効ナリトスルモ該證書ニ表示セラレタル契約カ形式上成立シタルカ如キ體裁ヲ具備スルニ於テハ何人ノ所有ヲモ許ササル偽造文書ト異リ該證券ハ詐欺罪ノ目的トナリ得ルモノナルヲ以テ之ヲ騙取スレハ詐欺罪ヲ成立スルコト勿論ナリ」ト判示セラレタリ二、一件記録ヲ調査スルニ本件保險契約ニ於ケル被保險者カ昭和十年六月二十六日死亡シ同年七月三日保險契約成立シタリトシテ保險證券カ作成セラレタルコト疑ナシ三、惟フニ保險契約ニ於テハ保險契約申込當時被保險者カ生存スルコトハ要件ニ非スシテ契約成立スル時ニ於テ被保險者カ生存スルヲ以テ保險契約成立ノ要件タル事ハ當然ノ事ト云ハサルヘカラス而シテ通常保險契約ハ保險證券作成ノ時ニ於テ成立シ且本件ニ於ケル證第一號ニ依ルモ保險證券作成ノ時カ契約成立ノ時ナルヲ以テ本件保險契約カ法律上成立シタリトスルニハ被保險者山城カナカ昭和十年七月三日生存シ居タルコトヲ要スルモノト謂ハサルヘカラス四、保險證券交付カ詐欺罪ヲ構成スルヤ否ヤハ結局保險證券カ通常保險金支拂ノ場合引換ニ爲サル

ルモノナルカ故ニ必然的ニ證券自體ニ價值ヲ生シ刑法ノ所謂財物トシテ取扱ハルヘキ蓋然性ヲ有スルカ故ナリ五、然レ共保險證券ハ手形貨物引換證船荷證券等ノ如ク形式的證券ニ非スシテ若シ證券成立ノ原因ニ付テ無効原因アル時ハ該證券ハ形式上證券タルモノナリト雖一片ノ反古ニシテ何等ノ價值ヲ有スルモノニ非サルモノナリ即形式的證券ニ於テハ其ノ原因ニ於テ金錢ノ授受アリヤ否ヤ貨物ノ存在シタリヤ否ヤハ論議スル事ヲ要スルモノニ非スシテ止テ證券ノ記載自體ノミニヨリ權利義務ヲ確定スヘキモノナルニ不拘保險證券ニ於テハ契約成立ノ要件タル(唯一ノ要件)被保險者ニ於テ生存シタリヤ否ヤハ重大ナル問題ニ屬シ若シ生存セサリシトセハ保險契約ハ形式上保險證券カ作成セラレ保險契約カ成立シタリトスルモ全然無効ニシテ證券カ作成セラレタリトノ形式的要件ニヨリテ保險者カ其ノ責任ヲ負フモノニアラサル事法律上議論ノ存セサル所ナリトス六、本件ニ付テ云ヘハ上告人篤藏ハ相被告人關東藏ト共謀ノ上保險證券ヲ騙取シタリト云フニアルモ既ニ死亡シタル被保險者ニ付其ノ後成立シタル保險契約ニ因ル證券ハ結局成立スルコトヲ得サル契約ニ因ル證券ニ屬シ如斯内容全然無効ノ契約ニ因ル證券ハ一片ノ反古ニシテ何等ノ價值ヲ有セサルモノナレハ刑法上ノ所謂財物ト謂フ事ヲ得ス七、從テ上告人ハ當初證券騙取ヲ目的トナシタルモノナルモ契約ノ目的トスルコト不能ニ歸シ且無價值ノ紙片ヲ受領シタルモノナレハ詐欺罪ヲ構成セサルモノト信スト云フニ在レトモ

生命保險ニ於テ保險契約者カ保險契約ノ申込ヲ爲シタル後被保險者死亡シ保險契約締結當時ニハ既ニ

無効ナル生命保險契約ノ保險證券ト詐欺罪ノ目的物

【要旨】 保險事故發生シ且保險契約者ニ於テ之ヲ知レル爲保險契約無効トナリタリトスルモ保險證券ハ保險契約ノ成立及其ノ内容ヲ明ニスヘキ證據證券トシテ尙財產權ノ目的タルコトヲ得ルモノナルカ故ニ刑法ニ所謂財物ニシテ詐欺罪ノ目的物タルニ妨ナキモノトス從ツテ苟モ被告人兩名共謀ノ上原判示ノ如キ欺罔手段ヲ用ヒテ判示生命保險會社ヲシテ判示保險契約ヲ締結セシメ因テ保險證券ヲ交付セシメタル以上ハ該行爲ハ保險證券騙取ノ詐欺既遂罪ヲ構成スルコト勿論ニシテ假令敍上ノ如キ事由ニ因リテ保險契約無効トナリタレハトテ毫モ同罪ノ成立ニ消長ヲ及ホスモノニ非サレハ原判決ニハ所論ノ如キ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルモノト謂フヘカラス論旨孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事池田克關與

○府會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十一年(レ)第七號 同年四月七日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 平野庄三郎 辯護人 東畑文雄

外六名

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

選舉運動者ノ意義

○判決要旨

衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ所謂選舉運動者中ニハ現ニ選舉運動ヲ爲シ居ル者ノミナラス同號所定ノ利益供與者ヨリ一定ノ候補者ノ爲選舉運動ヲ爲スコトヲ依頼セラレタル者ヲモ包含スルモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第一百十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ響應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

選舉運動者ノ意義

(以下省略)

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人等ヲ各罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ各二十五日間其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人等ヨリ各金七圓三錢ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ昭和十年九月二十五日施行ノ大阪府會議員總選舉ニ際シ大阪市港區ノ選舉人(但シ被告人東堀清七ヲ除ク)ナリシトコロ同年三月三十日奈良縣生駒郡生駒町料亭うるこ事北村よね方ニ於テ當時既ニ同市港區ヨリ立候補ヲ決意シ居リタル白石梅太郎ヨリ同人カ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ被告人等ニ對シ投票及選舉運動方ヲ請託スル趣旨ノ下ニ其ノ報酬トシテ饗應スルノ情ヲ諒知ノ上一人前金七圓三錢相當ノ酒食ノ饗應接待ヲ受ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ各府縣制第四十條大正十四年法律第四十七號(大正十五年法律第八十二號ニヨリ改正)衆議院議員選舉法第一百十二條第四號ニ該當スルトコロ本件犯行後施行セラレタルモノト看做サレタル府縣制第四十條大正十四年法律第四十七號(昭和九年法律第四十九號ニ依リ改正)衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第四號ニ因リ刑ノ變更アリタル場合ニ各該當スルヲ以テ刑法第六條第十條ニ則リ右新舊兩法ノ刑ノ輕重ヲ比照スルニ右舊法ノ刑輕キヲ以テ之ニ從ヒ處斷スヘク所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人等ヲ各罰金五十圓ニ處シ右各罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ各二十五日間其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク被告人等カ判示饗應接待ヲ受ケタル利益ハ孰レモ全部之ヲ沒收スルコト能ハサルニ依リ府縣制第四十條大正十四年法律第四十七號(大正十五年法律第八十二號ニ依リ改正)衆議院議員選舉法第一百十四條後段ニ則リ各其ノ價額金七圓三錢ヲ追徴ス

ヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○ 理 由

各被告人辯護人東畑文雄上告趣意書第三點上告人東堀清七ハ昭和十年九月二十五日施行ノ府會議員選舉ニ付大阪市港區ニ於ケル選舉人ニ非サリシコトハ原判決ノ確定セル事實ナルヲ以テ同人カ其ノ判示饗應ヲ受ケタル事實アリトスルモ之カ爲選舉人トシテ犯罪ヲ構成スルコトナシ而シテ府縣制第四十條ニ準用スル衆議院議員選舉法第一百十二條ノ饗應犯罪ノ受饗應者ハ選舉人又ハ選舉運動者ノ何レカナルコトヲ要件トス(同條第一號ニ「選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ」云々トアリ其ノ第四號ニ「第一號ノ饗應接待ヲ受ケ」トアリテ「選舉人又ハ選舉運動者ニ對スル饗應」ナル文詞ヲ受ケタル規定ノ文理解釋上疑ナシ)故ニ同人ニ對シ罪責アリトナスニハ宜敷其ノ選舉運動者ナリシ事實ヲ確定セサルヘカラサルモノトス然ルニ原判決ハ此ノ點ニ付毫モ判示スル處ナク其ノ證據ヲ示ス處ナシ果シテ然ラハ原判決ハ審理不盡理由不備ノ違法アルカ若ハ法律ヲ不當ニ適用シ有罪ノ判斷ヲ下シタル失當アリト信スト云フニ在リ

仍テ審案スルニ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ハ同號所定ノ利益ノ被供與者ハ選舉人又ハ

選舉運動者ノ意義

【要旨】 選舉運動者タルコトヲ規定スルカ故ニ同規定ト相表裏スル同條項第四號ノ利益ノ供與ヲ受クル者モ亦選舉人又ハ選舉運動者タルコトヲ要スルモノト解スルヲ相當トスルモ所謂選舉運動者中ニハ現ニ選舉運動ヲ爲シ居ル者ノミナラス供與者ヨリ候補者ノ爲將來選舉運動ヲ爲スコトヲ依頼セラレタル者ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス原判示ニ依レハ被告人等ハ判示選舉ニ際シ判示日時場所ニ於テ當時立候補ヲ決意シ居リタル白石梅太郎ヨリ同人カ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ被告人等ニ對シ投票及選舉運動方ヲ請託スル趣旨ノ下ニ其ノ報酬トシテ響應スルノ情ヲ諒知ノ上一人前金七圓三錢相當ノ響應接待ヲ受ケタルモノナリト云フニ在レハ原判示ハ被告人等ハ響應接待者タル白石梅太郎ヨリ判示選舉ニ付選舉運動ヲ爲スコトヲ依頼セラレタル趣旨ニシテ之ニ依リ原判決ニハ被告人東堀清七モ敍上ノ意味ニ於テ選舉運動者ナルコトヲ判示シアルモノト云フヘク而シテ同被告人カ右選舉運動者ナルコトハ原判決舉示ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ認メ得ヘシ若シ夫レ判示行爲カ判示罰條ニ觸ルルコトハ論ヲ俟タサル所ナルカ故ニ原判決カ右罰條ヲ以テ之ヲ處斷シタルハ固ヨリ正當ニシテ原判決ニハ審理不盡理由不備若ハ法律ヲ不當ニ適用シタル違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事棚町丈四郎關與

○虛偽公文書作成行使詐欺瀆職被告事件 (昭和十年(九)第一八八八號 同十一年四月九日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 板野榮次郎 辯護人

德本寬三
 赤井幸夫
 中井重政
 佐藤太夫

【第一審】 岡山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

風評ノ證據力 不納品ニ對スル代金ノ騙取

○判決要旨

一單純ナル風評ノ供述ハ其ノ供述者カ共同被告人タルト證人タルトヲ問ハス風評自體ノ存在ヲ證明スル場合ノ外爾餘ノ事實認定ノ證據ト爲スコトヲ得ス【要旨第一】

風評ノ證據力 不納品ニ對スル代金ノ騙取

二學校會計課長カ物品納入商人ト結託シ契約數量全部ヲ納入セシメサルニ拘ラス全部受入ヲ完了シタル如ク裝ヒテ學校長ヲ欺罔シ全部ニ對スル代金ヲ支拂ハシメタルトキハ其ノ學校ニ受入レサリシ部分ニ對スル代金ヲ騙取シタルモノニ該當ス【要旨第二】

【參照】 刑事訴訟法第三百三十六條 事實ノ認定ハ證據ニ依ル

同法第三百三十七條 證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

刑法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處シ第一審未決勾留日數中百二十日ヲ右本刑ニ算入ス被告人ヨリ金五百三十圓ヲ追徴ス訴訟費用中豫審ノ證人湯淺定衛ニ支給シタルモノハ被告人ト第一審相被告人藤原正男 山崎久平ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人板野榮次郎ハ明治三十八年三月岡山市國富所在ノ第六高等學校書記ヲ拜命シ昭和六年三月主事ニ昇進シ同年六月十六日辭任シタルモノニシテ其ノ間大正九年十一月以降引續キ同校會計課長(會計主任)ヲ勤メ同校會計事務一切ヲ擔當シ

原審相被告人松本鐵太ハ大正九年十一月以降昭和六年三月二日辭任迄同校書記トシテ會計課用度係ヲ勤メ同藤原正男ハ昭和六年三月ヨリ同九年六月二十日休職ヲ命セラルル迄同校書記トシテ會計課用度係ヲ勤メ來リタルモノナル處

第一 右第六高等學校(本判決ニ於テ單ニ「六高」ト略稱スヘシ)ニ於ケル物品購入ニ關スル會計事務ノ取扱ハ概ネ會計課長ニ於テ同課所屬ノ用度係書記ト協議ノ上數名ノ商人ヨリ見積書ヲ徴シ其ノ内適當ト認ムルモノヲ採リ用度係書記ニ於テ所定ノ「物品購入並受入伺」ナル用紙(證第六十三號參照)ノ所定欄ニ購入物品ノ品目、數量、單價、納入商人ノ氏名住所等ヲ記入捺印シ會計課長ニ差出シ課長之ニ捺印シタル上學校長ニ提出シテ購入ノ決裁(決裁印)ヲ得然ル後學校長名義ニテ右指定商人ト物品購入契約ヲ爲シ用度係ニ於テ該契約ニ係ル納入品ヲ檢收シ納入完了シタルトキハ前記物品購入並受入伺ノ「納濟」欄ノ日附ノ部ニ其ノ日附ヲ記入捺印シテ之ヲ會計課出納係書記ニ回付シ同係ニ於テ計算關係ヲ調査シタル上右物品購入並受入伺ト同一葉ヲナス支拂計算書ノ部ノ支拂合計欄ニ支拂フヘキ代金額ヲ記入捺印ノ上會計課長ニ差出シ會計課長ハ調査ノ上捺印シ以テ購入物品ノ受入ヲ完了シタル旨ノ自己ノ職務上作成スヘキ證明書(以下單ニ「物品受入證明書」ト略稱スヘシ)トナシ之ヲ學校長ニ提出シ其ノ決裁ヲ得タル上支出官タル學校長ニ於テ發行シタル日本銀行岡山支店宛ノ小切手ニテ其ノ代金ヲ支拂フコトトナリ居レルカ被告人板野榮次郎ハ會計課長原審相被告人松本鐵太同藤原正男ハ會計課用度係書記トシテ「六高」ノ物品購入ニ付前記ノ如キ職務ニ從事中被告人板野榮次郎ハ松本鐵太又ハ藤原正男ト共同シ納入商人ト結託シテ購入ノ木炭又ハ石炭ニ付納入商人ヨリ契約數量ノ一部ヲ「六高」ニ納入スルコトヲ差控ヘシメ又ハ之ヲ自家用トシテ被告人ノ自宅ニ持參セシメテ契約數量ノ全部ヲ「六高」ニ納入セシメサルニ拘ラス情ヲ知ラサル會計課出納係書記ヲモ利用シテ前記ノ如キ手續ニヨリ契約數量全部ヲ完納シタルモノノ如キ虛偽ノ「物品受入證明書」ヲ作成行使シテ支出官タル學

風評ノ證據力 不納品ニ對スル代金ノ騙取

校長ヲ欺罔シ商人ニ契約數量全部ニ對スル代金ヲ支拂ハシメ因テ納入ヲ差控ヘシメタル數量ニ對スル代金ヲ騙取シ又ハ自家用トナシタル數量ニ對スル代金ノ支拂ヲ免レテ財産上不法ノ利益ヲ得ンコトヲ企テ

一 原審相被告人松本鐵太カ會計課用度係書記在職中同人ト共同シテ大正十四年四月頃ヨリ昭和五年四月頃迄ノ間毎年一回合計六回ニ互リ前示第一ノ冒頭記載ノ物品購入手續ニヨリ學校長ノ決裁ヲ得テ原審相被告人ナル薪炭商藤原與平ニヨリ別紙第一表(別表省略)契約ノ部記載ノ各同日ノ頃同記載ノ如ク購入シ夫々同表納入日欄記載ノ日時頃藤原與平ニテ之ヲ納入セシムルニ際リ其ノ都度同表不納入ノ部ノ各數量欄記載ノ數量ノ木炭ヲ被告人自家用トシテ自宅ニ配達セシメ之ヲ「六高」ヘ受入レサリシニ拘ラス

同表ノ各納入日欄記載ノ日時頃「六高」會計室ニ於テ前記第一ノ冒頭記載ノ如クニシテ情ヲ知ラサル出納係書記森幸太ヲモ利用シ行使ノ目的ヲ以テ藤原與平ニヨリ第一表契約ノ部記載ノ納入日ニ契約數量ノ木炭全部ヲ「六高」ニ受入レタルモノノ如キ虚偽ノ事實ヲ記載シ捺印シタル「物品受入證明書」六通ヲ作成シ之ヲ各其ノ頃同表表示ノ「六高」支出官タル學校長ニ夫々提出行使シ

同學校長ヲシテ其ノ都度眞實契約數量全部ヲ「六高」ニ受入完了シタルモノノ如ク誤信セシメ被告人カ自家用トナシタル前示ノ木炭ニ對スル代金ト共ニ同表契約ノ部記載ノ契約數量全部ニ對スル代金金額ヲ支拂ハシメ因テ被告人自家用木炭ニ對スル同表不納入ノ部ノ價格欄記載ノ代金(合計百七十六圓二十九錢)相當ノ財産上不法ノ利益ヲ得

二 原審相被告人松本鐵太カ會計課用度係書記在職中大正十五年十一月「六高」ノ爲石炭二萬斤ヲ前記第一ノ冒頭記載ノ手續ニヨリ學校長ノ決裁ヲ經テ同月十二日頃前示藤原與平ニヨリ單價(一萬斤ニ付)百十九圓納入期間月十七日ノ契約ニテ納入セシムル手續ヲ了シ同人ヲシテ其ノ納入ヲ爲サシムルニ際リ右松本鐵太ト共謀シテ内一

萬斤ハ其ノ納入ヲ差控ヘシメ單ニ一萬斤ヲ納入セシメタルニ止マルニ拘ラス其ノ頃「六高」會計室ニ於テ前記第一ノ冒頭記載ノ如クニシテ情ヲ知ラサル出納係書記森幸太ヲモ利用シ行使ノ目的ヲ以テ藤原與平ニヨリ二萬斤全部ヲ「六高」ニ受入レタル旨虚偽ノ事實ヲ記載シ捺印シタル「物品受入證明書」一通ヲ作成シ「六高」支出官タル學校長小松倍一ニ提出行使シ同人ヲシテ眞實二萬斤全部ノ受入レ完了セルモノノ如ク誤信セシメ以テ同年十一月三十日二萬斤分ノ代金二百三十八圓ヲ藤原與平ニ支拂ハシメ因テ納入ヲ差控ヘシメタル一萬斤ノ代金百十九圓ヲ騙取シ内約百圓ヲ藤原與平ニヨリ松本鐵太ノ手ヲ經テ受領シ

三 右松本鐵太ノ前記用度係在職中大正十四年十二月頃ヨリ昭和五年二月頃迄ノ間五回ニ互リ前記第一ノ冒頭記載ノ物品購入手續ニヨリ學校長ノ決裁ヲ經テ原審相被告人ナル薪炭商森幸夫ヨリ別紙第二表(別表省略)契約ノ部記載ノ各同日ノ頃同記載ノ數量單價ノ石炭ヲ夫々同表記載ノ如キ購入契約ヲ同表納入日欄記載ノ各日時頃森幸夫ヲシテ之カ納入ヲナサシムルニ際リ右松本鐵太ト共同シテ毎回一萬斤宛合計五萬斤ハ之ヲ差控ヘシメ其ノ餘ヲ納入セシメタルニ止マルニ拘ラス

同表ノ各納入日附ノ頃「六高」會計室ニ於テ前記第一ノ冒頭記載ノ如クニシテ情ヲ知ラサル出納係書記森幸太ヲモ利用シ行使ノ目的ヲ以テ森幸夫ヨリ前記ノ各納入日ニ契約數量全部ノ石炭ヲ「六高」ニ受入レタルモノノ如ク虚偽ノ事實ヲ記載捺印シタル「物品受入證明書」五通ヲ作成シ之ヲ各其ノ頃同表記載ノ「六高」支出官タル學校長ニ夫々提出行使シ同學校長ヲシテ其ノ都度眞實契約數量全部ヲ「六高」ヘ受入完了シタルモノト誤信セシメ同表不納入ノ部納入ヲ差控ヘシメタル數量ノ石炭代金ト共ニ契約數量全部ノ代金ヲ支拂ハシメ因テ同表不納入ノ部記載ノ各金額ヲ騙取シ其ノ頃森幸夫ヨリ松本鐵太ノ手ヲ經テ該金額ヲ自己ニ交付セシメテ其ノ目的ヲ遂ケ

四 原審相被告人藤原正男カ「六高」會計課用度係書記トシテ在職中昭和七年八月十日頃前記第一ノ冒頭記載ノ物品

風評ノ證據力 不納品ニ對スル代金ノ騙取

品購入手續ニヨリ學校長ノ決裁ヲ經テ前記藤原與平ニヨリ木炭三千八百疋ヲ單價(百疋)五圓六十錢ニテ購入契約ヲナシ同年八月十五日之ヲ納入セシムルニ際リ右藤原正男ト共同シテ豫テ藤原與平ニカ二、三回ニ被告人板野榮次郎ノ自家用トシテ被告人宅ニ配達シ居ル木炭八百疋ヲ控除シ三千疋ノミヲ「六高」ニ納入シタルニ止マルニ拘ラス

同日頃「六高」會計室ニ於テ前記第一ノ冒頭記載ノ如クニシテ情ヲ知ラサル出納係書記森幸太ヲモ利用シ行使ノ目的ヲ以テ昭和七年八月十五日右藤原與平ニヨリ契約量ノ木炭三千八百疋ヲ全部「六高」ニ受入レタルモノノ如ク虚偽ノ事實ヲ記載シ捺印シタル「物品受入證明書」一通ヲ作成シ之ヲ真正ナルモノトシテ其ノ頃同校内ニテ支出官ナル學校長岡野義三郎ニ提出行使シ因テ同學校長ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同月二十日被告人方へ自家用トシテ配達シタ木炭八百疋ノ代金四十四圓八十錢ヲ含ム三千八百疋ノ代金金額ヲ藤原與平ニ支拂ハシメ以テ財産上不法ノ利益ヲ得

五 前記藤原正男カ「六高」會計課用度係書記在職中昭和七年二月頃同八年二月頃及同九年二月頃ノ三回「六高」ノ爲前記第一冒頭記載ノ物品購入手續ニヨリテ前記森榎夫ヨリ石炭五萬斤宛ヲ別紙第三表(別表省略)契約ノ部記載ノ各同日ノ頃同記載ノ單價ニテ購入契約ヲナシ同表納入日欄記載ノ各日時頃森榎夫ヨリ之ヲ納入セシムルニ際リ右藤原正男ト共同シテ毎回契約量ヨリ一萬斤宛合計三萬斤ノ納入ヲ差控ヘシメ其ノ餘ヲ納入セシメタルニ止マルニ拘ラス

同表各納入日附ノ頃「六高」會計室ニ於テ前記第一ノ冒頭記載ノ如クニシテ情ヲ知ラサル出納係書記森幸太ヲモ利用シ行使ノ目的ヲ以テ森榎夫ヨリ前記各納入日ニ契約量五萬斤宛全部ノ石炭ヲ「六高」ニ受入レタルモノノ如ク虚偽ノ事實ヲ記載シ捺印シタル「物品受入證明書」三通ヲ作成シ之ヲ各其ノ頃「六高」校内ニ於テ同表表示ニ交付セシメテ其ノ目的ヲ遂ケ

ノ同校支出官タル學校長ニ提出行使シ

六 前記藤原正男カ「六高」會計課用度係書記在職中昭和七年十二月二十四日「六高」ノ爲前記第一ノ冒頭記載ノ物品購入手續ニヨリ原審相被告人山崎久平ヨリ木炭三千疋ヲ單價(百疋ニ付)六圓七十錢ニテ購入契約ヲナシ同年十二月二十八日之ヲ山崎久平ヨリ納入セシムルニ際リ右藤原正男ト共同シテ契約量中五百疋ノ木炭ヲ被告人宅ニ其ノ自家用トシテ配達セシメ其ノ殘餘二千五百疋ノミヲ「六高」ニ受入レタルニ拘ラス

其ノ頃「六高」會計室ニ於テ前記第一ノ冒頭記載ノ如クニシテ情ヲ知ラサル出納係書記森幸太ヲモ利用シ行使ノ目的ヲ以テ山崎久平ヨリ昭和七年十二月二十八日契約量ノ三千疋全部ノ木炭ヲ「六高」ニ受入レタルモノノ如ク虚偽ノ事實ヲ記載シ捺印シタル虚偽ノ「物品受入證明書」一通ヲ作成シ其ノ頃之ヲ「六高」内ニ於テ同校支出官ナル學校長岡野義三郎ニ提出行使シ

因テ同學校長ヲシテ山崎久平カ眞實契約量全部ヲ納入セシモノト誤信セシメテ代金全部ヲ支拂ハシメ以テ被告人自家用トナシタル五百疋ノ木炭代金三十三圓五十錢ノ支拂ヲ免レ財産上不法ノ利益ヲ得
タルモノニシテ以上ノ虚偽公文書ノ作成其ノ行使及詐欺ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

第二 被告人板野榮次郎ハ前記第六高等學校會計課長トシテ同校ノ經理事務一切ヲ擔當中物品ノ購入諸修理新築工事ノ施行ニ付學校長ノ權限内ニ屬スルモノニ付テハ商人又ハ請負人ヲ詮衡シテ納入商人又ハ指名競争入札及隨意契約

風評ノ證據力 不納品ニ對スル代金ノ騙取

ノ請負人ノ決定及購入契約又ハ請負契約ノ締結等ニ關與シ來リタル處

一 原審相被告人薪炭商人藤原與平ニテ詮衡シ同校所要ノ石炭木炭ヲ納入セシメタル爲同人ヨリ被告人ニ對シテ前記職務行爲ノ報酬トシテ昭和五年十二月末頃迄ノ間毎年八月上旬及十二月末頃ノ七回ニ互リアナシタル毎回現金二十圓合計百四十圓ノ供與ヲ受ケ其ノ都度被告人肩書居宅ニ於テ其ノ情ヲ知リナカラ之ヲ收受シ

二 原審相被告人請負業者難波増治ヲ詮衡シ同人ヲシテ

(イ) 昭和五年六月三十日同校各教室ノ暖爐煙筒ノ新設工事ヲ代金四百三十八圓餘ニテ請負ハシメタル爲同人ヨリ被告人ニ對シ前記職務行爲ノ報酬トシテ同年八月上旬頃女婿難波一夫ノ手ヲ經テナシタル現金三十圓ノ供與ヲ同日被告人肩書居宅ニ於テ其ノ情ヲ知リナカラ之ヲ收受シ

(ロ) 同六年七月二十日同校寄宿舎ペンキ塗工事ヲ代金二千百十四圓餘ニテ請負ハシメタル爲増治ヨリ同年九月頃ナシタル前同様ノ現金百圓ヲ同日前同所ニ於テ其ノ情ヲ知リナカラ之ヲ收受シ

(ハ) 同七年七月二十四日同校寄宿舎ノペンキ塗及同寄宿舎便所内部ノペンキ塗工事ヲ合計代金二千四百四十七圓餘ニテ請負ハシメタル爲同年九月中旬増治ヨリナシタル前同様旨ノ現金百圓ノ供與ヲ同日同校會計課室内ニ於テ其ノ情ヲ知リナカラ之ヲ收受シ

(ニ) 同八年一月二十日同校寄宿舎ノ暖房裝置工事ヲ代金千二百二十七圓ニテ請負ハシメタル爲女婿難波一夫ノ手ヲ經テ爲シタル前同様旨ナル現金三十圓ノ供與ヲ同日右同所ニ於テ其ノ情ヲ知リナカラ之ヲ收受シ

三 原審相被告人請負業者山本銀次郎ヲ指名請負人ニ詮衡シ同人ヲシテ

(イ) 昭和六年八月同校校物置新營工事ヲ代金千四百九十四圓ニテ請負ハシメタル爲同人ヨリ被告人ニ對シ前記ノ職務行爲ノ報酬トシテ同年十一月頃爲シタル現金三十圓ノ供與ヲ同日同校運動場ニ於テ其ノ情ヲ知リナカラ

之ヲ收受シ

(ロ) 同七年一月頃ヨリ同年四月迄ノ間二回ニ互リ同校土壘工事ヲ代金合計六千九百九十五圓餘ニテ請負ハシメタル爲同人ヨリ同年四月十七、八日頃前同様旨ニテ爲シタル現金五十圓ノ供與ヲ同日前同所ニ於テ前同様之ヲ收受シ

四 左官職岸本年三ヲ指名請負人ニ詮衡シ同人ヲシテ

(イ) 昭和五年七月二十四日同校圖書倉ノ壁塗替工事ヲ代金七百七圓餘ニテ請負ハシメタル爲同人ヨリ被告人ニ對スル前記ノ職務行爲ノ報酬トシテ同年十二月末頃爲シタル現金二十圓ノ供與ヲ同日被告人肩書居宅ニ於テ其ノ情ヲ知リナカラ之ヲ收受シ

(ロ) 同七年八月二日同校寄宿舎ノ壁塗替工事ヲ代金千三百十四圓ニテ請負ハシメタル爲同人ヨリ同年九月上旬頃前同様旨ニ於テ爲シタル現金三十圓ノ供與ヲ同日同校構内ニ於テ其ノ情ヲ知リナカラ之ヲ收受シ

以テ孰レモ自己ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ

タルモノニシテ右ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ各處僞公文書作成ノ點ハ刑法第六十條第五百十六條前段第五百十五條第一項第五十五條ニ其ノ行使ノ點ハ同法第六十條第五百十八條第一項第五百十六條前段第五百十五條第一項第五十五條ニ詐欺ノ點ハ同法第六十條第二百四十六條第五十五條ニ各該當スルところ以上ハ順次ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニヨリ最モ重キ僞公文書行使罪ノ刑ニ從フヘク判示第二ノ所爲ハ同法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當ス而シテ以上ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルニヨリ同法第四十七條第十條ニ則リ重キ前者ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲スヘキ處犯罪ノ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第六十七條第七十一條第六十八條第

風評ノ證據力 不納品ニ對スル代金ノ騙取

三號ニヨリ酌量減輕ヲナシ其ノ刑期範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷シ判示第二ノ收賄金額合計五百三十圓ハ沒收スルコト能ハサルニヨリ同法第九十七條第二項後段ニヨリ被告人ヨリ之ヲ追徴シ同法第二十一條ニ則リ原審未決勾留日數中百二十日ヲ本刑ニ算入シ訴訟費用ノ負擔ニ付刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

尙第二審判決ハ判示第二ノ二(イ)(ロ)(ハ)(ニ)事實ヲ認定スルニ付左記ノ如キ證據ヲ引用シタリ

原審相被告人難波増治ニ對スル豫審第二回訊問調書(記錄八四七丁以下)ニ其ノ供述トシテ判示ノ各日時頃判示ノ各工事ヲ請負ヒ其ノ四回ニ三十圓百圓百圓及三十圓ヲ判示ノ如クニシテ板野榮次郎ニ供與シタリ而シテ右各請負ハ凡テ見積書ヲ提出シテ請負ヒタルモノニシテ板野課長ハ請負人ニ見積書ヲ提出セシメ請負人ヲ選定シ請負契約ニ關係スルニヨリ同人ニ世話ニナリ又將來モ世話ニナラサルヘカラサルニヨリ其ノ御禮ト將來モ請負ハセテ貰ヒ度キカ爲ニナシタルモノニシテ以上ハ孰レモ返還セラレタルコトナキ旨及板野課長ハ「六高」ニ出入スル商人ヨリヨク物ヲ貰フトノコトニテオ寺サントカオ宮サントカ云フ評判カ立チタル旨ノ記載

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人中田棍太 佐藤重政 徳本寛三 赤井幸夫 上告趣意書第十點原判決ハ第二事實ノ證據トシテ原審相被告人難波増治ニ對スル豫審第二回訊問調書ニ其ノ供述トシテ「(前略)板野課長ハ「六高」ニ出入スル商人ヨリ物ヲ貰フトノコトニテオ寺サントカオ宮サントカ云フ評判カ立チタル旨ノ記載」アリト

説示シタリ然レトモ右ハ何等ノ根據ナキ風評ヲ供述シタルモノニ係リ證據ト爲スコトヲ得サルモノナルコトハ御院幾多ノ判例ノ存スル處ナリ然ルニ之ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ採證ノ法則ニ違背シ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

仍テ按スルニ第一審相被告人難波増治ニ對スル豫審第二回訊問調書記載ノ所論供述ハ單純ナル風評ヲ述ヘタルニ過キササルモノニシテ斯ル風評ハ之ヲ供述スル者カ共同被告人タルト證人タルトヲ問ハス裁判所ハ就テ其ノ眞否ヲ糺明シ信憑力ノ有無ヲ判斷スルニ由ナキモノナルカ故ニ之ヲ風評自體ノ存在ヲ證明スル場合ノ外他ノ一般事實ヲ認定スル資料ニ供スルコトヲ得サルモノト謂ハサルヘカラスサレハ原判決カ收賄ノ事實ヲ認定スル證據トシテ斯ル單純ナル風評ニ付テノ供述ヲ採用シタルハ採證法則ニ違反シタル瑕疵アルモノト謂フヘシ然レトモ本件ニ於テハ該供述ヲ除外スルモ其ノ他ノ原判決引用ノ證據ニ依リテ原判示第二ノ二ノ事實ヲ認ムルニ足ルヲ以テ右瑕疵ハ未タ以テ原判決ヲ破毀スル事由ト爲スニ足ラス從ツテ論旨ハ結局其ノ理由ナキニ歸ス

第十一點原判決ハ其ノ事實理由第一ノ一ニ於テ「被告人ハ原審相被告人松本鐵太カ會計課用度係書記在職中同人ト共同シテ大正十四年四月頃ヨリ昭和五年四月頃迄ノ間毎年一回合計六回ニ互リ前示第一冒頭記載ノ物品購入手續ニヨリ學校長ノ決裁ヲ得テ原審相被告人ナル薪炭商藤原與平ニヨリ別紙第一表契約ノ部記載ノ各同日ノ頃同記載ノ數量單價ノ木炭ヲ同表記載ノ如ク購入シ夫々同表納入日欄記載

風評ノ證據力 不納品ニ對スル代金ノ驅取

ノ日時頃藤原與平ニシテ之ヲ納入セシムルニ際リ其ノ都度不納入ノ部ノ各數量欄記載ノ數量ノ木炭ヲ被告人自家用トシテ自宅ニ配達セシメ之ヲ「六高」へ受入レサリシニ拘ラス同表ノ各納入日欄記載ノ日時頃「六高」會計室ニ於テ前記第一冒頭記載ノ如クニシテ情ヲ知ラサル出納係書記森幸太ヲモ利用シ行使ノ目的ヲ以テ藤原與平ニヨリ第一表契約ノ部記入ノ納入日ニ契約數量ノ木炭全部ヲ「六高」ニ受入レタルモノノ如キ虚偽ノ事實ヲ記載シ捺印シタル物品受入證明書六通ヲ作成シ之ヲ各其ノ頃同表表示ノ「六高」支出官タル學校長ニ夫々提出行使シ同學校長ヲシテ其ノ都度眞實契約量全部ヲ「六高」ニ受入完了シタルモノノ如ク誤信セシメ被告人カ自家用ト爲シタル前示ノ木炭ニ對スル代金ト共ニ同表契約ノ部記載ノ契約量全部ニ對スル代金金額ヲ支拂ハシメ因テ被告人自家用木炭ニ對スル同表不納入ノ部價格欄記載ノ代金(合計百七十六圓二十九錢)相當ノ財産上不法ノ利益ヲ得ト判示シタリ然レトモ判示事實ニヨレハ現實ニ「六高」ニ對シ一定數量ノ木炭ヲ納入セサルニ拘ラス其ノ納入アリタルモノト學校長ヲシテ誤信セシメタル上其ノ數量ニ對スル代金ノ支拂ヲ受ケタル事實ナルヲ以テ詐欺財産罪ハ茲ニ其ノ完了ヲ告ケタルモノニシテ上告人カ自家用トシテ自宅ニ配達セシメタル木炭ノ代金ノ支拂ヲ免ルルカ如キハ其ノ間接ノ結果ニ過キス左レハ右所爲犯罪ヲ構成スルモノトセハ現實「六高」ニ納入セラレサル木炭代金騙取ノ事實ソノモノナリト謂ハサルヘカラサルモノトス然ルニ原判決カ上告人ニ於テ其ノ自宅ニ配達セラレタル木炭代金ノ支拂ヲ免レタル事實ヲ以テ本件犯罪ノ具體的事

實ナリト爲シタルハ事實ノ誤認アルコト顯著ナル事由アルモノナリ(判示第一ノ四六事實ニ關シテモ同様ノ違法アルモノナリ)ト云フニ在レトモ

原判示事實ニ依レハ要スルニ被告人ハ第六高等學校會計課長第一審相被告人松本鐵太 藤原正男ハ同校會計課用度係書記トシテ判示職務ニ從事中被告人ハ松本鐵太又ハ藤原正男ト共同シ物品納入商人タル藤原與平二又ハ山崎久平ト結託シ藤原與平ニヨリ同校ニ購入シタル判示第一ノ一記載ノ數量ノ木炭ニ付テハ同人ヲシテ其ノ一部タル同判示記載ノ數量ノ木炭ヲ自家用トシテ被告人宅ニ配達セシメ又同人ヨリ同校ニ購入シタル判示第一ノ四記載ノ數量ノ木炭ニ付テハ同人ヲシテ豫テ被告人ノ自家用トシテ自宅ニ配達セシメタル同判示記載ノ數量ノ木炭ヲ控除セシメ又山崎久平ヨリ同校ニ購入シタル判示第一ノ六記載ノ數量ノ木炭ニ付テモ同人ヲシテ其ノ一部タル同判示記載ノ數量ノ木炭ヲ自家用トシテ自宅ニ配達セシメ孰レモ契約數量ノ木炭全部ヲ同校ニ納入セシメサリシニ拘ハラス其ノ全部ノ受入ヲ完了シタルモノノ如キ虚偽ノ事實ヲ記載シタル物品受入證明書ヲ作成シテ支出官タル同學校長ニ提出行使シ同學校長ヲシテ眞實其ノ全部ノ受入完了シタルモノト誤信セシメ因テ藤原與平二又ハ山崎久平ニ對シテ被告人カ自家用ト爲シタル木炭ニ對スル代金ヲモ包含シタル契約數量ノ木炭全部ニ對スル代金ヲ支拂ハシメタリト云フニ在ルヲ以テ被告人ノ右行爲ハ學校長ヲ欺罔シテ契約數量ノ木炭全部ニ對スル代金ヲ支拂ハシメ因テ其ノ一部自家用ト爲シ學校ニ受入レサリシ木炭ニ對スル代金ヲ騙取シタル

【要旨第二】

風評ノ證據力 不納品ニ對スル代金ノ騙取

モノニシテ刑法第二百四十六條第一項ノ詐欺罪ヲ構成スルコト明瞭ナリトス然ルニ原判決ハ被告人ノ右行為ヲ以テ同條第二項ニ該當スルモノノ如キ見解ノ下ニ因テ自家用ト爲シタル木炭ニ對スル代金ノ支拂ヲ免レテ財産上不法ノ利得ヲ爲シタル旨ノ說示ヲ附加シタルハ失當ナリト雖同條第一項第二項ハ素ヨリ同種ノ罪質ニシテ孰レニスルモ其ノ罪責ヲ異ニスルモノニ非サルノミナラス斯ル說示ヲ附加シタレハトテ是只贅辭ニ過キスシテ罪ト爲ルヘキ事實ノ説明ヲ缺如スルモノニ非ス又之ヲ以テ所論ノ如ク事實ノ誤認アルモノト做スヲ得ス論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事池田克關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十一年(れ)第一二四號
同年四月九日第一刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 川守田富彌

辯護人

牧野 修三
土川 家 猛

【第一審】 八戸區裁判所 【第二審】 青森地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法第九十六條第一項ト立候補届出前ノ選舉運動—
同法第九十五條ノ二ト同法第九十九條第二項トノ競合

○判決要旨

一立候補届出前ノ(將來ノ選舉ヲ見越シテ爲ス)選舉運動ハ總テ衆議院議員選舉法第九十五條ノ二第百二十九條ヲ以テ律セラレ同法第九十六條第一項第百二十九條ハ其ノ届出以後ニ於テノミ適用ヲ見ルヘキモノトス【要旨第一】

二立候補届出前選舉事務ニ關係アル吏員カ其ノ關係區域内ニ於テ選舉運動ヲ爲ストキハ衆議院議員選舉法第九十五條ノ二第百二十九條違反タルト同時ニ同法第九十九條第二項第百三十一條ノ

衆議院議員選舉法第九十六條第一項ト立候補届出前ノ選舉運動 同法第九十五條ノ二ト同法第九十九條第二項トノ競合

違反トナリ刑法第五十四條第一項ニ依リ處斷セラルヘキモノトス【要旨第二】

【參照】衆議院議員選舉法第九十五條ノ二 選舉運動ハ第六十七條第一項乃至第三項ノ届出アリタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

同法第九十六條第一項 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ

同法第九十九條第二項 選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ

同法第二百二十九條 第九十五條ノ二、第九十六條第一項、第九十八條若ハ第九十八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第三百三十一條 第八十九條第一項、第九十九條又ハ第九十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ五十日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大正十五年以來昭和十年八月十九日迄青森縣三戸郡北川村長ニ在職シ居リタルモノニシテ昭和十年九月二十

五日施行ノ同縣縣會議員選舉ニ際シ同月五日推薦届出ニヨリ同縣三戸郡ニ於ケル同議員候補者ト爲リタルモノナルトコロ右届出前同議員候補者タラムコトヲ決意シ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ハラス自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ

第一 同年八月三、四日頃被告人肩書居宅ニ於テ居村大字劍吉ノ選舉人川守田由松ニ面接シ立候補ノ上ハ自己ニ投票シ且他ノ選舉人ノ投票ヲモ集メラレ度キ旨依頼シ

第二 同月中旬頃同村大字斗賀西館小次郎經營ノ同村省線劍吉驛前製材工場事務所ニ於テ選舉人タル右小次郎ニ面接シ前同旨ノ依頼ヲ爲シ

第三 同月十六日選舉人ナル同村大字劍吉出町勘次郎同村大字虎渡工藤長之助同村大字劍吉板垣爲吉同村大字斗賀石塚清四郎同村大字劍吉岩間孫太郎同村大字斗賀館松榮次郎同村大字斗賀川村金太郎及同村大字劍吉立花松三郎ヲ肩書居宅ニ招致シ面接ノ上右一同ニ對シ立候補ノ上ハ自己ニ投票セラレ度キ旨依頼シ以テ北川村長トシテ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中推薦届出前選舉運動ヲ爲シタル點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十五條ノ二第二百二十九條ニ無資格選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條ニ選舉事務ニ關係アル吏員トシテ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタル點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十九條第二項第三百三十一條ニ個々面接ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第二項第二百二十九條ニ各該當スルコト以上ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルニ付刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ重キ個々面接ニ依ル選舉運動罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金百圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ被告人ヲ五十日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

衆議院議員選舉法第九十六條第一項ト立候補届出前ノ選舉運動 同法第九十五條ノ二ト同法第九十九條第二項トノ競合

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人牧野良三 土川修三 新家猛上告趣意書第一點一、原審判決ハ被告人ノ所爲ヲ以テ衆議院議員選舉法第九十六條ノ規定ニ違反スル無資格選舉運動ト認定シ府縣制第三十九條第四號(第四十條ノ誤記ト認ム)衆議院議員選舉法第九十六條第一項同第二百二十九條ヲ各適用シテ處斷シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リ不當ニ法則ヲ適用シタル違法ノ判決ニシテ破毀セラルヘキモノト信ス蓋シ衆議院議員選舉法第九十六條第一項ハ「議員候補者選舉事務長又ハ選舉委員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス」ト記載シ選舉運動ハ原則トシテ右記載以外ノ者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ明示シタルモノナリ而シテ議員候補者タラントスル者ハ同法第六十七條ノ規定ニ依リ選舉ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル日ヨリ選舉ノ期日前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘク而シテ其ノ選舉運動ハ右届出ノアリタル後ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ同法第九十五條ノ二ニ於テ規定シタリ從テ立候補ノ届出ヲ爲ス以前ニ於テハ適法ナル選舉運動ナルモノナルヘキ謂ハレナク即チ有資格選舉運動者ナルモノ絕對ニ存シ得サルモノナリ從テ右届出以前ニ於テ特定人ノ當選ヲ斡旋スル行爲ハ有資格者ノ行爲ナルヤ否ヤヲ論スル餘地ナキモノト謂ハサルヘカラス換言スレハ同法第九十六條ハ立候補ノ届出アリタル後ニ於テ爲シ

タル選舉運動カ果シテ適法ナリヤ否ヤノ事實ニ關シ適用セラルル規定ニシテ本件ノ如キ場合ニ於テハ同條ノ適用ヲ俟タス同法第九十五條ノ二ノ規定スル「立候補届出前ノ選舉運動」トシテ同法第二百二十九條ニヨリ處斷セラルルモノト謂ハサルヘカラス衆議院議員選舉法ハ昭和九年法律第四十九號ヲ以テ改正セラレ右改正ニ依リ新タニ同法第九十五條ノ二ヲ插入シ立候補届出前ノ選舉運動ニ對シ明確ニ法律ヲ以テ之ヲ禁止スルト共ニ之ニ違背シタル場合ニハ同法第二百二十九條ヲ以テ處罰セラルルモノナルコトヲ明カニシタリ從テ本件ノ如キ事案ニ對シテハ同法第九十六條ニ依ルヘカラサルモノナルニ拘ラス原審判決カ同法第九十六條ヲ適用シタルハ不當ニ法則ヲ適用シタル違法ノ判決ニシテ破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在リテ

選舉期日ノ公布又ハ告示前未タ議員候補者ノ届出ヲ爲スニ由ナキ時期ニ於テモ將來選舉ノ行ハルルコトヲ豫期シ特定人ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ演說又ハ推薦狀ニ依ル以外ノ選舉運動ヲ爲ストキハ衆議院議員選舉法第九十六條違反ノ犯罪ヲ構成スルモノトシテ之ヲ處罰シタルコト當院ノ判例ナリト雖是レ唯ニ選舉ノ公正ヲ期スルカ爲法ノ精神ニ鑑ミ爾カ解スルノ允當ナリシカ故ニ外ナラス然ルニ昭和九年法律第四十九號ニ依リ改正セラレタル衆議院議員選舉法ハ第九十五條ノ二ヲ新設シ立候補届出前ニ於テハ何人ト雖選舉運動ハ總テ之ヲ爲スコトヲ得サル旨規定セルヲ以テ選舉期日ノ公布又ハ告示前將來ノ選舉ヲ見越シテ爲ス選舉運動ハ何人ニ於テ之ヲ爲スモ同條違反ナリト解スヘク更ニ之ヲ從前ノ

衆議院議員選舉法第九十六條第一項ト立候補届出前ノ選舉運動 同法第九十五條ノ二ト同法第九十九條第二項トノ競合

如ク同法第九十六條第一項ニ依ル無資格選舉運動者トシテ律スルノ必要ナク從テ茲ニ第九十六條第一項ハ單ニ立候補届出アリタル以後ニ於ケル選舉運動資格ノ有無ニ關シテノミ其ノ適用ヲ見ルニ至レリト謂ハサル可カラス而シテ原判示事實ニ依レハ被告人ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル青森縣會議員選舉ニ際シ其ノ立候補届出前ニ於テ自己ニ投票ヲ得ル目的ノ下ニ判示選舉運動ヲ爲シタルモノナリト云フニ在ルヲ以テ右ハ府縣制第三十九條第四十條ニ依リ準用セラルル右衆議院議員選舉法第九十五條ノ二第二百二十九條ヲ以テ處斷セラルルニ止マリ更ニ該行爲ヲ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條違反トシテ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用スヘキ場合ニ該當セス原判決ハ此ノ點ニ於テ不當ニ法則ヲ適用シタル違法アルコト洵ニ所論ノ如シト雖右ハ結局同一ノ罰則ニ依テ處斷スヘキ同一ノ事實ニ係リ原判決ニ影響ヲ及ホササルヲ以テ敍上ノ瑕疵ハ未タ原判決ヲ破毀スルノ事由ト爲スニ足ラス論旨理由ナシ

第二點原審判決ハ其ノ冒頭ニ於テ被告人ハ大正十五年以來昭和十年八月十九日迄青森縣三戸郡北川村長ニ在職シ居リタルモノニシテ昭和十年九月二十五日施行ノ同縣會議員選舉ニ際シ同月五日推薦届出ニヨリ同縣三戸郡ニ於ケル同議員候補者ト爲リタルモノナルトコロ右届出前議員候補者タランコトヲ決意シ法定選舉運動者ニ非サルニ拘ラス自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ云々ト判示シタル上右事實ニ對スル法律適用ニ於テ「選舉事務ニ關係アル吏員トシテ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタル點

ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十九條第二項第三百一十一條ニ該當スル旨判示シタリ二、然レ共之レ不當ニ法則ヲ適用シタル違法ノ判決ナリ何トナレハ衆議院議員選舉法第九十九條第二項ニハ選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得スト規定シタルモノニシテ同條ニ「選舉運動」ト云フハ衆議院議員選舉法ニ於テ許サレタル正當適法ナル選舉運動即チ同法第九十六條第一項前段ノ規定スル議員候補者選舉事務長選舉委員ノ爲ス選舉運動及同項但書ノ規定スル第三者ノ選舉運動ヲ指スモノニシテ是等ノ適法ナル選舉運動ハ何人ト雖之ヲ爲シ得ヘキモノナレトモ特ニ選舉ノ公正ヲ保持センカ爲選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テノミ同法第九十九條第二項ニ依リ之ヲ禁止スル旨ヲ規定シタルモノナリ而シテ選舉運動ハ如何ナル場合ニ於テモ同法第六十七條第一項乃至第三項ノ届出アリタル後ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノニシテ右以前ニ於テ爲シタル一切ノ選舉運動ハ總テ違法不適法ナルモノナリヤ明カナリ從テ特ニ官吏員ニ限ラルルモノニアラサルコト言フ俟タス而シテ原審判決ハ本件事實ヲ以テ推薦届出前ニ於ケル選舉運動トシテ處斷スルモノナル以上ハ更ニ右行爲ニ對シ選舉事務ニ關係アル吏員ノ法定禁止區域内ニ於ケル運動ナリヤ否ヤニ付之ヲ審究スルノ必要ナキモノト謂ハサルヘカラス然ルニ拘ラス原審判決カ右法條ヲ適用シタルハ違法ノ判決ト謂ハサルヘカラスト云フニ在レトモ

【要旨第二】 衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ハ論旨第一點ニ付説述セルカ如ク立候補届出前ニ於ケル一切ノ選舉

衆議院議員選舉法第九十六條第一項ト立候補届出前ノ選舉運動 同法第九十五條
ノ二ト同法第九十九條第二項トノ競合

運動ヲ何人ニモ禁止スルノ法意ナルヲ以テ其ノ行爲カ一面他ノ處罰法條ニ違反スル選舉運動ナルニ於テハ是レ所謂一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ニ該當スルモノト謂フヘク而シテ原判示事實ニ依レハ被告人ハ青森縣三戸郡北川村長在職中昭和十年九月二十五日施行ノ同縣會議員選舉ニ際シ其ノ立候補届出前判示選舉運動ヲ爲シタルモノナリト云フニ在ルヲ以テ右ハ選舉事務ニ關係アル吏員トシテ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタルト共ニ立候補届出前ノ選舉運動ヲ爲シタルモノニ該當シ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十五條ノ二第百二十九條違反タルト同時ニ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十九條第二項第百三十一條ノ違反タルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用處斷セラルヘキコト當然ナリ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事秋山要關典

○縣會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十一年(れ)第一六二號
 同年四月十三日第一刑事部判決)

棄却)

【上告人】

被告人 小出 良夫

辯護人

(森本富士雄
 志波清太郎)

【第一審】

和歌山區裁判所

【第二審】

和歌山地方裁判所

○判示事項

立候補届出前ノ選舉運動ト立候補届出ノ有無

○判決要旨

立候補届出前將來立候補スル意思ヲ以テ選舉運動ヲ爲スニ於テハ直ニ衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ノ違反ト爲リ爾後立候補ノ届出ヲ爲ササリシトスルモ既ニ成立シタル犯罪ニ消長ナシ

【参照】

衆議院議員選舉法第九十五條ノ二 選舉運動ハ第六十七條第一項乃至第三項

立候補届出前ノ選舉運動ト立候補届出ノ有無

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年十月五日施行セラレタル和歌山縣會議員總選舉ニ際シ七月三、四日頃當時未タ立候補ノ届出ヲ爲ササルニ拘ラス飯村保秀ニ慫慂サレテ和歌山市ヨリ議員候補者トシテ立候補セント志シ同人及中川茂ト共謀ノ上將來立候補ノ曉ニ於テ自己ノ當選ヲ期スル爲同市内ノ選舉人ヲ戶別訪問シテ自己ノ爲投票ヲ爲シ且他ノ選舉人ノ投票取纏方ヲ依頼セント企テ昭和十年七月三、四日頃ヨリ同月六、七日迄ノ間ニ中川茂ヲシテ和歌山市ニ於ケル選舉人ナル相本芳楠岡田勘三郎柳野作太郎小早川光四郎中岡宇之助ヲ戶別ニ訪問シ同人等ニ對シ被告人ノ爲投票ヲ爲シ且他ノ選舉人ノ投票取纏方ヲ依頼セシメタル外同月三、四日頃飯村保秀ヲシテ和歌山市ニ於ケル選舉人ナル西谷長一郎ヲ訪問シ同人ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲サシメ以テ戶別訪問ヲ爲シ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中戶別訪問ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第一項第二十九條刑法第六十條ニ立候補ノ届出前選舉運動ヲ爲シタル點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十五條ノ二百二十九條刑法第六十條ニ該當スルコロ右戶別訪問ト立候補ノ届出前ノ選舉運動トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ犯情重シト認ムル戶別訪問ノ罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金百圓ニ處シ同法第十八條第一項ヲ適用シテ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人森本富士雄上告趣意書第三點原判決ハ「被告人ハ昭和十年十月五日施行セラレタル和歌山縣會議員總選舉ニ際シ七月三、四日頃當時未タ立候補ノ届出ヲ爲ササルニ拘ラス飯村保秀ニ慫慂サレテ和歌山市ヨリ議員候補者トシテ立候補セント志シ同人及中川茂ト共謀ノ上將來立候補ノ曉ニ於テ自己ノ當選ヲ期スル爲同市内ノ選舉人ヲ戶別訪問シテ自己ノ爲投票ヲ爲シ且他ノ選舉人ノ投票取纏メ方ヲ依頼セント企テ昭和十年七月三、四日頃ヨリ同月六、七日迄ノ間ニ中川茂ヲシテ和歌山市ニ於ケル選舉人ナル相本芳楠岡田勘三郎柳野作太郎小早川光四郎中岡宇之助ヲ戶別ニ訪問シ同人等ニ對シ被告人ノ爲投票ヲ爲シ且他ノ選舉人ノ投票取纏メ方ヲ依頼セシメタル外同月三、四日頃飯村保秀ヲシテ和歌山市ニ於ケル選舉人ナル西谷長一郎ヲ訪問シ同人ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲サシメ以テ戶別訪問ヲ爲シ選舉運動ヲ爲シタルモノナル事實ヲ認定シタル上」法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中戶別訪問ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第一項第二百二十九條刑法第六十條ニ立候補届出前選舉運動ヲ爲シタル點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十五條ノ二百二十九條刑法第六十條ニ該當スルコロ右戶別訪問ト立候補ノ届出前ノ選舉運動トハ一個ノ行爲ニシテ二

立候補届出前ノ選舉運動ト立候補届出ノ有無

個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ犯情重シト認ムル戸別訪問ノ罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金百圓ニ處シ」云々ト判示シ罰金百圓ヲ言渡シタリ而シテ被告人カ立候補ノ届出ヲ爲ササリシ事實ノ認定資料トシテ「被告人ノ當公廷ニ於ケル自分ハ昭和十年七月三、四日頃當時飯村保秀ヨリ今回ノ縣會議員選舉ニ立候補スルコトヲ勸メラレタルコトアルモ其ノ當時及其ノ後ニ於テモ立候補ノ届出ヲ爲シタルコトナシトノ趣旨ノ供述」ヲ舉示シタリ即チ原判決ハ被告人カ昭和十年十月施行ノ和歌山縣會議員選舉ニ當リ候補者トシテ届出ヲ爲サスニ了リタルニ拘ラス「立候補届出前ノ選舉運動」並「戸別訪問」禁止ノ法條ニ違反シタリトシテ處罰ノ宣告ヲ爲シタルモノナリ「立候補届出前ノ選舉運動」ノ禁止ハ一定ノ選舉ニ於ケル各議員候補者ノ選舉運動ノスタートヲ公正ニセムコトヲ期シ「戸別訪問」ノ禁止ハ候補者ヘノ投票ノ公正ヲ期シタルモノニ外ナラス議員候補者ナラサル者カ自己ノ爲投票ヲ獲得センカ爲ニ如何ナル運動ヲ爲スト雖モ开ハ結局選舉運動ニ非サルナリ即チ例ヘハ既ニ立候補ノ届出期間經過後(府縣制第十三條ノ二)ニ於テ届出ヲ爲ササリシ者カ如何ニ自己ノ爲投票ヲ得ム目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲ストモ开ハ法律ニ所謂戸別訪問並選舉運動ニ非サルナリ蓋シ御院從來ノ判例ノ如ク「選舉運動トハ一定ノ議員選舉ニ付一定ノ議員候補者ヲ當選セシムヘク投票ヲ得若クハ得セシムルニ付直接又ハ間接ニ必要且有利ナル周旋勸誘若クハ誘導其ノ他諸般ノ行爲ヲ爲スコトヲ汎稱」スルモノナルノミナラス前例ノ如

キ場合ニ於テハ選舉ノ公正ヲ害スヘキ理由毫モ存セサレハナリ果シテ然ラハ本件ノ如ク選舉ノ告示前ニ於テ假ニ戸別訪問ヲ爲シタリト爲スモ結局其ノ後何等選舉運動ヲ爲サス況ンヤ立候補ノ届出ヲモ爲ササリシモノナレハ之ニ對シ前記ノ如キ法條ヲ適用シテ處罰シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アリト信スルナリト云フニ在レトモ

【要旨】

衆議院議員選舉法第九十五條ノ二ニハ選舉運動ハ立候補ノ届出前ニハ之ヲ禁止スルノ趣旨ナルヲ以テ當初立候補届出前將來立候補スル意思ヲ以テ選舉運動ヲ爲スニ於テハ直チニ右法條ノ違反ト爲リ爾後立候補ノ届出ヲ爲ササリシトスルモ既ニ成立シタル犯罪ニ消長ナシ原判決認定ノ事實ハ被告ハ議員候補者トシテ立候補セント志シ他兩名ト共謀ノ上將來立候補ノ曉ニ於テ自己ノ當選ヲ期スル爲戸別訪問ヲ爲シテ選舉運動ヲ爲シタリト謂フニ在ルヲ以テ原審カ敍上ノ理由ニ依リ被告ノ所爲ヲ衆議院議員選舉法第九十二條ノ五第百二十九條ニ間擬シタルハ正當ナリ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事秋山要關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十一年(れ)第一八七號 棄却)

【上告人】 被告人 岩崎 幸 辯護人 大久保輝

【第一審】 和歌山區裁判所 【第二審】 和歌山地方裁判所

○判示事項

集會ノ席上ニ於ケル投票依頼ト個々面接

○判決要旨

一見直ニ個別認識ヲ爲シ得ル程度ノ特定ノ選舉人ノ集合セル席上ニ於テ一同ニ對シ投票ヲ依頼スルハ右選舉人ヲ自ラ集合セシメタルニ非スシテ他人力集合セシメタルトキト雖モ尙個々面接ニヨル選舉運動ニ該當ス

【參照】 府縣制第三十九條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第十章第一章並第四百四十四條第二項、第四百四十二條及第四百四十七條ノ規定ヲ準用ス但シ議員候

補者一人ニ付定ムヘキ選舉委員ノ數選舉運動ノ爲使用スル勞務者ノ數及選舉運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

同法第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

衆議院議員選舉法第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス

何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人幸ヲ罰金八十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人喜太郎被告人正吉及被告人幸ハ何レモ昭和十年十月五日施行セラレタル和歌山縣會議員總選舉ノ選舉人ニシテ法定ノ選舉運動者ニアラサリシトコロ

第一(イ)被告人喜太郎同正吉及川口義造ハ共謀ノ上右總選舉ニ有田郡ヨリ立候補センコトヲ決意セル石井平太郎ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ其ノ立候補届出前タル同年六月二十六日頃和歌山縣有田郡湯淺町大字湯淺ノ被告人正吉方ニ選舉人タル藤澤快之介 岩崎幸 岩上直太郎 柄井安一 森音次郎 山本政治郎 篠野庄次郎 花野松藏 神人三治郎 田邊久吉 岩本常太郎 山下繁太郎 山田市太郎 田邊善吉ヲ呼集メ其ノ席上被告人喜太郎ハ同人等ニ對シ右平太郎ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スヘキコトヲ依頼シ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ面接シ選舉運動ヲ爲シ

(中略) 集會ノ席上ニ於ケル投票依頼ト個々面接

第二 被告人幸ハ右集合ノ席上前記石井平太郎ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ右選舉人藤澤快之介 柄井安一 山本政治 郎 篠野庄次郎 花野松藏 神人三治郎 田邊久吉 岩本常太郎 山下繁太郎 山田市太郎 田邊善吉ニ對シ投票並選舉運動ヲ依頼シ以テ連續シテ個々ニ面接シ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ各被告人ノ所爲ハ府縣制及衆議院議員選舉法(以下單ニ選舉法ト略記ス)ニ依リ處斷スヘキトコロ府縣制ハ昭和十年法律第四十四號ニ依リ選舉法ハ昭和九年法律第四十九號ニ依リ各其ノ一部改正セラレタルモノニシテ被告人幸ノ所爲ハ舊法ニ依レハ無資格選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條選舉法第二百二十九條第九十六條ニ個々面接ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條選舉法第二百二十九條第九十八條第二項ニ該當シ右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重シト認ムル後者ノ刑ニ從ヒ處斷スヘキモノナルヲ以テ同法第六條第十條ニ依リ新舊兩法ヲ第一項前段第十條ニ依リ重シト認ムル後者ノ刑ニ從ヒ處斷スヘキモノナルヲ以テ同法第六條第十條ニ依リ新舊兩法ヲ比照スルニ其ノ刑兩者同一ナルヲ以テ行爲時法タル舊法ヲ適用シ個々面接ノ罪ニ付定メタル刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金八十圓ニ處スヘク被告人ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人大久保輝上告趣意書第二點ハ原判決ハ第一點摘錄ノ如ク犯罪事實ノ認定ヲ爲シ被告人ノ所爲ニ付府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第二百二十九條第九十八條第二項ヲ適用處斷シタリ然レトモ衆議院議員選舉法第九十八條第二項ノ律意ハ其ノ法文ノ措辭ニ徴シ明ナルカ如ク連續シテ個々ノ選舉人ニ對シテ面接スルヲ禁スルニ在リテ右判示ノ事實ニ依レハ被告人ハ選舉人タル藤澤快之介等十餘名ノ集會ノ席上ニ於テ集會者一同ニ對シ投票並選舉運動ヲ依頼シタルモノナルヲ以テ前記法條ニ牴觸スルモノニアラサルナリ(昭和三年(れ)第一〇二號事件同年三月五日御院刑事第二部言渡判決御參照)原判決ハ此ノ點ニ於テ擬律錯誤ノ違法アルモノト信ス尤モ其ノ後御院第一刑事部ハ昭和九年(れ)第六八二號事件ニ關シ同年十月八日言渡ノ判決ヲ以テ衆議院議員選舉法第九十八條ニ所謂投票ヲ得若ハ得シムル目的ヲ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ面接スル行爲ハ二人以上ノ選舉人ニ對シ順次ニ連續シテ個別的ニ應對シ投票ノ勸誘依頼若ハ之カ斡旋依頼等ヲ爲スニ依リテ行ハルルヲ常態ト爲スモ個別的ニ應接スル意圖ヲ以テ各個ニ認識シタル特定多數ノ選舉人ヲ集合セシメ其ノ席上ニ於テ一同ニ對シ投票ノ勸誘依頼若ハ之カ斡旋依頼ヲナス場合ハ個別的ニ連續シテ應接スル場合ト其ノ形式方法ヲ異ニスルモ個別的應接ノ要素ヲ具備シ且其ノ實質效果ニ於テ彼此相異ルコトナキヲ以テ等シク連續シタル個々面接ノ行爲ナリトストノ趣旨ヲ示サレタリト雖原判示ノ集會ハ前記摘錄ノ如ク原審相被告人喜

集會ノ席上ニ於ケル投票依頼ト個々面接

太郎同正吉及川口義造ニ於テ共謀ノ上開催シタルモノニ係リ被告人ハ唯單ニ右喜太郎ヨリノ招キニ應シテ之ニ出席シ偶共ノ席上ニ於テ參會者一同ニ面接シタルニ過キスシテ集會者ニ對シ個別的ニ面接スルノ意思ヲ以テ特定多數ノ選舉人ヲ集合セシメタルモノニアラサレハ當判決ハ寧ロ本論旨ヲ維持スル資料トモ目セラルヘキニヨリ茲ニ附言シ置クモノナリト云フニ在レトモ

【要旨】

一見直ニ個別認識ヲ爲シ得ル程度ノ特定ノ選舉人ノ集合セル席上ニ於テ一同ニ對シ投票ノ依頼又ハ之カ斡旋依頼ヲナスハ右選舉人ヲ自ラ集合セシメタルト他人カ集合セシメタルトヲ問ハス實質上簡易ノ方法ニ依リ個々面接ヲ爲シタルニ外ナラサルヲ以テ衆議院議員選舉法第九十八條第二項ニ該當スルモノトス本件ニ於テ判示選舉人藤澤快之介外十名ヲ判示場所ニ集合セシメタルハ被告人ニ非スシテ原審相被告人和泉喜太郎 和泉正吉等ナリト雖被告人カ一見直ニ個別認識ヲナシ得ル程度ノ判示特定ノ選舉人ノ集合セル席上ニ於テ一同ニ對シ判示ノ如ク投票並選舉運動ヲ依頼シタルモノナルカ故ニ個々面接シテ選舉運動ヲナシタルモノト云フヲ得ヘク原判決カ判示法條ヲ適用處斷シタルハ正當ナリ所論昭和三年(レ)第一〇二號ノ判例ハ本件事案ト基本タル事實關係ヲ異ニシ本件ヲ判斷スルニ付適切ナル前判例ト爲スニ足ラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事秋山要關

○公務執行妨害傷害脅迫被告事件

(昭和十一年(レ)第二六九號
同年四月十三日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 河野製裝松 辯護人 工藤精二

【第一】 大分區裁判所 【第二審】 大分地方裁判所

○判示事項

第一審關與檢事ト附帶控訴

○判決要旨

第一審關與檢事力自ラ控訴ヲ爲サスシテ第二審ニ立會シタル場合ニ於テモ附帶控訴ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第三百七十六條 上訴ハ檢事又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得
同法第三百九十九條 控訴裁判所ノ檢事ハ辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

第一審關與檢事ト附帶控訴

○事實

第二審ニ於テハ被告人ニ對シ公務執行妨害傷害脅迫ノ事實ヲ認定シ有罪ノ判決ヲ爲シタリ
 尙第一審ニ於テ檢事森山良ハ被告人ニ對シ公判ヲ請求シ檢事徳田基ハ第一審公判ニ立會シ被告人ハ第一審カ懲役三月ヲ言渡シタル有罪判決ニ對シ控訴ヲ申立テ第二審公判ニ於テハ檢事森山良立會シ附帶控訴ヲ申立テ第二審ハ被告人ヲ懲役四月ニ處シタルモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却

○理由

辯護人工藤精二上告趣意書第一點一、第一審裁判ノ審理竝ニ判決ニ關與シタル檢事カ其ノ判決ニ對シ不服ヲ持チナカラ自ラ主タル控訴ヲ爲サスシテ同一檢事カ被告人ノ控訴シタル控訴審裁判ニ關與シテ「原審ノ判決輕キニ失ス」トノ理由ニ基キ附帶控訴ノ申立ヲ爲スハ刑事訴訟法第三百七十六條ヲ無視シ且同法第三百九十九條ノ立法精神ノ特異性ヲ蹂躪スルモ甚シキモノニシテ而モ其ノ附帶控訴ニ基キ控訴審裁判所カ第一審判決ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル本件原審判決ハ違法ナリ刑事訴訟法第三百九十九條カ控訴審檢事ニ限り附帶控訴ヲ爲シ得ルノ特殊ノ權限ヲ認ムルノ理由ハ「新タニ控訴審裁判ニ關與スルノ檢事ハ訴訟記録送付ヲ受クル前事件ノ内容ヲ考査スルコトナキヲ以テ獨立シテ同法第三百七十

六條ニ基キ控訴ヲ爲スヲ得ス」故ニ新タニ事件ノ審理ニ著手スル控訴審檢事カ其ノ送付ヲ受ケタル事件ニ付キ一審判決ヲ不當トシ一審判決ヨリ重キ刑ヲ要求スルノ必要アルトキ附帶控訴ヲ爲スニ非ザレハ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルノ故ヲ以テ制定セラレタル點ニ於テハ學界ニ異説ナク從ツテ控訴審ニ於テ其ノ事件ノ審理ニ新タニ關與スル檢事ノ場合ニ於テ同條ニ依ル附帶控訴ハ其ノ必要ヲ生スルモノニシテ茲ニ始メテ同條ノ特異性ヲ發見シ得ルモノナリ故ニ第一審ノ審理及判決ニ關與シタル檢事カ同一事件ニ付キ控訴審檢事トシテ其ノ審理ニ關與スル如キ場合ニハ被告ニ不利益ナル附帶控訴ノ申立ハ爲シ得サルモノナリ二、若シ第一審關與ノ檢事カ其ノ儘同一事件ニ付キ第二審裁判ニ關與シタル場合ヲ考察シ實質的ニハ同一人タリト雖形式的ニハ地位ヲ異ニシテ審理ニ關與スルモノナルカ故主タル控訴ヲ爲ササリシトスルモ第二審檢事ノ地位ニ於テ附帶控訴ヲ爲シ得ヘキモノナリトノ形式論ヨリ觀察シ考フルトキハ恰モ斯様ナ場合ニ於ケル檢事ニノミ例令檢事カ過失其ノ他一旦控訴ヲ斷念拋棄シタルニ因リ主タル控訴ヲ爲ササリシトスルモ附帶控訴權ヲ尙自由ニ活用シ得ルモノナリトナル斯クセハ法ハ徒ラニ斯様ナ場合ニ於ケル檢事ノ立場ヲ擁護シ遂ニハ刑事訴訟法第三百七十六條ト同法第三百九十九條トハ斯ル如キ場合ニ於ケル檢事ノ自由意思ニ依ツテ選擇適用シ得ルノ状態ヲ現出スルモノニシテ斯クテハ同法第三百九十五條ニ定ムル控訴提起ノ不變期間ハ斯様ナ場合ノ檢事ニ就テハ殆ント無用ノ法規ト化スルモノナリ何トナレハ附帶控訴モ亦控訴審檢事特有ノ控訴權ナレハナリ敘上ノ事由ヨリ

本件ヲ按スルニ原審大分地方裁判所ノ本件ニ於ケル審理及判決ニ關與シタル檢事ハ檢事森山良ニシテ又第一審大分區裁判所ノ審理及判決ニ關與シタル檢事モ亦同人ナリ而モ第二審裁判ノ審理ニ當リ「第一審判決ノ刑輕キニ失ス」トノ理由ニ因リ附帶控訴ヲ爲シタル者モ同檢事ニシテ此ノ附帶控訴ニ基キ原審大分地方裁判所カ第一審判決懲役三月ヲ輕キニ失スト爲シ懲役四月ト判決シタル點及本件控訴ハ被告人控訴ヲ爲シタル點等ハ訴訟記録ニ明確ナル處ナリト云フニ在レトモ

記録ニ徵スルニ第一審ノ立會檢事ハ徳田基第二審ノ立會檢事ハ森山良ニシテ同一人ニ非ス檢事森山良ハ唯公判ヲ請求シタルニ過キサレコト明白ニシテ論旨所論ハ事實ニ吻合セサルノ失當アルノミナラス刑事訴訟法第三百七十六條ハ檢事又ハ被告人ハ上訴ヲ爲スコトヲ得ト規定シタルニ止マリ必ス上訴ヲ爲スヘキコトヲ命シタルニ非ス檢事ハ第一審判決ノ科刑ニ多少ノ不服アルモ上訴ヲ爲ササルコトヲ得ヘク又同法第三百九十九條ハ控訴審ノ檢事ハ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ノ申立ヲ爲スコトヲ得ト規定シ他ニ何等ノ制限アルコトナケレハ苟クモ控訴審ノ立會檢事タル以上口頭辯論ノ終結ニ至ル迄ハ附帶控訴ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノト謂フヘク所論ノ如ク第一審ノ關與檢事カ控訴申立ヲ爲サスシテ同一事件ノ控訴審ニ立會ヒタル場合ニ於テハ附帶控訴ノ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノト解スヘカラス然レハ本件ニ付第一審ニ起訴ヲ爲シタル檢事森山良カ第二審ノ口頭辯論中ニ於テ附帶控訴ノ申立ヲ爲シタル以上其ノ申立ハ固ヨリ正當ニシテ原判決カ右申立ニ基キ被告人ニ對シ第一審ヨリ重キ刑ヲ

【要旨】

言渡シタレハトテ之ヲ違法ト稱スヘキニ非ス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事棚町丈四郎關與

○常習賭博被告事件 (昭和十一年(九)第二八五號 同年四月十三日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 矢頭市郎

【第一審】 小倉區裁判所 【第二審】 福岡地方裁判所

○判示事項

鬪鷄及チーハー賭博ノ常習者ト骨牌使用ニ依ル賭博

○判決要旨

鬪鷄及チーハー賭博ノ常習者ト骨牌使用ニ依ル賭博

鬮鷄及チーハー賭博ノ常習者カ骨牌使用ニ依ル賭博ヲ爲シタルト
キモ常習賭博ヲ以テ論スヘキモノトス

【參照】 刑法第百八十六條第一項 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲タル者ハ三年以下ノ
懲役ニ處ス

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役四月ニ處ス但シ第一審ニ於ケル未決
勾留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入ス押收ニ係ル證第三號(骨牌四十八枚)同第四號(現金二十七圓三
十錢)ハ各之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ常習トシテ昭和十年七月二十日若松市老松町三丁目中西次郎平方ニ於テ同人外二名ト前後約二十回ニ互リ金
錢ヲ賭シ骨牌ヲ使用シ俗ニ「前出」ト稱スル博奕ヲ爲シタルモノナリ

而シテ被告人ハ昭和八年七月十三日福岡地方裁判所ニ於テ賭博開張罪ニ依リ懲役六月ニ處セラレ其ノ後昭和九年勅令
第十九號ニ依リ四月十五日ニ變更セラレ當時其ノ刑ヲ執行ヲ終リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告ノ判示所爲ハ刑法第百八十六條第一項ニ該當スルトコロ前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第五十
七條ニ則リ累犯ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ニ對シ主文ノ刑ヲ量定處斷シ同法第二十一條ヲ適用シテ原
審ニ於ケル未決勾留日數ノ一部ヲ右本刑ニ算入スヘク押收ニ係ル證第三號骨牌ハ本件犯行ニ供シタルモノ證第四號現
金二十七圓三十錢ハ本件犯行ノ賭錢ニシテ孰レモ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條ニ則リ各之ヲ沒收スヘ
キモノトス

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

被告人上告趣意書原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由存ス原判決ハ被告人カ
昭和十年七月二十日若松市老松町中西治郎平方ニ於テ同人外二名ト共ニ花札ヲ使用シテ前出シト稱ス
ル賭博ヲ爲シタル事實ヲ認メ被告人以外ノ者ノ内ニハ前科アルニ不拘單純賭博トシテ罰金刑ヲ科シタ
ルモ被告人ニ對シテハ賭博幫助及賭博開張ノ前科ヲ捉ヘテ常習賭博トシテ體刑ヲ以テ處斷セラレタリ
然レトモ賭博幫助罪ハ大正九年六月ノ受刑ニシテ已ニ十數年前ノ前科ニ屬スルカ故ニ此ノ受刑ヲ以テ
常習賭博ノ認定資料トセラルルコトハ甚シク不當ナリ且昭和九年ノ鬮鷄賭博ハ被告人方ニ日頃出入ス
ル大坪某 松崎某カ被告人名義ヲ冒用シテ各地ノ賭者ニ參集方ノ通知狀ヲ發シタルモノニシテ被告人
ハ賭場ニ立寄りタルコトナク又賭錢ヲ爲シタルコトナキニ不拘裁判所ハ被告人ニ賭博罪ヲ認メタルモ
ノナリ從テ右ノ如キ前科ハ常習賭博ノ認定資料トナラス更ニ本件賭博ハ記錄ニ明ナルカ如ク一錢掛賭
博ニシテ全ク娛樂ニ近キモノナレハ其ノ犯情極メテ輕ク現ニ本件ノ賭者ノ内ニハ前科アル者ニ對シテ
罰金刑ヲ以テ臨マレタルカ如キ有様ナリ最後ニ被告人ハ本件起訴收容以來社會ノ信用ヲ失ヒ從來生活
ノ資料ヲ得ツツ來レル勞力請負等芳我組ノ組小頭ノ職ヲ失ヒ只管自宅ニ引籠リテ謹慎シ生業ヲ探求セ

鬮鷄及チーハー賭博ノ常習者ト骨牌使用ニ依ル賭博

ル有様ニテ若シ實刑ヲ科セラルルニ於テハ全ク生業ヲ求ムルコト能ハス一家路頭ニ迷フ悲境ニ立至ルヘキ状態ニ在リ然ルニ原判決カ此ノ犯情竝境遇ヲ一顧セスシテ罰金刑ヲ以テ臨マレスシテ體刑ヲ科セラレタルハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリト信スルヲ以テ破毀ノ上更ニ御裁判ヲ願上候ト云フニ在レトモ

原判決ハ被告人カ昭和八年中ニ於テ賭場開張罪ノ前科アルコト及被告人ニ對スル檢事聽取書中「被告人ハ鬪鷄賭博ニ付取調ヲ受ケ尙「チーハー」ニモ關係シ居リ云々」ノ供述記載及參考記録中小林敬二三明安春ニ對スル各檢事聽取書中ノ昭和七年六、七月頃ヨリ同年十二月頃迄被告人ハ「チーハー」ノ胴親トナリ居リタル旨ノ各供述記載等ニ依リ被告人ハ賭博常習者ナル事實ヲ認定シタルモノニシテ所論ノ如ク大正九年中ノ賭博幫助罪ノ前科ニ依リ右事實ヲ認定シタルモノニ非サルカ故ニ此ノ點ニ關スル論旨部分ハ其ノ理由ナシ而シテ右賭場開張ノ前科ハ（論旨ニハ昭和九年ノ鬪鷄賭博云々トアルモ其ノ昭和九年トアルハ昭和八年中ノ誤記ニシテ又鬪鷄賭博トアルハ鬪鷄ニ依ル賭場開張ノ右前科ヲ指稱スルモノト解ス）所論ノ如ク鬪鷄賭博ニ關スルモノニ係リ「チーハー」賭博ト同様孰レモ本件犯罪行為タル骨牌使用ノ前出ト稱スル博奕トハ其ノ方法ヲ異ニスルモ紋上證據ニ依レハ被告人ハ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲スコトヲ好ミ且其ノ習癖アルコトヲ認ムルニ難カラス既ニ被告人ニ賭博ノ習癖アルコトヲ認ムル以上縱令本件ハ骨牌使用ノ賭博ニシテ其ノ方法ヲ異ニスト雖被告人ハ

【要旨】

刑法第八十六條第一項ニ所謂常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタルモノト爲スヘキヲ以テ原判決カ右ノ事實ヲ認定シ常習賭博ヲ以テ論シ被告人ヲ懲役四月ニ處シタルハ違法ニ非ス而シテ記録ニ徴スルモ原判決ノ量刑甚シク不當ナリト思料スルヲ得サルヲ以テ論旨ハ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事棚町丈四郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十年(九)第一八七一號 破毀自判)

【上告人】 宇都宮地方裁判所檢事正

【被告人】 高橋 房二

【第一審】 宇都宮區裁判所 【第二審】 宇都宮地方裁判所

○判示事項

町村ノ區長ト選舉事務ニ關係アル吏員

町村ノ區長ト選舉事務ニ關係アル吏員

○判決要旨

町村制第六十八條ノ規定ニ依リ選任セラレタル町村ノ區長ハ衆議院議員選舉法第九十九條第二項ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ニ屬ス

【參照】 町村制第六十八條 町村ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

區長及其ノ代理者ハ名譽職トス町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ第六十三條第二項乃至第五項ノ規定ヲ準用ス

同法第八十一條 區長ハ町村長ノ命ヲ承ケ町村長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス
衆議院議員選舉法第九十九條 選舉權ヲ有セサル者ハ選舉事務長又ハ選舉委員ト爲ルコトヲ得ス

選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

○事實

第二審判決ハ左記ノ如ク證據ニ依リ事實ヲ認メタルモ町村ノ區長ハ衆議院議員選舉法第九十九條第二項ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ニ非サルヲ以テ右事實ハ罪ト爲ラストノ理由ノ下ニ被告人ニ對シ無罪ノ宣告ヲ爲シタリ

本件公訴事實ハ被告人ハ栃木縣河内郡國本村第十區(大字寶木字西岡・山崎・六軒)ノ區長(ニシテ昭和十年九月二十二日施行ノ同縣會議員選舉ニ付選舉事務ニ關係アル吏員)ナルトコロ右選舉ニ當リ同郡選舉區ヨリ立候補シタル岩崎長一ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十八日頃被告人外十名ノ連署ニ係ル右候補ノ推薦狀ヲ前期第十區内ノ選舉人阿久津正壽外四十四名ニ郵送シ以テ選舉事務ニ關係アル吏員ナルニ拘ラス其ノ關係區域内ニ於テ選舉運動ヲ爲シタルモノナリト謂フニ在リテ被告人カ町村制第六十八條ノ規定ニ依リ居村第十區區長ニ選任セラレタルモノナルコトハ本件記録中ノ國本村長高橋左京ノ檢事ニ對スル回答書ニ徵シ明白ニシテ被告人カ其ノ區内ニ於テ公訴事實記載ノ如ク推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲シタルコトハ被告人ノ當公庭ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニヨリ之ヲ認ムルニ十分ナリトス

仍テ被告人ノ右所爲カ府縣會議員選舉罰則ニ違反スルモノナリヤ否ヲ按スルニ府縣制第三十九條ニ依リ府縣會議員ノ選舉ニ準用セララル衆議院議員選舉法第九十九條第二項ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員トハ同法第八條府縣制第六條第五項所定ノ場合ト同シク法令ニ依リ當局者トシテ選舉ニ關スル事務ヲ處理スヘキ職務權限ヲ有スル吏員ヲ指稱スルモノニシテ斯ル職務權限ヲ有セサル吏員ハ假令斯ル職務權限ヲ有スル吏員ノ指揮命令ノ下ニ選舉ニ關スル機械的勞務ニ從事シ之ヲ補助スルコトアリトスルモ右法條ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ナリト謂フヲ得ス而シテ町村長ハ府縣會議員ノ選舉ニ關シテハ府縣制第九條町村制第十八條ニ依リ選舉人名簿ヲ作成處理スヘキ職務權限ヲ有シ町村制第七

町村ノ區長ト選舉事務ニ關係アル吏員

十二條第二項第六號府縣制第十四條ニ依リ投票管理者ト爲リ投票ニ關スル事務ヲ擔任處理スヘキ職務權限ヲ有スル吏員ニシテ町村助役ハ町村制第七十九條ニ依リ當然町村長ノ事務ヲ補助シ町村長故障アルトキ之ヲ代理スヘキ職務權限ヲ有シ從テ前示選舉人名簿ノ作成投票管理ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助シ又ハ代理スヘキ職責ヲ有スル吏員ナレハ兩者ハ何レモ所謂選舉事務ニ關係アル吏員タルコトハ疑無キトコロナリ然リト雖モ町村制第六十八條ニ依リ選任セラレタル區長又ハ其ノ代理者ハ町村自治ノ事務處理ノ便宜上設ケラレタル名譽職タル吏員ニシテ其ノ職務ハ町村制第八十一條ニ規定スル如ク町村長ノ指揮命令ノ下ニ町村長ノ事務ニシテ其ノ區内ニ關スルモノヲ補助スルニ過キサルヲ以テ町村長又ハ助役ノ如ク當局者トシテ選舉人名簿ノ作成投票ノ管理等總テ府縣會議員ノ選舉ニ關スル事務ヲ擔任處理スヘキ職務權限ヲ有セサルハ言フ俟タス況ンヤ事務ノ性質ヨリ觀ルモ府縣會議員ノ選舉ニ關スル町村長ノ事務ノ如キハ固ヨリ町村自治體固有ノ事務ニアラスシテ府縣制町村制等ノ法令ニヨリ町村長ニ委任セラレタル府縣ノ事務ニ外ナラス從テ前示町村制第八十一條ニ所謂區内ニ關スル町村長ノ事務ニアラサルコト明白ナルニ於テオヤ尤モ區長又ハ其ノ代理者カ町村役場ノ委任ヲ受ケ投票場ノ入場券ヲ町村役場ヨリ受取り之ヲ區内ノ各選舉人ニ自ラ配付シ若クハ他ノ方法ニ依リテ配付スルコトアルハ往々目撃スルトコロナレトモ此ハ我國各地ニ於テ便宜上行ハレ來リシ慣行ニシテ選舉事務ニ付何等ノ職務權限ナキ傭人カ之ヲ配付スルト毫モ異ルトコロナシ從テ右慣行アルノ故ヲ以テ區長又ハ其ノ代理者ニ選舉事務ニ關與シ之ヲ處理スヘキ職務權限アリト爲スコトヲ得ス左レハ府縣會議員ノ選舉ニ付テハ町村制第六十八條ニ依リ選任セラレタル區長又ハ其ノ代理者ハ府縣制第六條第五項前示選舉法第八條及第九十九條第二項ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ニ該當セサルモノト解スルヲ相當トス然ラハ府縣會議員ノ選舉ニ當リ區長又ハ其ノ代理者ハ其ノ區内ニ於テ被選舉權ヲ有スルハ勿論ニシテ又議員候補者選舉事務長選舉委員等ノ法定ノ選舉運動者ニ非サル一般第三者ニ許サレタル推薦狀ニ依ル選舉運動ノ如キハ區長又ハ其ノ代理者モ亦其ノ區内ニ於テ自由ニ之ヲ爲シ得ルモノト

謂ハサルヘカラサルヲ以テ被告人ノ爲シタル前示推薦狀ニ依ル選舉運動ノ所爲ハ法律上罪ト爲ラサルニ依リ刑事訴訟法第三百六十二條ニ從ヒ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス

右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ十五日間勞役場ニ留置ス

○理 由

宇都宮地方裁判所檢事正加藤治之丞上告趣意書本件公訴事實ハ被告人ハ栃木縣河内郡國本村第十區ノ區長ニシテ昭和十年九月二十二日施行ノ同縣會議員選舉ニ付選舉事務ニ關係アル吏員ナルトコロ右選舉ニ當リ同郡選舉區ヨリ立候補シタル岩崎長一ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十八日頃被告人外十名ノ連署ニ係ル右候補者ノ推薦狀ヲ前記第十區内ノ選舉人阿久津正壽外四十四名ニ郵送シ以テ選舉事務ニ關係アル吏員ナルニ拘ラス其ノ關係區域内ニ於テ選舉運動ヲ爲シタルモノナリト謂フニ在ル處當裁判所ハ被告人カ町村制第六十八條ノ規定ニ依リ居村第十區長ニ選任セラレタルモノナルコト竝ニ被告人カ其ノ區内ニ於テ右公訴事實ノ如ク推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲シタル事實ヲ認定シタルモ右ノ町村區長ハ法ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ニ非ストシテ無罪ノ判決ヲ爲シタリ其ノ理由トシテ府縣制

町村ノ區長ト選舉事務ニ關係アル吏員

第三十九條ニ依リ府縣會議員選舉ニ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十九條第二項ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員トハ同法第八條府縣制第六條第五項所定ノ場合ト同シク法令ニ依リ當局者トシテ選舉ニ關スル事務ヲ處理スヘキ職務權限ヲ有スル吏員ヲ指稱スルモノニシテ斯ル職務權限ヲ有セサル吏員ハ假令斯ル職務權限ヲ有スル吏員ノ指揮命令ノ下ニ選舉ニ關スル機械的勞務ニ從事シ之ヲ補助スルコトアリトスルモ右法條ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ト謂フヲ得ス而シテ町村長ハ府縣會議員ノ選舉ニ關シテハ府縣制第九條町村制第十八條ニヨリ選舉人名簿ヲ作成處理スヘキ職務權限ヲ有シ町村制第七十二條第二項第六號府縣制第十四條ニ依リ投票管理者ト爲リ投票ニ關スル事務ヲ擔任處理スヘキ職務權限ヲ有スル吏員ニシテ町村助役ハ町村制第七十九條ニ依リ常時町村長ノ事務ヲ補助シ町村長故障アルトキ之ヲ代理スヘキ職務權限ヲ有シ從テ前示選舉人名簿ノ作成投票管理ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助シ又ハ代理スヘキ職責ヲ有スル吏員ナレハ兩者ハ何レモ所謂選舉事務ニ關係アル吏員タルコトハ疑無キトコロナリ然リト雖町村制第六十八條ニ依リ選任セラレタル區長又ハ其ノ代理者ハ町村自治ノ事務處理ノ便宜上設ケラレタル名譽職タル吏員ニシテ其ノ職務ハ町村制第八十一條ニ規定スル如ク町村長ノ指揮命令ノ下ニ町村長ノ事務ニシテ其ノ區内ニ關スルモノヲ補助スルニ過キササルヲ以テ町村長又ハ助役ノ如ク當局者トシテ選舉人名簿ノ作成投票ノ管理等總テ府縣會議員ノ選舉ニ關スル事務ヲ擔任處理スヘキ職務權限ヲ有セサルハ言フ俟タス況ヤ事務ノ性質ヨリ觀ルモ府縣會議員ノ選舉ニ關スル

町村長ノ事務ノ如キハ固ヨリ町村自治體固有ノ事務ニアラスシテ府縣制町村制等ノ法令ニ依リ町村長ニ委任セラレタル府縣ノ事務ニ外ナラス從テ前示町村制第八十一條ニ所謂區内ニ關スル町村長ノ事務ニアラサルコト明白ナルニ於テオヤ尤モ區長又ハ其ノ代理者カ町村役場ノ委任ヲ受ケ投票場ノ入場券ヲ町村役場ヨリ受取り之ヲ區内ノ名選舉人ニ自ラ配付シ若クハ他ノ方法ニ依リテ配付スルコトアルハ往々目撃スルトコロナレトモ此ハ我國各地ニ於テ便宜上行ハレ來リシ慣行ニシテ選舉事務ニ付何等ノ職務權限ナキ傭人カ之ヲ配付スルト毫モ異ルトコロナシ從テ右慣行アルノ故ヲ以テ區長又ハ其ノ代理者ニ選舉事務ニ關與シ之ヲ處理スヘキ職務權限アリト爲スコトヲ得ス左レハ府縣會議員ノ選舉ニ付テハ町村制第六十八條ニ依リ選任セラレタル區長又ハ其ノ代理者ハ府縣制第六條第五項前示選舉法第八條及第九十九條第二項ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ニ該當セサルモノト解スルヲ相當トス然ラハ府縣會議員ノ選舉ニ當リ區長又ハ其ノ代理者ハ其ノ區内ニ於テ被選舉權ヲ有スルハ勿論ニシテ又議員候補者選舉事務長選舉委員等ノ法定ノ選舉運動者ニ非サル一般第三者ニ許サレタル推薦狀ニ依ル選舉運動ノ如キハ區長又ハ其ノ代理者モ亦其ノ區内ニ於テ自由ニ之ヲ爲シ得ルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ被告人ノ爲シタル前示推薦狀ニ依ル選舉運動ノ所爲ハ法律上罪ト爲ラサルニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノナリト判示シタリ然レトモ衆議院議員選舉法第九十九條第二項ニ所謂選舉事務ニ關係アル官吏吏員トハ當然ノ職務トシテ現實ニ選舉事務ヲ處理スルモノノミニ限ルヘキニ非スシテ法制上其ノ

事務ニ從事シ得ル職務権限ヲ有シ必要ニ應シテ其ノ事務ニ從事シ得ル官吏吏員ヲモ指稱スルモノト解スヘキモノナリトス町村制第六十八條ノ區長及其ノ代理者(市制第八十二條ノ區長モ亦同シ)ハ其ノ當然ノ職務権限トシテ所謂當局者トシテ選舉ニ關スル事務ヲ處理スルモノニ非サルモ町村制第八十一條(市制第百條)ニ依リ區長ハ町村長ノ命ヲ承ケ町村長ノ事務ニシテ其ノ區内ニ關スルモノヲ補助スル職務権限ヲ有スルモノニシテ其ノ處理スヘキ事務ニ付制限スルトコロナシ即チ選舉人名簿ノ調製ニ付キ區内選舉人ノ調査ヲ爲シ或ハ區内選舉人ニ入場券ノ配布ヲ爲スカ如キ又町村制第十四條ニ依リ町村カ區劃ヲ定メテ投票分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ同法第二十條第二項ニ依リ同區長ヲシテ投票分會長タラシメ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任セシメ得ヘク市制第十七條第二十三條第三項)府縣制第十五條第四項ニヨリ數投票區ヲ設ケタル場合ニ於テ同法施行令第三條第一號ニ依リ町村吏員ヲシテ投票管理者タラシムル場合ニ於テモ町村區長カ之ニ任スルコトアルヘキモノニシテ町村區長ハ法令ノ規定ニ依リ選舉事務ニ從事スヘキ吏員ナリ町村助役カ町村制第七十九條ニ依リ町村長ノ事務ヲ補助シ町村長故障アルトキハ之ヲ代理スヘキ職務権限ヲ有シ選舉事務ニ關係アル吏員ナルコト明カナリ而シテ助役モ亦補助者タル以上町村長ノ正當ナル命令ニ從ハサルヲ得サルヘク之ヲ代理スル場合ニ於テハ町村長ニ故障アルコトヲ條件トスルモノナレハ町村區長カ町村長ノ命ヲ承ケ且之ヲ條件トシテ其ノ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助スル關係ト何等異ルコトナク其ノ事務ノ量ニ於テハ助役ノ場合ト自ラ差等アル

ヘキモノ其ノ事務補助ノ性質ニ於テハ其ノ間何等ノ逕庭アルモノト云フヲ得サルヘシ府縣會議員選舉ニ關スル町村長ノ事務カ町村自治體固有ノ事務タルト府縣制ニ依リ町村長ニ委任セラレタル事務ナルトニ依リ其ノ之カ補助者ヲ使用乃至指揮命令スルニ付何等ノ制限アルコトナシ從テ町村區長カ府縣會議員選舉ニ關スル町村長ノ事務ノ補助ヲ爲シ得サルノ理由ナキモノトス投票場ノ入場券ヲ選舉人ニ配布スルハ選舉ヲ適正ニ執行センカ爲ニ行フモノニシテ町村長ノ選舉事務ノ一部ナリ町村長カ之ヲ區長ニ委任シ區長ニ於テ區内選舉人ニ配布スルハ即チ區長ハ町村長ノ命ヲ承ケ現實ニ選舉事務ニ從事シタルモノナリ之ヲ便宜上行ハレ來リシ慣行上ノ機械的勞務ニシテ傭人ノ配布スルト毫モ異ルトコロナシト視ルヘキモノニアラス右理由ニ依リ町村區長モ亦町村長ノ命ヲ承ケ必要ニ應シテ選舉事務ニ從事シ得ル抽象的權限ヲ有スルモノニシテ且區長ノ多クハ地方名望家又ハ有力者ニシテ選舉事務ニ關シ實際上諸種ノ補助ヲ爲ス地位ニアルモノナレハ之カ選舉運動ヲ禁止スルハ町村長助役等ノ場合ト同様選舉ノ公正ヲ維持スル上ニ極メテ緊要ナルモノニシテ實際上ノ取締例亦全國其ノ軌ヲ一ニシ町村區長ノ區内選舉運動ヲ禁止シ來レルモノナリ之ヲ衆議院議員選舉法第九十九條第二項ノ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ノ範圍外ト見ルヘキ何等ノ理由存セス町村區長カ其ノ區内ニ於テ演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シタル場合ノ弊害ヲ考慮スルトキニハ思ヒ半ニ過クルモノアルヘシ以上ノ理由ナルヲ以テ當裁判所カ町村區長ヲ選舉事務ニ關係アル吏員ニ非スト解シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタル法令違反ノ

判決ナリト思料候條破毀ノ上更ニ相當判決相成ルヘキモノナリト思料候也ト云フニ在リ

【要旨】

仍テ審按スルニ衆議院議員選舉法第九十九條第二項ニ所謂選舉事務ニ關係アル官吏及吏員トハ法律上當然ノ職務トシテ現實ニ選舉事務ヲ執行シ又ハ之ヲ補助スル權限ヲ有スル者ノミニ限ラス苟モ法律上選舉事務ニ關與シ得ヘキ職務ヲ有スル者ヲモ包含指稱スルモノト解スルヲ相當トス蓋シ同條カ選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ヲシテ其ノ關係區域内ニ於テ選舉運動ヲ爲スコトヲ得サラシメタルハ此等選舉事務ニ關係アル職務ヲ有スル者ヲシテ其ノ關係區域内ニ於テ自ラ選舉運動ニ從事スルコトヲ得シムルトキハ一般選舉人ヲシテ其ノ選舉ノ公正ニ執行セラレサルコトノ疑念ヲ抱カシムル虞アリテ選舉ノ公正ヲ維持スルコトヲ得サルニ因ルモノニシテ而モ其ノ選舉運動ニ因リ右ノ如キ疑念ヲ抱カシムル虞アルコトハ該選舉運動カ右法律上當然ノ職務トシテ現實ニ選舉事務ヲ執行シ又ハ之ヲ補助スル者ニヨリテ爲サルト單ニ法律上選舉事務ニ關與シ得ヘキ職務ヲ有スル者ニヨリテ爲サルトニ依リ異ル所ナキヲ以テナリ然リ而シテ町村制第六十八條ノ規定ニ依リ選任セラレタル町村ノ區長ハ同第八十一條ニ依リ町村長ノ命ヲ承ケ町村長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助執行スヘキ職務ヲ有スルモノナルカ故ニ選舉事務ニ付テモ亦町村長ノ命ヲ承ケ必要ニ應シテ之カ補助執行ヲ爲シ得ル職責アルモノナルヲ以テ該區長モ亦府縣制第三十九條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十九條第二項ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員中ニ包含セラルルモノト云ハサルヘカラス然レハ原判決カ右町村ノ區長ハ右

選舉事務ニ關係アル吏員ニ非ストノ見解ヲ採リ被告人ニ對シ無罪ノ宣告ヲ爲シタルハ法律上ノ解釋ヲ誤リタル法令違反ノ判決ニシテ破毀ヲ免レス論旨ハ其ノ理由アリ而モ右ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ボササル法令ノ違反ナルヲ以テ當院自ラ判決ヲ爲スヘキ場合ナリトス

仍テ原判決カ證據ニ基キ是認シタル公訴事實ヲ法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第三百三十一條第九十九條第二項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ被告人ヲ十五日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

仍テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○收賄被告事件(昭和十一年(九)第四七號 棄却)

(昭和十一年四月十四日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 垣花武福 辯護人 (小山吾郎一 小山清彦)

【第一審】 那霸地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

競争入札ニ依ル請負ト村長ノ收賄罪

○判決要旨

村長力其ノ管理ニ係ル學校ノ建築工事ニ關シ競争入札ニ依リ請負人ヲ定メタル場合ト雖其ノ請負ニ付金員ノ供與ヲ受ケタルトキハ收賄罪ヲ構成ス

【參照】 刑法第九十七條第一項 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人武福ヲ懲役六月ニ處ス但シ未決勾留日數中七十日ヲ右本刑ニ算入ス被告人ヨリ金二千圓ヲ追徴ス(訴訟費用負擔ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタ

第一 被告人垣花武福ハ沖繩縣宮古郡下地村村長トシテ村内各小學校役場等ノ建築ニ關シ請負契約ノ締結工事ノ監督請負金ノ拂渡等ノ職務ヲ有スルモノナルトコロ

(一) 昭和四年十月頃其ノ管理ニ係ル同村下地 新里二小學校ノ改築工事ヲ相被告人山口森清ニ請負ハシメタルカ同被告人ニ該工事ヲ請負ハシムル又ハ請負ハシメタル報酬トシテ同人ヨリ

(イ) 其ノ頃原審相被告人井上清太郎ノ手ヲ經テ那霸市西本町榮興旅館ニ於テ金三百圓

(ロ) 同年十一月中旬頃右井上清太郎 西原雅一ノ手ヲ經テ被告人武福ノ肩書居宅ニ於テ金五百圓

(ハ) 昭和五年四月頃同縣同郡平良町春水旅館ニ於テ金百五十圓ノ各交付ヲ受ケ

(二) 昭和五年六月頃其ノ管理ニ係ル下地村役場ノ改築工事ヲ相被告人山口森清ニ隨意契約ニ依リ請負ハシメタルカ當時森清ノ代理トシテ同工事ニ關スル會計其ノ他一切ノ事務ニ從事シ居タル原審相被告人帖佐源治ニ對シ同工事ヲ森清ニ請負ハシメタル報酬トシテ其ノ頃右源治ヨリ被告人武福ノ前居宅ニ於テ金百五十圓ノ交付ヲ受ケ

(三) 昭和七年四月頃其ノ管理ニ係ル同村下地 新里 來間三小學校ノ改築工事ヲ相被告人森清ニ請負ハシメタルカ同被告人ニ右工事ヲ請負ハシムル又ハ請負ハシメタル報酬トシテ同人ヨリ右井上清太郎ノ手ヲ經テ

(イ) 其ノ頃前記榮興旅館ニ於テ金百圓

(ロ) 同年六月頃下地村ニ於テ金八百圓

ノ各交付ヲ受ケ

以テ其ノ職務ニ關シテ賄賂ヲ收受シ

競争入札ニ依ル請負ト村長ノ收賄罪

(中略)

五〇四 (三〇)

タルモノニシテ被告人垣花武福ノ收賄ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス
法律ニ照スニ被告人武福ノ收賄ノ所爲ハ刑法第九十七條第一項前段等五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ
選擇シ被告人ニ付其ノ所定期限範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定シ同法第二十一條ニ依リ被告人ニ對シ其ノ未決勾留日數
中主文掲記ノ如ク其ノ一部ヲ右本刑ニ算入スヘク被告人カ相被告人森清ヨリ交付ヲ受ケタル金二千圓ハ其ノ收受シタ
ル賄賂ニシテ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同法第九十七條第二項後段ニ則リ其ノ價額ヲ追徴スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人垣花武福辯護人小山吾郎一 小山清彦上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由中「昭和四年十月頃
其ノ管理ニ係ル同村下地新里小學校ノ改築工事ヲ被告人山口森清ニ請負ハシメタルカ同被告人ニ該工
事ヲ請負ハシムル又ハ請負ハシメタル報酬トシテ云々」トアリテ被告人山口森清ヨリ收受シタル金三
百圓金五百圓金百五十圓ハ該工事ヲ請負ハシムル報酬又ハ請負ハシメタル報酬ナルコトヲ認定セリ尙
又原判決ハ其ノ理由中「昭和七年四月頃其ノ管理ニ係ル同村下地新里來間三小學校ノ改築工事ヲ被告
人森清ニ請負ハシメタルカ同被告人ニ右工事ヲ請負ハシムル又ハ請負ハシメタル報酬トシテ云々」ト
アリテ被告人森清ヨリ收受シタル金百圓金八百圓ハ該工事ヲ請負ハシムル報酬又ハ請負ハシメタル報

酬ナルコトヲ認定セリ凡ソ收賄ノ罪ハ公務員又ハ仲裁人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルコトヲ要シ
其ノ職務ニ關セスシテ金員ヲ收受シタルヲ含マサルコト明ナリ從テ其ノ職務行爲ヲ以テ左右スルコト
ヲ得サル事實ノ成否ニ付金員ヲ收受シタルトスルモ官吏服務規律ヲ以テ問ハルルハ知ラス收賄罪ヲ以
テ處斷スヘキ限ニ在ラスト信ス本案ニ於ケル昭和四年十月頃ノ下地新里二小學校改築工事ノ請負契約
ハ被告人山口森清ト村長垣花武福トノ隨意契約ニ非スシテ競争入札ニ於テ被告人森清カ最低入札ヲ爲
シタル結果請負契約成立シタルモノナルコト竝昭和七年四月頃ノ同村下地新里來間三小學校ノ改築工
事ノ請負契約モ前同様競争入札ニ於テ山口森清カ最低入札ヲナシタル結果請負契約成立シタルモノナ
ルコトハ山口森清豫審第二回訊問調書井上清太郎豫審第二回訊問調書ニ依リテ明ナリ本件請負契約ニ
シテ隨意契約ナラハ被告人村長垣花武福ニ於テ隨意被告人森清ヲシテ工事ヲ請負ハシムル權限アリ從
テ該工事ヲ請負ハシメ以テ金員ヲ收受シタルニ於テハ原判決摘示ノ如ク工事ヲ請負ハシムル又ハ請負
ハシメタル報酬ナリト斷定セラレ得ヘシト雖事實ハ然ラサルナリ更ニ一步ヲ進メテ請負契約ノ成立カ
競争入札ノ結果ナリトスルモ右競争入札ニ加入スヘキモノヲ村長ニ於テ指定スヘキ權限アリトセハ右
競争入札ニ加入セシメタルコトハ「其ノ職務ニ關シ」タルコトトナリ從テ賄賂罪ヲ構成スヘキモ右競
争入札ノ加入ニハ一定ノ資格ヲ要スルノミニシテ村長ニ於テ指定スヘキ權限ナシ從テ賄賂罪ヲ構成ス
ヘキモノニ非ス以上ノ諸點ヨリ考覈スルニ被告人武福カ被告人森清ニ對シ昭和四年十月頃同村下地新

競争入札ニ依リ請負ト村長ノ收賄罪

五〇五 (三〇)

里二小學校ノ改築工事ヲ請負ハシメタル事實及昭和七年四月頃下地新里來間三小學校ノ改築工事ヲ請負ハシメタル事實ハ一定ノ結果(競争入札ノ結果)ヨリ當然ニ派生セル一ツノ事實ニシテ被告人武福ノ職務行為ノ結果ナリト斷スルヲ得テ該工事ヲ請負ハシムル報酬ナルモノノ存在スヘキ道理ナシ又引イテ請負ハシメタル報酬ナルモノ存在スヘキ理由ナシ昭和四年下地新里二小學校ノ改築ノ請負契約成立前ニ當リ被告人森清ヨリ被告人武福ニ供與シタル金三百圓ハ被告人森清カ自己ノ營業上ノ地盤ヲ擴メンカ爲廣告料捨金トモ斷スヘキモノニシテ其ノ後ノ二回ニ互ル金六百五十圓ノ供與ハ單ナル利益ノ分配ト解スヘキモノニシテ昭和七年下地新里來間三小學校ノ改築ノ請負契約成立前ニ當リ被告人森清ヨリ被告人武福ニ供與シタル金百圓ハ被告人森清カ自己ノ營業上ノ地盤ヲ擴メンカ爲ノ捨金ト斷スヘク其ノ後ニ供與シタル八百圓ハ單ナル利益ノ分配ト解スヘキモノナリ然ルニ原判決ハ此處ニ想到スルコトナク漫然右工事ヲ請負ハシムル又ハ請負ハシメタル報酬ナリト判斷シタルハ事實誤認擬律錯誤ノ違法アルモノナリト信スト云フニ在レトモ

【要旨】 村長ノ管理範圍ニ屬スル小學校ノ改築工事ニ關シ競争入札ノ方法ニ依リ請負人ヲ定ムル場合ト雖其ノ最低入札者ヲ請負人ト決定シテ之ト請負契約ヲ締結スルハ村長ノ職務權限内ノ事項ナルコト勿論ナルヲ以テ村長カ斯ル入札者ニ該工事ヲ請負ハシメタルコトニ付報酬トシテ金員ノ交付ヲ受クルカ如キハ即チ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受スルモノト判定セサルヲ得サルナリ故ニ本件ニ於テ被告人カ村長トシ

テ其ノ管理ニ係ル小學校ノ改築工事ヲ山口森清ニ請負ハシメタルコトニ關シ報酬トシテ金員ノ交付ヲ受ケタルコト原判決認定ノ如クナル以上其ノ請負カ競争入札ニ依レルト否トヲ問ハス收賄罪ノ成立ヲ來スヘキハ當然ナリト云フヘク原審カ如上ノ如キ事實ヲ認メテ之ニ刑法第九十七條第一項前段ヲ適用シタルハ相當ナルヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事黒川涉關與

○尊屬監禁致死被告事件 (昭和十一年(れ)第二七號 棄却)

(昭和十一年四月十八日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 小澤 一 直 辯護人 木村口 村 賢 志 行
 【第一審】 前橋地方裁判所

○判示事項

精神病者ノ監禁監禁致死ト刑法第二百二十一條

精神病者ノ緊縛監禁致死ト刑法第二百二十一條

○判決要旨

精神病者ノ全身ヲ四布掛布團ニ包ミ上ヨリ藁繩及兵兒帶ヲ以テ胸
膝及上胸部邊ヲ縛リ更ニ麻繩ニテ其ノ兩手首兩足首ヲ縛リ尙頭部
ニ四布掛布團ヲ蔽ヒ被セタル儘數時間放置シ因テ死ニ致シタル場
合ノ如キハ其ノ保護上必要ナル程度ヲ超越シタルモノニシテ刑法
第二百二十條第二百二十一條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

【參照】 刑法第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ
懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處
ス

同法第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較
シ重キニ從テ處斷ス

○事實

原審裁判所ハ陪審ノ答申ヲ採擇シ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第二百二十一條第二百二十條第二十條
第二百五條第二項ヲ適用シ被告人ヲ懲役三年ニ處ス但未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入ス押收品

ハ全部之ヲ沒收ス陪審以外ノ訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ實母りん(當六十八年)カ二十數年前ヨリ強度ノヒステリー症ヲ患ヒ一時平靜ヲ保チタルコトアリシモ昭和
九年一月ヨリ再發シ器物ヲ投ケ付ケ或ハ農作物ヲ荒ス等ノ惡戲ヲ爲スコト屢ナリシニ困リ果テ何時カハ實母ヲ痛ク懲
シメント思惟スルニ至レル折柄昭和十年八月三日午前十時頃同女ト口論ヲ爲シタル結果茲ニ愈右實母ヲ縛シテ十分ニ
懲戒ヲ加ヘムコトヲ決意シ同日午後八時頃肩書自宅ノ奥八疊ノ間ニ於テ同女ノ全身ヲ四布掛布團ニ卷キ包ミ其ノ上ヨ
リ藁繩及兵兒帶ヲ以テ胸膝及上胸部邊ヲ縛リ更ニ麻繩ニテ其ノ兩手首及兩足首ヲ縛リ尙其ノ頭部ニ四布掛布團ヲ蔽
ヒカフセタル儘數時間放置シテ同室内ニ不法ニ監禁シ其ノ爲ニりんヲシテ翌四日午前三時頃死亡セシメタルモノナ
リ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人關口志行 木村嘉吉 木村賢三上告趣意書第四點原判決ハ刑罰法ノ適用ヲ誤リタル不當ノ判決ナ
リ本件ノ被害者タル小澤りんハ二十數年前ヨリ精神ニ異狀ヲ來シ一時平靜ヲ保チタルコトアルモ昭和
九年二月頃ヨリ病氣再發シ器物ヲ破壊シ農作物ヲ荒ス等ノ惡戲ヲ爲スコト絶エサル事實ハ起訴狀豫審
ニ於ケル被告ノ供述豫審終結決定及陪審廷ニ於ケル檢事ノ公訴事實ノ陳述被告ノ陪審廷ニ於ケル供述
ニ依リ被害者りんハ昭和九年八月三日當時ハ強度ノヒステリー症ニテ精神ニ異狀アリ從テ精神病者ナ

精神病者ノ緊縛監禁致死ト刑法第二百二十一條

ルコトハ一點ノ疑ナキ事實ナリ左スレハ被告ハ被害者リニ對シテハ精神病者監護法第一條ニ依リ右精神病者タルリニ對シテハ看護ノ義務者ナリ同法第二條ニ依リ右精神病者ヲ監置シ得ル資格アルモノナリ同法第三條ニ依リ監置セントスルトキハ行政廳ノ許可ヲ受クルコトニナリ居ルモ急迫ノ事情アルトキハ許可ナクモ假リニ監置スルコトヲ得ルモ此ノ場合ニハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ル義務アルモノナリ其ノ他監置ノ方法場所ニ對シ種々監督ノ規定アルモ之ニ違反スルトキハ同法第十七條ニ左ニ掲クルモノハ二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ一、許可ヲ受ケス届出ヲナサス若ハ命ヲ受ケスシテ精神病者トシテ人ヲ監置シタル者二、禁治産ノ宣告又ハ監置ノ許可取消サレ又監置ノ廢止ヲ命セラレ若ハ假監置ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セサル者三、許可ヲ受ケ又ハ届出ヲナシ若ハ命ヲ受ケタル程度ヲ超ヘテ精神病者ヲ拘束シタル者以上ノ事實ナレハ本件ハ被告ニ對シ普通刑法ヲ適用シ尊屬ニ對スル不法監禁罪ヲ以テ罰スルコト能ハス精神病者監護法ハ普通刑法ニ對スル特別法ナレハ本件事實ノ如ク同法ニ該當スルモノハ同法ニ依リ處斷スヘキモノナルコト同法規定ノ精神ナリ而シテ本件被害者ハ精神病者ナレハ縱令尊屬親ト雖精神病者監護法第一條第二條ニ依リ被告ハ之ヲ監置スル資格アルモノナレハ其ノ監置手續違反ノ責任アリトスルモ之ニ對シ普通刑法ヲ適用シテ處斷シタルハ擬律ノ錯誤アル判決ニテ破毀ヲ免レスト云フニ在レトモ

【要旨】

精神病者ヲ緊縛シ因テ死ニ致シタル場合被害者ノ致死カ加害者ニ於テ精神病者ノ保護上必要ナル程度ヲ超越シタル事實ヲ認識シナカラ緊縛ヲ加ヘタルニ存スルトキハ刑法第二百二十條第二百二十一條ノ罪責ヲ免レサルモノナルコトハ前記論旨第一點ニ對シ説明シタルトコロニシテ原判決ノ認定シタル事實ハ被告人ハ實母リカ二十數年前ヨリ強度ノヒステリイ症ヲ患ヒ一時平靜ヲ保チタルコトアリシモ昭和九年一月頃ヨリ再發シ器物ヲ投ケ付ケ或ハ農作物ヲ荒ス等ノ惡戯ヲ爲スコト屢ナリシニ困リ果テ何時カハ實母ヲ痛ク懲ラシメント思惟スルニ至レル折柄昭和十年八月三日午前十時頃同女ト口論ヲ爲シタル結果茲ニ愈右實母ヲ縛シテ十分ニ懲戒ヲ加ヘンコトヲ決意シ同女ノ全身ヲ四布掛布團ニ卷キ包ミ其ノ上ヨリ藁繩及兵兒帶ヲ以テ胸膝及上胸部邊ヲ縛リ更ニ麻繩ニテ其ノ兩手首及兩足首ヲ縛リ尙其ノ頭部ニ四布掛布團ヲ蔽ヒカフセタル儘數時間放置シタルモノニシテ被告人カ被害者ヲ縛シテ十分ニ懲戒ヲ加ヘムトスル決意ノ下ニ判示ノ如ク被害者ヲ緊縛監禁シタル以上其ノ行爲自體ニ徵シ被害者保護上必要ナル程度ヲ遙ニ超越スル事實ヲ認識シナカラ緊縛ヲ加ヘタルモノト認ムルヲ相當トスヘク因テリんヲ死ニ致シタルモノナルヲ以テ被告人ノ行爲ハ刑法第二百二十條第二百二十一條ノ監禁致死罪ヲ構成スルコト勿論ニシテ原判決カ被告人ノ行爲ヲ同法條ニ問擬シタルコトハ洵ニ相當ニシア擬律ノ錯誤アルコトナキヲ以テ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

○恐喝恐喝未遂横領被告事件 (昭和十一年(九)第一四號 棄却)
(同年四月二十日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 村山浪治郎 辯護人 (山田武雄 藤田玖平)
【第一審】 新潟地方裁判所長岡支部 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

相殺シ得ヘキ債權アリトノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項

○判決要旨

他人ヨリ債權取立ノ委任ヲ受ケ債務者ヨリ其ノ取立ヲ爲シ之ヲ費消シタル者力當時委任者ニ對シ相殺ヲ爲シ得ヘキ債權ヲ有シタリトノ主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂判斷ヲ示スヘキ

事由ニ當ラス

一参照 刑事訴訟法第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ
法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ
刑法第二百五十二條第一項 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年ニ處ス但シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ長岡市ニ於テ大正十一年頃ヨリ昭和七年二月頃迄裏日本ト稱スル旬刊新聞ヲ發行シ次テ昭和七年三月頃ヨリ長岡日報ト稱スル日刊新聞社ノ社長トナリ其ノ經營ニ從事シ居リタル者ナル處
(第一乃至第三事實省略)

第四 昭和四年頃矢島又市ヨリ同人カ長岡市文治町田中榮七ニ對シテ有スル金四百圓ノ貸借債權ニ付之カ取立方ヲ委任セラレ其ノ後右榮七ノ死亡ニ因リ同人ノ家督ヲ繼キタル榮七ノ長男榮一ヨリ右債務ノ辨濟トシテ昭和七年四月中金百圓同年六月中金十五圓同年八月中金十五圓合計金百三十圓ヲ受領シナカラ之ヲ又市ニ交付セス其ノ頃數回ニ互リ長岡市等ニ於テ擅ニ自己ノ生活費其ノ他ニ費消横領シ

相殺シ得ヘキ債權アリトノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項

タルモノナリ

而シテ(中略)又第四ノ各横領ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第二百四十九條第一項ニ判示第二ノ所爲ハ同法第二百四十九條第一項第二項第五十五條ニ判示第三ノ所爲ハ同法第二百五十條第二百四十九條第一項ニ判示第四ノ所爲ハ同法第二百五十二條第一項第五十五條ニ夫々該當スルトコロ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ從ヒ結局犯情最モ重シト認ムル判示第二ノ罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人山田武雄 藤田玖平上告趣意書第五點本件第四事實ニ付公判調書ヲ閱讀スルニ「裁判長ハ此ノ時原判決書記載ノ事實中第四ノ事實ヲ讀聞ケタリ答ソノ事實モ相違シテ居リマス私カ使ヒ込シタノテハアリマセヌ問然シ其ノ金員ヲ受取ツテ自分ノ爲ニ利用シテ居ツタコトハ相違ナイテハナイカ答左様テス然シソレハ私ノ方ニ於テモ其ノ當時矢島ニ對シ昭和五年中矢島ニ頼ンタ定期米ノ賣買ニヨリ得タ利益金ノ受取ルヘキモノカ八百圓許リアリマシタケレトモ矢島ノ方テ渡シテ吳レナイカラ只今御申聞ケ

ノ田中ヨリ受取ツタ百三十圓ヲ田中ヨリ受取タ儘矢島ニ渡サスニ使ツテ仕舞ツタノテス問被告人ノ方テ其ノ利益金ニ對シ請求シタコトカアルカ答請求シタケレトモ寄越サナイノテアリマス」ト記載セラレアルヲ以テ被告人ハ定期米取引ノ差益金債權ト本件取立金トヲ相殺シタルモノニシテ横領罪ヲ構成セサルモノナルコトヲ主張シタル次第ナリトス而シテ右ノ主張ハ單ナル横領行爲ノ否認ニアラスシテ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ謂フ所ノ「法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原因タル事實」ノ主張ニ外ナラス詳言スレハ被告人ノ供述カ單ニ「矢島ヨリ右ノ如キ手形金ノ取立ヲ依頼セラレタルコトナシ」又ハ「取立ノ依頼ヲ受ケタルモ田中ヨリ未タ金員ヲ受領セス」若クハ「取立ノ依頼ヲ受ケテ田中ヨリ金員ヲ受領シタルモ之ヲ矢島ニ交付濟ナリ」等ト主張スルモノナラハ是レ單ナル横領行爲ノ否認ニ過キサルモ取立ノ依頼ヲ受ケテ之ヲ受領シ自己ノ用ニ供シタルコトハ爭ハスシテ之ヲ利用スルニ付正當ノ理由アル旨ヲ主張スルコト前記公判調書所載ノ如クナル本件ノ場合ニ於テハ明ニ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由ノ主張ニ外ナラス蓋シ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由トハ此ノ原由ナケレハ犯罪ハ當然成立スルモ此ノ原由アリトセハ違法性ヲ阻却セラレ犯罪ヲ構成セサルニ至ルノ事由ヲ指スニ外ナラス而シテ斯ル原由ハ法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ事由ナラサルヘカラサル點ニ於テ制限アリト雖所謂法律上犯罪阻却ノ原由ナルモノハ刑法總則第七章ニ規定スル犯罪ノ不成立ノ事由ノミヲ指稱スト解スヘキ理由毫モ存セス被告人ノ主張カ單ニ犯罪事實ノ否認ニアラスシテ犯罪構成要件タル事實ト別異

相殺シ得ヘキ債權アリトノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項

ナル事實ノ存在ヲ前提トシ此ノ事實ノ存在スル爲ニ本來犯罪タルヘキ性質ヲ具備スル行爲モ法律上犯罪ヲ構成スルニ至ラサルモノナル旨ヲ主張スル場合ノ如キハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ所謂「法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由ノ主張」ニ該當スト解スヘキモノト信ス抑モ刑事訴訟法カスル主張アリタル場合ニハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシト爲シタル立法上ノ理由ハ被告人カ主張スル事由存在スルモノトセハ犯罪ヲ構成セス不存在ナラハ構成スト謂フ場合ニ單ニ被告人ノ犯罪行爲自體ノミヲ判斷シ之ヲ阻却スヘキ理由ノ判斷ヲ示ササルニ於テハ被告人ニ於テ更ニ別件トシテ民事若クハ刑事事件トシテ裁判ヲ請求シ得ル餘地ヲ存シ所謂一事不再理ノ原則ヲ適用スルコト能ハス斯テハ徒ニ裁判所並當事者ヲシテ審理重複ノ煩ヲ行ハシムルノ不利益アルヲ以テ被告人カ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由ヲ主張シタル場合ハ之ニ對スル判斷ヲ示シ一事不再理ノ原則ヲ活用セントシタルモノト解スルヲ相當トス例ヘハ本件ニ於テ原審カ被告人ノ「定期米賣買ノ差益金債權ト相殺シタルモノナリ」トノ主張ニ付判斷ヲ示シタリトセハ被告人ハ最早一事不再理ノ原則ニ基キ矢島ニ對シ差益金ノ請求ヲ爲シ能ハサルモ之ニ對スル判斷ヲ示ササル場合ハ本件刑事事件ノ成立スルト否トニ關セス別ニ民事事件トシテ差益金請求訴訟ヲ起シ得ル餘地アルコトハ極メテ明瞭ナリト然レトモ斯ノ如キハ裁判經濟ノ問題トシテ極メテ國家並當事者ニ於テ不利益ナルヲ以テ刑事訴訟法ハ第三百六十條第二項ノ規定ヲ置キ基本タル刑事事件ト共ニ斯ル主張ヲモ判斷セシメントシタルモノニ外ナラス果シテ然ラハ原判決ハ被告人カ公

判ニ於テ法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由タル事實上ノ主張ヲ爲シタルニ拘ラス之ニ對スル判斷ヲ示ササルノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

被告人カ矢島又市ニ對シ相殺ノ意思表示ヲ爲シタルコトハ記録上認めラレサルノミナラス他人ヨリ債權取立ノ委任ヲ受ケ債務者ヨリ其ノ取立ヲ爲シタル者カ當時委任者ニ對シ反對債權アリテ相殺ヲ爲シ得ヘキヲ以テ右取立金ヲ費消スルモ罪トナラストノ所論ハ畢竟相殺ノ意思表示ヲ爲ササル反對債權ノ存在ヲ云爲シテ横領罪ノ構成要件タル犯意ヲ否認スルニ歸スルヲ以テ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂判斷ヲ示スヘキ事由ニ當ラス原判決ニ於テハ被告人カ矢島又市ヨリ委任セラレ田中榮七ノ家督ヲ相續シタル同榮一ヨリ取立テタル金百三十圓ヲ擅ニ自己ノ生活費其ノ他ニ費消シタル所以ヲ證據ニ依リ説明セル以上更ニ横領罪ノ犯意ニ付説明ヲ爲ササルモ不當ニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事池田克關與

○詐欺私文書變造行使被告事件 (昭和十一年(九)第一七一號 棄却)

(昭和十一年(九)第一七一號 棄却)

【上告人】 被告人 米山八彌 辯護人 米村嘉一郎

【第一審】 東京刑事地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

學生證ノ變造ト學生ノ氏名ニ對スル證據ノ欠缺

○判決要旨

學校名義ノ甲ナル學生ニ對スル學生證中擅ニ行使ノ目的ヲ以テ甲ナル氏名ヲ抹消シ乙ナル氏名ヲ記入シ之ヲ變造シタル場合ニ於テ其ノ抹消シタル學生ノ氏名カ甲ナルコトノ證據ナキトキト雖原判決破毀ノ理由ト爲スニ足ラス

【參照】 刑事訴訟法第三百六十條第一項 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

刑法第五百十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又

ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年ニ處ス押收ノ學生證(昭和九年押第一〇二三號ノ一)中變造部分ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和五年四月頃東京市神田區淡路町一丁目一番地發明學校内ニ神田高等豫備校ト稱スル學校ヲ開設シ其ノ後昭和六年九月同豫備校ヲ同區駿河臺三丁目二番地商工學校内ニ移轉シ引續キ其ノ經營者兼校長トシテ高等專門學校入學志望者ニ對シ準備教育ヲ施シ來リタルモノナルトコロ同豫備校生徒ノ父兄其ノ他ヨリ入學運動資金名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ

第一 東京市神田區駿河臺所在日本大學專門部醫學科(以下日大醫學科ト略稱ス)及同市淀橋區東大久保所在東京醫學專門學校(以下東京醫專ト略稱ス)ノ各教職員等ト何等昵懇關係ナク運動ニヨリ入學セシメ得ル確信ナキニ拘ラ

學生證ノ變造ト學生ノ氏名ニ對スル證據ノ欠缺

ス之アルモノノ如ク装ヒ右學校入學志望者又ハ其ノ父兄等ニ對シ自己ニ入學運動資金ヲ提供スルニ於テハ學校關係者ニ運動シ入學試驗成績ノ良否如何ヲ問ハス必ス入學シ得ヘキ旨申欺キ因テ犯意繼續ノ上

(中略)

八 前記豫備校生徒竹之内豐彦ノ父竹之内純侃ヨリ昭和八年一月十一日頃前記商工學校内豫備校ニ於テ金千圓及同年三月十五日同市板橋區練馬南町二丁目三千六百四十九番地被告人方ニ於テ金千圓(小切手)ヲ東京醫專入學運動名義ノ下ニ受取り之ヲ騙取シ

(中略)

第二 前掲竹之内豐彦カ昭和八年三月下旬東京醫專ノ入學試驗ニ不合格トナルヤ更ニ同人ヲ日大醫學科ニ補缺入學セシムヘキ旨申詐リ同年九月下旬頃虛偽ノ試驗ヲ行ヒタル上同年十一月月上旬頃日大醫學科第一學年古中達夫ナル者ノ學生證ヲ入手シ其ノ頃同市神田區小川町一丁目二番地天下堂ビル内ナル被告人ノ事務所ニ於テ右學生證ノ「古中達夫」ナル文字ヲ抹消シ擅ニ「竹之内豐彦」ト記入シ以テ私立日本大學專門部醫學科ノ發行ニ係リ同醫學科教務課ノ捺印アル右學生證(昭和九年押第一〇二三號ノ一)ヲ變造シ之ヲ其ノ頃同市芝區白金三光町篠原純治方ニ於テ同人ノ手ヲ經テ右豐彦ニ交付行使シ豐彦及其ノ父純侃ヲシテ豐彦カ眞ニ日大醫學科ニ入學シ得タルモノノ如ク誤信セシメ因テ其ノ頃右被告人ノ事務所ニ於テ豐彦ヨリ日大醫學科授業料立替名義ノ下ニ金二百圓ヲ受取り騙取シ又昭和九年三月頃純侃ヨリ前記被告人方ニ豐彦ノ入學費等ノ名義ノ下ニ金百圓ヲ送金セシメテ之ヲ騙取シ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中私文書變造ノ點ハ刑法第五百九條第二項ニ同行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五百九條ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ各該當スルトコロ以上ハ其ノ間順次手段結果ノ關

係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ詐欺罪ノ刑ニ從ヒ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處スヘク主文掲記ノ學生證中變造部分ハ本件變造罪ニ依リ生シ何人ノ所有ヲモ認ムヘカラサルモノナルヲ以テ同法第十九條ニ依リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

辯護人米村嘉一郎上告趣意書第一點原判決ノ判示第二ノ事實ノ中文書變造ノ點ニ關シテハ「日大醫學科一年生古中達夫ナル者ノ學生證ヲ入手シ其ノ頃(中略)右學生證ノ古中達夫ナル文字ヲ抹消シ擅ニ竹之内豐彦ト記入シ云々ト判示セラレタリ然ルニ右認定ニ援用セラレタル證據ハ一、被告人ニ對スル豫審第四回訊問調書一、竹之内純侃同豐彦ノ豫審ニ於ケル證言一、押收ニ係ル學生證ノ存在以上三點ヲ綜合シテ認メラレタルモノナリ仍テ被告人ノ豫審第四回訊問調書ヲ按スルニ右調書ノ如何ナル部分ニモ日大醫學科一學年古中達夫ナル者ノ學生證ヲ變造シタリト云フ陳述ナシ調書原本二百八十八丁ニハ問其ノ學生證ノ姓名ハ初メ何ト書イテアツタカ答ソレハ只今記憶シテ居リマセヌトアリ更ニ原本二百八十三丁ニハ問左様ナ經過ヲ經テ竹之内豐彦名義ノ學生證ヲ變造シタカ答左様テス云々トアリ古中

學生證ノ變造ト學生ノ氏名ニ對スル證據ノ欠缺

達夫ナル者ヲ認ムヘキ何者モ無キモノナリ次ニ竹之内豊彦同純侃ノ豫審ノ證言ハ只詐欺ノ點ニ付テノ證據タルノミニテ文書變造特ニ古中達夫云々ニ就テハ何ノ證據トナラス更ニ押收ニ係ル學生證ノ存在ノミヲ以テシテハ日大醫學科一年生古中達夫名義ノモノナリシヤ否絶對ニ判明セサルモノナリ然ラハ原判決ハ何ニ依テ右判決ヲ爲シタルヤ全然證據ナクシテ事實ノ認定ヲ爲シタルモノニシテ證據ニ關スル法令ニ違反シタル重大ナル不法アルモノト云ハサルヘカラス更ニ又證據ニハ竹之内豊彦名義ノ學生證ヲ變造云々トアルヲ判決理由ハ古中達夫名義ノ學生證ヲ變造ト判定シタリトスレハ其ノ間ニ大ナル齟齬アリ理由齟齬ノ不法アリトモ云フ事ヲ得ヘシト云フニ在リ

【要旨】

仍テ審案スルニ原判示私立日本大學專門部醫學科ノ發行ニ係リ同醫學科教務課ノ捺印アル學生證ニ記載シアリタル學生ノ氏名カ古中達夫ナリシコトハ原判決舉示ノ證據ニ依リテハ之ヲ認メ得サルコト洵ニ所論ノ如クナルモ右學生カ古中達夫ナルト其ノ他ノ者ナルトヲ問ハス苟モ行使ノ目的ヲ以テ擅ニ右學生ノ氏名ヲ抹消シ之ニ竹之内豊彦ナル氏名ヲ記入シタルトキハ文書變造罪ヲ構成スルコトハ論ヲ俟タサルトコロニシテ而シテ右氏名ノ點ヲ除キ原判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ證明シ得ルカ故ニ原判決ノ右探證上ノ瑕疵ハ未タ以テ原判決破毀ノ理由ト爲スニ足ラス又被告人ニ對スル豫審第四回訊問調書ニ竹之内豊彦名義ノ學生證ヲ變造云々トアルハ前示學校名義ノ學生證ニ竹之内豊彦ノ氏名ヲ擅ニ記入シ之ヲ變造云々トノ趣旨ナルコトハ同調書ヲ通讀シテ之ヲ推知シ得ルカ故ニ原判決カ

右調書ヲ所論事實ノ罪證ニ供シタレハトテ毫モ所論ノ如キ理由齟齬ノ違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事佐々波與佐次郎關與

○詐欺被告事件

(昭和十年(れ)第一九五七號
同十二年四月二十五日第三刑事部判決)

棄却)

【上告人】

被告人

伊藤 曉造

辯護人

塚崎直
松岡直
橋本龍
島起

【第一審】

東京區裁判所

【第二審】

東京刑事地方裁判所

○判示事項

辯論ノ終結ト公判手續ノ更新

○判決要旨

辯論終結後ニ於テハ刑事訴訟法第三百五十三條ニ依ル審理更新ノ
手續ヲ爲スヲ要スルモノニ非ス

【参照】 刑事訴訟法第三百五十三條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止
辯論ノ終結ト公判手續ノ更新

シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八月ニ處ス但第一審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入ス第一審及第二審訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ第一 池園徳太郎ヨリ資本金皆無ニテ何等事業ヲ行ハス名義上ノミ存スル東京醫療電機株式會社(登記簿上ハ資本金二十五萬圓一株二十圓全額拂込濟)ヲ金二百五十圓ニテ買受ケ昭和九年六月三十日商號ヲ中央土地建物株式會社ト改メ目的事業ヲ家屋ノ建築設計賣買等ニ變更登記ヲ爲シ本店ヲ東京市京橋區銀座二丁目二番地越後屋ビル内ニ置キ自ら其ノ代表取締役ト爲リ椎名龜太郎ヲ常務取締役ニ就任セシメ會社名義ニテ無盡式ニ依リ家屋ノ月賦拂込建築事業ヲ初メタルカ

(一) 會社ハ無資産ニシテ事業遂行ノ確タル見込ナキニ拘ラス營業案内書ニ同會社ハ土地建物専門ノ業務ニ從事スルコト十數年ニシテ廣範圍ノ分讓地並多數専門技師ヲ有シ多量ノ建築材料ノ仕入アルヲ以テ有利且確實ニ建物ヲ建築シ之ヲ共同出資ノ方法ニ依リ僅少ノ月賦金ニテ組合加入者ニ提供スヘキ旨ノ虚偽ノ事實ヲ記載シ昭和九年八月ヨリ同年十二月中ニ至ル迄ノ間外交員ヲ東京市麻布區霞町十二番地菅根源太郎外四十二名方ニ派シテ同人等ニ對シ夫々右案内書ヲ示シ或ハ會社ノ基礎確實ナルカ如ク申向ケ同人等ヲシテ其ノ標榜スルカ如ク月賦ニテ有利且確實ニ會社建築ニ係ル家屋ノ提供ヲ受ケ得ラルルモノト誤信セシメテ組合加入方ヲ承諾セシメ同年八月五日頃

ヨリ同年十二月十日頃迄ノ間前後數十回ニ互リ前記管根方外各應募者方ニ於テ外交員ノ手ヲ經テ合計約千圓ヲ被告自身若ハ前掲常務取締役椎名龜太郎ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(二) 右會社事業ノ經費ニ窮シ同年七月十日頃ヨリ同年十一月四日頃迄ノ間東京日日新聞讀賣新聞紙上等ニ會社ノ出張所長内勤員集金員等ノ募集廣告ヲ掲載シ之ニ應シテ前記本社ニ來訪セル同市中野區上高田一丁目四十四番地松尾勘左衛門外七名ヲ夫々採用スルニ當リ信認金ノ提供方ヲ要求シ會社カ無資産同様ニシテ業績擧ラス從テ之カ返還ノ確タル見込モナカリシニ拘ラス退社ノ際ハ必ス返還スヘキ旨申向ケテ同人等ヲシテ其ノ旨誤信セシメ同年七月二十一日頃ヨリ同年十一月十日頃迄ノ間前後數回ニ互リ前記越後屋ビル内ニ於テ信認金名義ノ下ニ合計八百二十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(三) 同年九月七日頃森佐七ノ紹介ニ依リ本社ヲ來訪セル神奈川縣鎌倉郡深澤村手廣七百六十二番地和山路周ニ對シ會社ノ湘南出張所長ニ就任セラレ度キ旨勸說シ會社カ無資産ナルコトヲ祕シ恰モ基礎確實ニシテ經營事業モ亦頗ル有望ナルカ如ク申向ケ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメタル結果右湘南出張所長ト爲ルコトヲ承諾セシメタル上會社ノ規定ニ從ヒ同社株式二百株ヲ引受ケラレ度キ旨申向ケ結局自己名義ニ係ル無價値ノ同社株式五十株ヲ買受ケケシムルコトト爲シ翌日及同月二十一日頃ノ二回ニ前記越後屋ビル外一ヶ所ニ於テ右株式買代金名義ノ下ニ合計千圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二 鎌倉郡大正村字汲澤二百四十番地石井房吉カ株式會社都南貯蓄銀行ニ對スル債務ノ擔保ニ差入レアリタル同人所有長男一作名義ノ同縣三浦郡田浦町浦郷所在山林八筆計十九町六反三畝二十八歩ヲ他ニ賣却方ヲ希望シ居ル旨聞知シ同年十二月初旬頃森佐七ノ紹介ニテ右石井ニ面會シ自己カ專務取締役トシテ經營シ居ル帝都興業株式會社ニ於テ之ヲ金一萬五千圓ニテ買受ケ銀行ニ對スル債務九千圓ヲ代位辨濟シ其ノ差額六千圓ヲ手形ニテ支拂フヘキ旨申入

辯論ノ終結ト公判手續ノ更新

レ其ノ際右會社カ無資産同様ナルニ拘ラス相當資産ヲ有シ内容充實セル會社ナレハ該手形金ノ支拂ハ間違ヒナキ旨
偽リテ同人ヲシテ確實ニ右六千圓ノ支拂ニ付履行ヲ受ケ得ルモノト誤信セシメタル結果賣買ヲ承諾セシメ次テ
同年十二月十四日横須賀區裁判所登記所ニ於テ右房吉ノ代理人タル前記一作ニ對シ會社振出被告人裏書ニ係リ取引
關係ナキ三菱銀行丸ノ内第二支店ヲ支拂場所トスル額面三千圓ノ約束手形二通ヲ支拂期日ニ確實ニ支拂ハルヘキ手
形ナルカ如ク裝ヒテ交付シ同人ヲ通シテ房吉ヲ欺罔シ即日同所ニ於テ前記土地ニ付帝都興業株式會社ニ對シ賣買ニ
因ル所有權移轉登記手續ヲ爲サシメ以テ該土地ヲ騙取シ

タルモノニシテ以上被告人ノ各所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期限範圍内ニ於テ
被告人ヲ懲役八月ニ處シ尙同法第二十一條ニ依リ原審未決拘留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入スヘク原審並當審訴訟費
用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シテ全部之ヲ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス
尙訴訟手續ニ關スル事實ハ後顯理由中ニ記載スル所ノ如シ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人塚崎直義 松岡豊 橋本潔 島内龍起上告趣意書第一點原審ニ於テハ法律ニ依リ公判手續ヲ更新
スヘキ事由アリシニ拘ラス之カ更新ヲナササリシ違法アリ原審ハ昭和十年十月十四日第四回公判ヲ開
廷シ辯論ヲ終結同年十一月二十日判決書ヲ作成シ同日第五回公判ヲ開廷シテ判決ヲ宣告シタリ然ルト

キハ第四回公判期日トノ間ニハ三十七日ノ日數ヲ存シ公判手續ヲ更新スヘカリシモノナルコト明白ナ
ルニ拘ラス之ヲ更新シタル形跡ナシ此ノ如キ違法手續ノ上ニ成立セル原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモ
ノトス此ニ注意スヘキハ辯論終結後ニアリテハ公判手續ノ更新ヲ要セストスルノ有力ナル論說アルコ
トナリ而シテ今辯護人ハソノ謬論タルコトヲ指摘セントス一、刑事訴訟法第三百五十三條ハ引續キ十
五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘキ旨規定ス之刑事訴訟法其ノ訴訟手續ニ付
直接審理主義口頭辯論主義ヲ採リタル當然ノ結果ニシテ不開廷久シキニ彌ルトキハ裁判官ノ記憶ハ薄
減セラレ裁判ノ適正ヲ期スルコト能ハサレハナリ手續更新ヲ命スル理由此ノ如シ故ニ右刑事訴訟法第
三百五十三條ハ辯論終結前ノ手續ニ關シテハ勿論ソノ以後ニ於テモ當然適用アルヘキモノタルノミナ
ラス却テ辯論終結後ノ手續ニ關シテ最モ重大ナル價值ヲ有スヘキモノトス若シ反對論ノ如シトセハ辯
論終結後二年三年ノ後初メテ裁判ヲ決スヘキ場合ト雖手續ヲ更新セスシテ可ナリトノ結論ヲ生スルニ
至ラン二、反對說ハソノ一論據トシテ刑事訴訟法第三百五十四條ヲ援用シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ開
廷後判事ノ更迭アリタリト雖公判手續ヲ更新スルノ要ナキ旨ノ規定ヨリ類推スルヲ得ヘシトナスモノ
ナキニアラサルカ如キモ該規定ハ判決成立後單ニソノ宣告ヲナスニ過キサレ場合ヲ指シタルモノタル
ニ止リ判決成立前判事ノ更迭アリタルトキハ辯論ヲ再開シ手續ヲ更新スヘキコト勿論ナリ然ルトキ辯
論終結後十四日以内ニ判決成立シタルトキハ其ノ宣告日カ十五日以後ニ當ルト雖或ハ適法ナリトセラ

辯論ノ終結ト公判手續ノ更新

ルヲ得ヘシ若シ夫判決ノ成立モ十五日以後ナランカ許容セラルヘキ事態ニアラス以上記述ニヨリ反對論ノ理由ナキコトハ道破セラレタリ扱本件ニ於テ原判決ハ何時成立シタルモノナルヤヲ思考スルニ合議成立シタル時ヲ以テ判決成立ノ時ナリト解セントスルモ記録上之ヲ明確ニスルヲ得ヌ又裁判常識上辯論終結後十五日以前ニ合議成立シタリトモ認ムルヲ得サルカ故ニ原判決成立ノ時ハ判決書作成日タル昭和十年十一月二十日トスルカ或ハ判決宣告ノ日タル前同日トスルノ外ナカルヘシ然ルトキハ右判決成立ノ日タルヘキ昭和十年十一月二十日ハ辯論終結ノ日ヨリ三十七日ノ後ニ當ルコト明カナリ右ノ故ニ辯護人ハ原審ハ法律上公判手續ヲ更新スヘカリシニ拘ラス之ヲ更新セサリシノ違法アリテ破毀ヲ免レスト爾云フト云フニ在リ

判決裁判所ニ於ケル事實ノ審理ハ口頭辯論ニ基クコトヲ要スヘキハ刑事訴訟法第六十一條第三百五十三條第三百五十四條制定ノ精神ニ照シ蓋シ疑ヲ容レサル所ナリ凡ソ口頭辯論ノ制定タルヤ彈劾ノ方式ヲ採用シタル我カ刑事訴訟法ニ於テハ原被兩造對立ノ上迭ニ攻撃防禦ノ方法ヲ施用スヘク裁判所ハ其ノ間ニ在リテ職權ヲ以テ被告人ノ訊問其ノ他諸般ノ證據ノ取調ヲ爲シ被告事件ニ付事實ノ真相ヲ探究スルモノナルトコロ裁判所ハ敍上ノ如ク法ノ定ムル所ニ從ヒ諸般ノ取調ヲ爲シタル上裁判ヲ爲スニ熟スルモノト認メタルトキハ結審ヲ宣シ合議裁判所ニ在リテハ裁判所構成法第百十九條以下ノ規定ニ遵ヒ評議ヲ爲シ即日又ハ別ニ定ムル期日ニ於テ有罪無罪其ノ他ノ判決ヲ宣告スヘキモノナリト雖苟モ彼

【要旨】

上ノ如ク口頭辯論ノ法則ニ遵ヒ事實ノ審理ヲ遂ケ辯論ヲ終結シタル以上其ノ後ニ於テハ裁判所ハ單ニ辯論ニ顯ハレタル訴訟資料ノミニ基キ被告事件ニ付有罪無罪其ノ他ノ判斷ヲ爲シ其ノ斷案即チ判決ヲ宣告スルヲ要スルニ止マリ毫モ新ニ事實ノ審理ヲ爲スモノニ非ス而シテ開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テ公判手續ヲ更新スヘシトノ第三百五十三條ノ規定ハ畢竟直接審理ノ結果ニ對スル裁判官ノ記憶ノ減退ヲ考慮シタルカ爲ニ外ナラス然カモ審理終結後十五日以上ヲ經過スルモ尙判決ノ宣告ヲ爲ササルカ如キハ要スルニ被告人ノ數被告事件ノ性質等ニ依リ評議ノ成立ニ日子ヲ要スルカ評議成立シタルモ判決書ノ作成ニ日子ヲ要スルカ爲ニシテ所謂裁判官ノ記憶ノ減退ニ基クモノト認ムルヲ得サルカ爲ナリ從テ假令辯論ヲ終結シタル當時ノ公判期日ト判決宣告ノ爲ニノミ開ク公判期日トノ間ニ數多ノ時間ヲ存スルコトアリトスルモ審理ヲ更新スヘキ理由ヲ發見セス故ニ斯カル場合ニ於テハ訴訟ノ連續ヲ保障スル爲特ニ設ケラレタル刑事訴訟法第三百五十三條ノ規定ノ如キハ之ヲ適用スヘキ限ニ在ラスト解スヘキナリ原審公判手續ノ經過ニ付其ノ公判調書ヲ閱スルニ原審ハ第四回公判期日(昭和十年十月十四日)ニ於テ全然審理ヲ更新シ檢事ノ被告事件ノ陳述後裁判長ハ被告人ノ訊問證據調ヲ爲シ檢事並ニ被告人辯護人ノ辯論アリタル末辯論ヲ終結シ判決宣告期日ヲ來ル十月三十日午前九時ト指定シ關係人ニ出頭ヲ命シ閉廷シ其ノ後右判決宣告期日ヲ同年十一月二十日午前九時ニ變更シ同日ニ至リ第五回公判期日ヲ開廷シ判

決ノ宣告ヲ爲シタル事實ナレハ前段説明ノ理由ニ照シ第四回公判期日ト第五回公判期日トノ間所論ノ如ク三十七日ノ日子ヲ費ヤシタレハトテ刑事訴訟法第三百五十三條ニ依リ審理ヲ更新セサルヘカラサルモノニ非ス況ンヤ記録ニ徵スレハ原審ノ公判手續ハ第四回公判期日ニ於テ事實ノ審理ヲ終ヘ辯論ヲ終結シ其ノ後遲滯ナク評議ヲ遂ケ判決ハ成立シ居リタルモノト認ムルヲ正當トシ其ノ後同年十一月二十日ニ至リ判決ノ宣告ヲ爲シタルモノナルコト明ナルノミナラス其ノ間辯論ノ再開ヲ爲シタル事迹ナク何等審理ヲ更新スヘキ事由存スルモノト認メ難キカ故ニ原審カ辯論ヲ更新セサリシハ固ヨリ當然ニシテ原審ノ公判手續ニハ毫モ所論ノ如キ違法ナキニ於テオヤ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事武松久吉關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十一年(九)第三〇四號 棄却)
(同年四月二十七日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 井坂松之助 辯護人 竹内金太郎
外二名

【第一審】 水戸區裁判所 【第二審】 水戸地方裁判所

○判示事項

推薦名義人タルコトノ賛否ヲ求ムル行爲ト選舉運動

○判決要旨

特定人ヲ議員候補者ニ推薦スル爲推薦名義人タルコトノ賛否ヲ求ムル行爲ハ選舉運動ナリ

【參照】 衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ
第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任セラレタル勞務者ニ非ザレバ選舉運動ノ爲勞務ヲ提供スルコトヲ得ズ但シ議員候補者ト同居スル親族、家族及常備ノ使用人ハ此ノ限ニ在ラズ
同法第二百二十九條 第九十五條ノ二、第九十六條第一項、第九十八條若ハ第九十八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
推薦名義人タルコトノ賛否ヲ求ムル行爲ト選舉運動

衆議院議員選舉法施行令第五十七條ノ三 衆議院議員選舉法第九十六條第一項但書ノ規定ニ依リ議員候補者選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザル者カ演説又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲ス場合ニ於テハ左ノ各號ノ制限ニ從フベシ

一 選舉人ニ對シ戸別訪問ヲ爲シ又ハ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ若ハ電話ニ依リ通話ヲ爲スコトヲ得ズ

(以下省略)

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人松之助及忠次郎ヲ各罰金三十圓被告人欣造ヲ罰金二十圓ニ處ス被告人等ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置ス各被告人ニ對シ衆議院議員選舉法第三百三十七條第一項ノ五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セサル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ孰レモ昭和十年九月二十五日施行ノ茨城縣會議員選舉ニ際リ西茨城郡ヨリ立候補シタル同議員候補者大貫龜吉ノ法定選舉運動者ニ非サルトコロ候補者カ常陸花崗小舖石商業組合顧問タル關係ヨリ同商業組合ニ於テ組合關係者ニ對シ同人ノ爲推薦狀ヲ發送スルコトナリ同年九月十一日頃同商業組合長林貞吉ヨリ被告人松之助及忠次郎ニ對シ推薦狀ニ推薦名義人タルコトノ贊否ヲ求ムル書面ヲ組合役員ニ差出サレタキ旨依頼アルヤ右被告人兩名ハ既ニ選舉期日ノ切迫セルヲ慮リ同郡東那珂村及西山内村居住ノ役員ニ對シテハ戸別訪問ニヨリテ該文書ヲ配布シ其ノ贊否ヲ求ムコトヲ相謀リ更ニ其ノ内東那珂村居住ノ吉田八郎 大山與平 飯島善松及仁平豐穗ニ對スル配布方ニ就テハ

被告人欣造ニ情ヲ告ケテ其ノ同意ヲ得タル上

第一 被告人松之助ハ同年九月十三日頃孰レモ選舉人タル同郡西山内村居住ノ高田瀧一朝倉大助 櫻井清正 中根藤作 及和田高三郎方

第二 被告人欣造ハ其ノ頃孰レモ選舉人タル同郡東那珂村居住ノ吉田八郎及飯島善松方

第三 被告人忠次郎ハ其ノ頃孰レモ選舉人タル同郡東那珂村居住ノ仁平豐穗及大山與平方ヲ各歴訪シ以テ同候補者大貫龜吉ノ爲推薦狀ニ名義人タルコトノ贊否ヲ求ムルニ付戸別訪問ヲ爲シ

以テ選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條衆議院議員選舉法施行令第五十七條ノ三第一項第一號刑法第六十條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人松之助及忠次郎ヲ各罰金三十圓被告人欣造ヲ罰金二十圓ニ處シ被告人等ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニヨリ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間其ノ被告人ヲ勞役場ニ留置シ犯情ニ鑑ミ各被告人ニ對シ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第三百三十七條第一項ノ規定ヲ適用セサルヲ相當ト認メ同條第三項ニ則リ其ノ旨ヲ宣言シ主文ノ如ク判決ス

○ 主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○ 理 由

辯護人竹内金太郎上告趣意書原判決ハ其ノ理由ニ於テ上告人中井坂 小川ノ兩名ハ昭和十年九月二十

推薦名義人タルコトノ贊否ヲ求ムル行爲ト選舉運動

五日行ハレタル茨城縣會議員選舉ニ際シ常陸花岡小舗石商業組合長小林貞吉ヨリ同組合ノ顧問大貫龜吉ヲ議員候補者ニ推薦スル爲推薦名義人タル事ノ贊成ヲ求ムル爲書面ヲ組合役員ニ差出スヘキ様依頼アルヤ右兩名ハ既ニ選舉期日ノ切迫セルヲ慮リ西茨城郡東那珂村及西山内村居住ノ役員ニ對シテハ戶別訪問ニ依リ該文書ヲ配布シ其ノ内東那珂村居住ノ某々四人ニ對スル配布方ハ大貫ニ情ヲ告ケテ夫々之ヲ配布シタル事實ヲ戶別訪問ニ因ル選舉運動ナリト認メ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條同施行令第五十七條ノ三第一項第一號刑法第六十條ニ該當スルモノトシテ上告人井坂 小川ハ罰金三十圓大貫ハ同二十圓ニ處斷シタリ按スルニ推薦狀ニ署名ノ贊否ヲ求ムル行爲カ果シテ得票ヲ目的トスル選舉運動ノ範圍内ニ入ルヤ如何從來幾多判例(大正四年(レ)第二二八六號同年(レ)第一四一七號同年(レ)第一四九二號)ノ趣旨ニ據レハ選舉運動ナルモノヲ當選ヲ斡旋スル一切ノ行爲トナシ選舉運動ノ方法順序等ニ付協議スル行爲モ亦選舉運動ノ範圍内ニ包含セラルルモノト解シ(大正十四年(レ)第一四九二號)次第ニ選舉運動ノ範圍ヲ擴大セントスル傾向アルモ本來推薦狀ニ署名ノ贊否ヲ問合ハスノ行爲夫レ自體ハ未タ毫モ得票ヲ目的トスルモノニ非ス現ニ本件ニテ十年九月十九日林貞吉ノ警察聽取書ニモ明記シアル如ク眞壁郡兩引村居住ノ組合役員ニシテ選舉區外ノ者ニモ相談シ右書面ハ井坂 小川等ノ手ヨリ眞壁郡内居住ノ役員ニ發送セラレアル事明ナリ之ニ依ルモ推薦狀ニ署名贊否ヲ問合ス行爲ハ得票ヲ目的トスルモノニ非サルヲ證スヘシ推薦狀ニ署名ノ贊

否ヲ問合ハス行爲ト推薦狀其ノ物トハ全然別個ノ觀念ニ屬ス推薦狀ノ發送ハ得票ヲ目的トスルモノナル事勿論ナルモ署名贊否ノ問合ハ何某ヲ推薦スヘキヤ否ヤノ相談ニシテ未タ其ノ何某ノ爲ニ特定又ハ不特定ノ有權者ニ對シ候補者ノ得票ヲ目的トスルモノニ非ス然ルニ原判決ハ斯ク全然相異レル二個ノ觀念ヲ同一視スルカ又ハ牽強附會セントスルモノナリ未タ推薦狀作成ノ域ニモ達セサル以前ノ署名贊否問合ハ法ニ所謂選舉運動ノ範圍内ニ非サル事勿論ナリトス果シテ然ラハ之カ贊否問合ノ爲判示事實ノ如キ選舉委員ニ非スシテ推薦狀ノ運搬ヲ爲シ戶別訪問又ハ個々面接ヲ爲スモ何等法ニ所謂選舉運動ニ非サルナリ現ニ昭和三年(レ)第三四九號判例ニ於テ「或人ヲ議員候補者トシテ推薦スルニ當リ單ニ推薦者トシテ推薦狀ニ加名センコトヲ依頼スル行爲ハ選舉法違反ヲ以テ論スヘキニ非ス」ト明示シアルニ照シテモ明ナリ而シテ本件ハ得票ヲ目的トスルモノニ非サル事上述ノ如シ故ニ原判決力之ヲ目シテ選舉運動ト爲シ相當法條ヲ適用シテ有罪ノ處斷ヲ爲シタルハ重大ナル事實ノ誤認アリ破毀可相成モノト思料スト云フニ在レトモ

【要旨】

特定人ヲ議員候補者ニ推薦スル爲推薦名義人タルコトノ贊否ヲ求ムル行爲ハ畢竟該候補者ノ當選ヲ目的トスル運動ノ一部ニ屬スルモノナルヲ以テ判示行爲ハ違法ノ選舉運動タルヲ免レス所論判例ハ改正後ノ衆議院議員選舉法ノ解釋ニ適切ナラス而シテ判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ之ヲ證明スルニ足リ記録ニ徵スルモ右事實ノ誤認ヲ疑フニ足ルヘキ事由ナシ論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事秋山要關與

○業務上横領竊盜被告事件 (昭和十一年(レ)第四二六號 棄却)
(同年四月三十日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 三代 光高 辯護人 片山 義雄
外一名

【第一審】 松江區裁判所 【第二審】 松江地方裁判所

○判示事項

竊盜及横領ト連續犯

○判決要旨

竊盜ノ行爲ト横領ノ行爲トハ連續犯トナルモノニ非ス

【参照】 刑法第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付確定裁判

アリタルトキハ止マ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

同法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸レルトキハ一罪トシ
テ之ヲ處斷ス

同法第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役
ニ處ス

同法第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ財物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役
ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同
シ

同法第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ
懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人三代光高ヲ懲役二年ニ被告人杉原安盛ヲ懲
役一年六月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人三代光高ハ昭和六年春頃ヨリ松江市殿町島根縣信用購買販賣組合聯合會ノ肥料配給人夫ニ雇ハレ昭和八
年一月頃ヨリ事務員代理トシテ同市伊勢宮町所在同聯合會倉庫ニ勤務シ肥料飼料ノ配給及配合事務ニ從事シ兼テ同
倉庫内ノ肥料類ヲ業務上保管シ居リタルモノナルトコロ

(一) 同聯合會書記補ニシテ購買部ノ現品出入事務ヲ取扱ヒ配給所人夫ヲ監督シ居リタル小豆澤克郎ト共謀ノ上昭
竊盜及横領ト連續犯

和八年十一月頃ヨリ昭和九年九月中旬頃迄ノ間約五十六回ニ互リ業務上保管ニ係ル右倉庫内ノ前記聯合會所有ノ
撤豆粕四百七十五噸、硫酸安母尼亞六百八十三噸、石灰窒素七十袋、鱈粕二百五十貫、鯨粕十九本、麩七百
四十九袋、混合飼料六十五袋、五號配合十六噸、大豆粕五十枚、アルミナ六十五噸時價合計約六千四百九圓相當
ノモノヲ擅ニ他ニ賣却處分スル爲出庫シテ横領シ

(二) 同聯合會肥料配給所人夫ナル被告人杉原安盛ト遊興費捻出ノ爲肥料ヲ拔取ルヘク共謀シ肥料搬出ハ被告人光
高ニ於テ肥料販賣ノ交渉代金ノ協定荷馬車差向等ハ被告人安盛ニ於テ各擔當スルコトトシ

(イ) 昭和九年五月上旬ヨリ同年九月下旬迄ノ間前後十回ニ互リ前記倉庫内ヨリ被告人光高ノ業務上占有中ノ前
記聯合會所有ニ係ル撤豆粕九十五噸、硫酸安母尼亞百噸、石灰窒素四十二袋、鱈粕二百四十貫、鯨粕二百
四十貫、硫酸加里四百八十六貫、麩十八袋、混合飼料十五袋時價合計約千二百六十一圓相當ノモノヲ擅ニ原審
相被告人金織謙三同福羽助市ニ賣却スル爲出庫シテ横領シ

(ロ) 昭和九年六月中旬頃前記倉庫内ヨリ被告人光高ノ業務上保管ニ係ル前記聯合會所有ノ硫酸五十袋時價約百
七十五圓相當ノモノヲ擅ニ松江市殿町肥料商野津正義ニ賣却スル爲出庫シテ横領シ

第二 被告人三代光高ハ昭和九年十月十日右事務員代理ヲ免セラレタルニ拘ラス更ニ被告人杉原安盛ト共謀ノ上昭和
十年四月中旬ヨリ同年九月中旬迄ノ間前後十二回ニ互リ前記倉庫内ヨリ同聯合會所有ノ撤豆粕百二噸、硫酸安母尼
亞百十七噸、石灰窒素五十袋、鱈粕六百六十八貫、麩二袋、混合飼料二十三袋時價合計約千四百一圓相當ノモノ
ヲ竊取シ

タルモノニシテ被告人光高ノ判示第一ノ(一)及(二)ノ(イ)(ロ)ノ各所爲並判示第二ノ所爲被告人安盛ノ判示
第一ノ(一)ノ(イ)(ロ)ノ各所爲並判示第二ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ判示第一ノ(一)及(二)ノ(イ)(ロ)ノ各所爲ハ刑法第二百五十三條第六十條第五十五條ニ判示第
二ノ所爲ハ同法第二百三十五條第六十條第五十五條ニ各該當スルトコロ被告人光高ノ業務上横領罪ト竊盜罪トハ刑法
第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ犯情重キ業務上横領罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル
刑期範圍内ニ於テ被告人光高ヲ懲役二年ニ處シ被告人安盛ノ業務上横領罪ニ付テハ同被告人カ業務上占有者タル身分
ヲ有セサルニヨリ刑法第六十五條第二項ニ則リ同法第二百五十二條所定ノ單純横領罪ノ刑ヲ科スヘク之ト竊盜罪トハ
同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ヲ適用シ重キ竊盜罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期
範圍内ニ於テ被告人安盛ヲ懲役一年六月ニ處スヘキモノトス

主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

理 由

被告人杉原安盛辯護人片山義雄上告趣意書第三點原判決ハ刑法第五十五條ノ解釋ヲ誤リタルモノナリ
次ニ昭和九年五月上旬ヨリ同年九月下旬迄ノ前記被告人ノ行爲ヲ横領罪ヲ以テ律スヘキモノナリトセ
ン刑法第五十五條ニ所謂同一ノ罪名ハ必スシモ刑法各本條中同一法條ニ該當スル罪名タルコトヲ要ス
ルモノニ非ス假令異ル法條ニ規定セラレタル罪名タリトモ竊盜ト強盜等ノ如ク其ノ罪質ヲ等シクスル
場合ニハ其ノ間ニ尙連續犯ノ成立ヲ認ムヘキモノナリ横領ト竊盜トハ其ノ目的物カ既ニ犯人ノ占有ニ
アルト否トヲ其ノ主要ナル成立要件ノ差異トシ其ノ他ノ點ニ付テハ兩者殆ント其ノ成立態様ヲ等シク

竊盜及横領ト連續犯

スルモノナリ即チ兩者ハ其ノ罪質ヲ等シクスルモノト云フヘシサレハ兩者カ繼續セル犯意ヲ以テ相次テ行ハレタルトキハ其ノ間ニ連續犯ノ成立ヲ認ムヘキモノナリ原判決ハ被告人ノ昭和九年五月上旬ヨリ同年九月下旬迄ノ前記行爲ヲ横領昭和十年四月中旬ヨリ同年九月中旬迄ノ前記行爲ヲ竊盜トシ兩者カ繼續セル犯意ヲ以テナサレタルコトヲ認定シナカラ刑法第五十五條ノ解釋ヲ誤リ不當ニ同條ヲ適用セス其ノ結果刑法第四十七條ニ依ツテ處斷セルモノニシテ原判決ハ此ノ點ニ於テ違法アルヲ免レスト云フニ在レトモ

【要旨】

竊盜ノ行爲ト横領ノ行爲トハ均シク不法ニ他人ノ財物ヲ領得スル罪ナルモ一ハ他人ノ占有ヲ侵害スルモノナルニ反シ他ハ自己ノ占有スル物ニ對シテ行ハル點ニ於テ其ノ罪質同一ナラス之ヲ同一罪名ニ觸ルルモノト解スルヲ得サルヲ以テ假令共ニ罪ヲ犯スノ意思ニ出テタルモノトスルモ併合罪ヲ構成シ連續犯ト成ルモノニ非サレハ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事池田克關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十一年(れ)第四三三號 棄却)

【上告人】 被告人 大内 藤 七 辯護人 (和) 石橋 利正 平

【第一審】 神戸地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○ 判 示 事 項

或ル選舉區ニ於ケル立候補ノ中止ト他ノ選舉區ニ於ケル立候補

○ 判 決 要 旨

或ル選舉區ニ於テ立候補セントシタル者カ金錢ノ授受ニ因リ其ノ立候補シタル選舉區ニ於ケル立候補ヲ止メタルトキハ衆議院議員選舉法第百十三條ニ該當シ其ノ者力更ニ他ノ選舉區ニ於テ立候補スルニ至ルモ同上犯罪ノ成立ヲ妨ケルモノニアラス

【參照】 衆議院議員選舉法第百十三條 左ノ各號ニ掲ケル行爲ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

或ル選舉區ニ於ケル立候補ノ中止ト他ノ選舉區ニ於ケル立候補

- 一 議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル目的ヲ以テ議員候補者若ハ議員候補者タラムトスル者ニ對シ又ハ當選ヲ辭セシムル目的ヲ以テ當選人ニ對シ第一百十二條第一項第一號又ハ第二號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ
 - 二 議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メタルコト、當選ヲ辭シタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ議員候補者タリシ者、議員候補者タラムトシタル者又ハ當選人タリシ者ニ對シ第一百十二條第一項第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ
 - 三 前二號ノ供與、養應接待ヲ受ケ若ハ要求シ前二號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第一號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ
 - 四 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ
- 選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員當該選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ四千圓以下ノ罰金ニ處ス警察官吏其ノ關係道府縣内ノ選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ百日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル兵庫縣會議員選舉ニ際シ自己所屬ノ立憲政友會ノ同志タル加藤惣七及

山村安平ノ兩名カ豫テヨリ議員ノ定數一名ナル神戸市湊東區ニ於テ立候補セムトスル意思アルコトヲ察知シ其ノ同士打ト爲ルヘキコトヲ憂慮シ居リタルトコロ右兩名ヨリ前記意圖ヲ確聞スルニ到ルヤ茲ニ加藤惣七ヲシテ同區ニ於ケル立候補ヲ斷念セシメ同市灘區ヨリ立候補セシムルコトトシ其ノ代價トシテ同人ニ對シ選舉費用名義ノ下ニ山村安平ヨリ金員ヲ供與セシメ以テ右同士打ヲ防止セント企テ先ツ同年七月下旬頃同市湊東區福原町三百三十九番屋敷山村安平方ニ於テ同人ニ對シ加藤惣七ヲシテ同市湊東區ヨリ立候補セムトスルコトヲ止メシムルニ付同人ニ金三、四千圓ヲ供與セラレタキ旨申入レ以テ安平ニ對シ惣七カ湊東區ニ於ケル議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル爲メ同人ニ金員ヲ供與スヘキ旨ノ勸誘ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百三條第一項第四號第一號ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ被告人ヲ百日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人和田正平 石橋利之上告趣意書第一點原判決ハ「被告人ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル兵庫縣會議員選舉ニ際シ自己所屬ノ立憲政友會ノ同志タル加藤惣七及山村安平ノ兩名カ豫テヨリ議員ノ定數一名ナル神戸市湊東區ニ於テ立候補セムトスル意思アルコトヲ察知シ其ノ同志打ト爲ルヘキコトヲ憂慮シ居リタルトコロ右兩名ヨリ前記意圖ヲ確聞スルニ到ルヤ茲ニ加藤惣七ヲシテ同區ニ於ケ

或ル選舉區ニ於ケル立候補ノ中止ト他ノ選舉區ニ於ケル立候補

ル立候補ヲ斷念セシメ同市灘區ヨリ立候補セシムルコトトシ其ノ代價トシテ同人ニ對シ選舉費用名義ノ下ニ山村安平ヨリ金員ヲ供與セシメ以テ右同志打ヲ防止セント企テ先ツ同年七月下旬頃同市湊東區福原町三百三十九番屋敷山村安平方ニ於テ同人ニ對シ加藤惣七ヲシテ同市湊東區ヨリ立候補セムトスルコトヲ止メシムルニ付同人ニ金三、四千ヲ供與セラレタキ旨申入レ以テ安平ニ對シ惣七カ湊東區ニ於ル議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル爲同人ニ金員ヲ供與スヘキ旨ノ勸誘ヲ爲シタルモノナリ」法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十三條第一項第四號第一號ニ該當スルヲ以テ云々」ト判定セラレタリ然レトモ是レ違法ノ判決ニシテ當然破毀スヘキモノナリト信ス何トナレハ一、原判決ノ適用セラレタル前記法條ヲ其ノ摘示事實ニ照ラシ考察スルニ原判決ハ必スヤ「議員候補者タルコト若クハ議員候補者タラントスルコトヲ止メシムル目的ヲ以テ議員候補者若ハ議員候補者タラムトスル者ニ對シ金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ之等ノ行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス」トノ規定ナリト解シ本件被告人ノ所爲ハ正ニ該當スルモノトシテ被告人ヲ處罰セラレタルモノナルヘシ然レトモ一體被告人ノ如何ナル所爲カ果シテ右法條ノ適用セントスル事實ニ該當スルモノナリヤ甚タ不明ニシテ熟慮深考スルモ俄カニ之ヲ判定スルヲ得サルモノ存ス故ニ原判決ハ結局理由不備判斷遺脱又ハ法律ノ解釋ヲ誤リタルカ或ハ不當ニ法ノ適用ヲ敢テシタル違法ノ判

決ナレハナリ二、若シ夫レ原判決ノ意被告人カ山村安平ニ對シ爲シタル所爲ヲ以テ然リト解シ右判決ヲ敢テシタルモノトセハ之亦違法ナリ蓋シ(一)被告人カ原審ニ於ケル陳述ヲ見ルニ「私ハ山村安平ニ金員供與ヲ勸誘シタ事實ハアリマセヌ」(記錄三一八裏)「ソノ時山村カ以前陣中見舞トシテ金ヲ出スト云ツタ事カアリマシタカラ私ハ山村ニ加藤カ他所カラ立ツトスレハ一體何レ位金ヲ出スノカ選舉費用ノ三、四千圓位ハ出シテヤラネハナルマイト云ヒマシタスルト山村ハ今ニナツテ金ヲ出セハ自分カ加藤カラ地盤ヲ買ツタ様ニ世間カラ思ハレルノテ金ヲ出スコトハヤメルト云ヒマシタカラ私ハサウ云フ事テアレハ別ニ自分トシテハ何モ云ハヌト云ツテ其ノ儘歸ツタノテアリマス」(記錄三二七裏)ト陳述シアリテ被告人ヨリ山村ニ金員供與ノ勸誘ヲ爲シタル事實何等存セス只以前山村ヨリ話ノアリタル陣中見舞金ノ事ニ付話合ヒタルニ過キササルモノナルコト至極明瞭ナレハナリ故ニ山村ニ對シ金員供與ノ申込又其ノ勸誘等ナカリシコト亦明瞭ナリト云ハサルヲ得ス(二)假リニ被告人ノ前記陳述ヲ排シ原判決ノ前記摘示事實ヲ前提トシテ之ヲ見ルモ尙違法ナリ何トナレハ(一)被告人カ山村安平ニ對シ爲シタル所爲ハ山村ヲシテ議員候補者タルコトヲ止メシムル目的ニハ非スシテ却テ山村安平一人湊東區ヨリ政友系議員候補者トシテ立候補セシメ其ノ當選ヲ確實ナラシメンカ爲ナルヤ明々白々ナリト云ハサルヲ得ス故ニ山村安平ニ對シ議員候補者タルコトヲ止メシムル目的ヲ以テ爲シタルコトヲ處罰ノ條件トスル衆

或ル選舉區ニ於ケル立候補ノ中止ト他ノ選舉區ニ於ケル立候補

議院議員選舉法第百十三條等ヲ適用シテ被告人ノ山村安平ニ對スル前記所爲ヲ處罰スルヲ得サルヤ亦至極當然ノ事ナレハナリ故ニ原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リタルカ或ハ不法ニ法條ヲ適用シタルカ又ハ理由不備判斷遺脫ノ違法アリト云ハサルヲ得サレハナリ(二)又山村ニ對シテハ金錢供與ノ申込ヲ爲シタルモノニアラスシテ寧ロ同人ヲシテ供與セシメントシタルモノト解スヘキヤ之亦明白ナレハ同人ニ對シ金錢ヲ供與スヘキコトヲ申込ミ若ハ約束シ又ハ周旋勸誘等爲シタルコトナキモ亦明瞭ナリ左スレハ金錢ヲ供與スヘキコトヲ申込ミ若ハ約束シ又ハ其ノ周旋勸誘等ヲ爲シタルコトヲ處罰ノ條件トスル前記法條ヲ適用シテ被告人ノ山村ニ對セシ所爲ヲ處罰シ得サルヤ元ヨリナリ故ニ原判決ハ此ノ點ニ於テ亦前記(一)同様ノ違法存スルモノナレハナリ三 又之ヲ加藤惣七ニ對スル被告人ノ所爲ニ付テ見ルモ亦違法ナリ何トナレハ(1)被告人ノ右所爲ハ加藤ニ對シ立候補ヲ全然止メシメントシタルモノニ非スシテ只定員一名ノ地ヨリ二名ノ政友系議員ヲ出シ兩者共ニ同志打ノ結果他黨ノ議員ニ漁夫ノ利ヲ占メラレ兩名共落選ノ不幸ニ陥ルヲ避ケシメンカ爲其ノ一名ヲ他ノ區ヨリ立候補セシメ各異ナル區ニ於テ立タシメ以テ二人共當選ヲ得セシメンカ爲單ニ地盤ノ協定ヲ試ミントシタル迄ニシテ寧ロ山村加藤兩人ノ當選ヲ確實ナラシメンカ爲ニシテ決シテ加藤惣七ヲシテ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル目的ニアラサルヤ勿論ナリ故ニ(一)ニ於テ論シタルカ如ク議員候補者タルコトヲ止メシムル目的ヲ以テ爲シタル事ヲ處罰條件トスル前記法條ヲ以テ被告人ノ加藤惣七ニ對スル前記所爲ヲ處罰スル

ヲ得サルヤ勿論ニシテ之ニ反スル原判決ノ違法不當ナルヤ(一)所論ト同一ナレハナリ(2)又被告人ハ加藤惣七ニ對シ金錢ヲ供與スルコトヲ申込ミ又ハ約束シタル事絶對ニ存セス又加藤惣七ニ對シ之ヲ周旋シ或ハ勸誘ヲ試ミタル事實モ何等存セサルモノナリ之レ被告人ノ原審ニ於ケル「金錢ノ事ヲ加藤ニ云フ筋合ノモノテハアリマセスカラ加藤ニハ話サス私ノ心ノ中ニ持ツテ居リマシタ」(記録三二八裏)トノ陳述ニヨリ明ラカナルノミナラス原審判決ノ事實摘示ニ見ルモ何等其ノ記載ナキニ見ルモ亦明ラカナレハナリ故ニ(二)所論ノ如ク原判決ノ違法ナルヤ勿論ナリ(3)又被告人カ加藤惣七ニ對シ金錢ヲ供與スヘキコトヲ申込ミ或ハ約束シ又ハ加藤ニ對シ周旋勸誘等ヲ爲シタル旨ノ記載ハ原判決ノ摘示事實中何等存セサルノミナラス又之ヲ認ムヘキ證據一モ存スルナシ故ニ若シ原判決カ被告人ノ加藤惣七ニ對スル所爲中ニ此ノ事實アリトシテ前記判決ヲ敢テシタルモノトセハ之亦違法不當ノ判決ニシテ法律ヲ不當ニ適用シタルカ或ハ虛無ノ證據ヲ以テ事ヲ斷シタルカ又ハ審理不盡判斷遺脫理由不備ノ違法アルモノニシテ之亦當然破毀スヘキモノナレハナリト云フニ在レトモ

原判決カ證據ニ依リ認メタル事實ニ依レハ被告人ハ兵庫縣會議員選舉ニ際シ自己所屬ノ立憲政友會ノ同志タル加藤惣七及山村安平ノ兩名カ議員定數一名ナル神戸市湊東區ニ於テ立候補セムトスル意思アルコトヲ確聞スルヤ加藤惣七ヲシテ同區ニ於ケル立候補ヲ斷念セシメ同市ノ灘區ヨリ立候補セシムルコトトシ其ノ代價トシテ同人ニ對シ選舉費用ノ名義ノ下ニ山村安平ヨリ金圓ヲ供與セシメ以テ右同志

或ル選舉區ニ於ケル立候補ノ中止ト他ノ選舉區ニ於ケル立候補

打ヲ防止セシコトヲ企テ山村安平ニ對シ加藤惣七ヲシテ同市湊東區ヨリ立候補セムトスルコトヲ止メシムルニ付同人ニ金三、四千圓ヲ供與セラレタキ旨申入レ以テ安平ニ對シ惣七カ湊東區ニ於ケル議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル爲同人ニ金員ヲ供與スベキ旨ノ勸誘ヲ爲シタルモノナリト云フニアルヲ以テ被告人ハ主トシテ山村安平ヲ當選セシムル目的ヲ以テ此ノ舉ニ出テタリトスルモ他面加藤惣七ヲシテ湊東區ニ於ケル立候補ヲ斷念セシムル目的ヲ有シ所謂選舉地盤ノ協定ナルモノソノ間金錢問題ノ纏綿スルトキハ選舉ノ公正ヲ害スルコト多大ナルヲ以テ衆議院議員選舉法第百十三條ノ嚴禁スルトコロナリトス而シテ右協定ノ結果加藤惣七ニ於テ假令他ノ選舉區ヨリ立候補シ終局ニ於テハ議員候補者タルコトヲ止ムルノ意思ナク被告人亦其ノ當選ヲ希望セシトスルモ候補者トハ各選舉區毎ニ觀察スヘキモノニシテ苟モ當該選舉區ニ於ケル立候補ヲ止メタルトキハ右法條ニ所謂議員候補者タラムトスルコトヲ止メタルモノニ該當シ其ノ者カ更ニ他ノ選舉區ニ於テ立候補スルト否トヲ問フノ要ナキモノトサレハ原判決カ被告人カ加藤惣七ノ湊東區ニ於ケル立候補ヲ斷念セシムル爲金圓供與ノ勸誘ヲ爲シタル行爲ヲ目シテ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十三條第一項第四號第一號ニ問擬シタルハ相當ニシテ原判決ニハ所論違法ノ點ナク論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

【要旨】

檢事池田克關與

○公文書偽造行使被告事件 (昭和十年(れ)第一九六六號 棄却)
(同十一年五月二日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 徐 景 路 辯護人 松岡小一郎

【第一審】 山口地方裁判所下關支部 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

文書ノ偽造

○判決要旨

甲者カ乙者ノ氏名ヲ詐稱シ警察官署ヲ欺キ乙者名義ノ朝鮮婦人再渡來證明書ノ交付ヲ受ケタル後之ニ貼付シタル甲者ノ寫眞ヲ剝離シ代フルニ乙者ノ寫眞ヲ以テシ之ニ新タニ契印ヲ施シタル行爲ハ公文書ノ偽造ヲ以テ論スヘキモノトス

文書ノ偽造

【參照】 刑法第五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八月ニ處ス第一審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス押收ニ係ル再渡來證明書一通(證第二號)ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年三月中當時下關市ニ在住セル鄭順伊ヨリ同人カ豫ア同市伊崎町ニ於テ朝鮮料理店ヲ開業センコトヲ企テ其ノ酌婦タラシムヘク曩ニ朝鮮ニ於テ朴順伊(當二十年)ナルモノヲ前借金三百四十圓ニテ抱ヘタルモ制規ノ要件ヲ缺キ所轄管署ヨリ内地渡航證明書ノ下付ヲ受クルヲ得サル爲同人ヲ呼寄スル能ハス困惑シ居リシニヨリ同人ヲシテ内地ニ渡航スルヲ得シムル様盡力シ吳レ度キ旨依頼セラレテ之ヲ承諾シ同年四月十二日下關市彦島町江ノ浦金鳳軒妻朴相ヨリ同人カ下關警察署長ニ對シ自己ヲ朴順伊ナリト偽名シ且實母死亡ノ爲一時朝鮮ニ歸省シ度キニヨリ朝鮮ヨリ内地ヘノ再渡來證明書ノ下付アリ度キ旨詐言シ因テ同署長ヲシテ自己ヲ朴順伊ナリト誤認セシメテ下付ヲ受ケタ

ル同署長名義再渡來者朴順伊本人ノ影姿トシテ右朴相今ノ寫眞ノ貼付シアル再渡來證明書ノ交付ヲ受ケ翌十三日被告人后書自宅ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ右證明書ニ貼付シアリタル朴相今ノ寫眞ヲ剝離シ其ノ跡ニ鄭順伊ヨリ交付ヲ受ケタル朴順伊ノ寫眞ヲ貼付シタル上右朴相今ノ寫眞ノ上ニ之ト右證明書本紙トノ契印トシテ押捺シアリタル下關警察署ノ印影ノ一部ヲ薄紙ニ青インキト赤染粉トヲ混シ右印影ト同一色合ニ調合シタルモノヲ以テ模寫シ更ニ之ヲ其ノ裏面ヨリ模寫シ其ノインクノ未タ乾カサル間ニ該薄紙上ノ印影ヲ糞ニ貼付シタル朴順伊ノ寫眞ノ上ニ再渡來證明書本紙ノ上ニ押捺シアル前記契印ノ一部ト連續符合スルカ如ク押寫シ以テ前記再渡來證明書ヲ利用シテ下關警察署長名義再渡來者ヲ該寫眞ニ表示セラレタル朴順伊トスル再渡來證明書一通(證第二號)ヲ偽造シ翌十四日之ヲ鄭順伊ノ息金基植ヲシテ當時朝鮮ニ歸國中ノ鄭順伊ニ郵送セシメ同人ヲシテ更ニ之ヲ其ノ情ヲ知ニサル朴順伊ニ交付セシメタル上右朴順伊ヲシテ該再渡來證明書ヲ同月十九日釜山水上警察署ニ於テ同署係員ニ呈示セシメテ行使シ因テ同人ヲシテ内地ニ渡航スルヲ得シメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中公文書偽造ノ點ハ刑法第五十五條第一項ニ其ノ行使ノ點ハ同法第五十八條第一項第五十五條第一項ニ各該當シ右公文書偽造ト其ノ行使トノ間ニハ手段結果ノ關係存スルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニヨリ犯情重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ從ヒ處分スヘキ處犯罪ノ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ヲ適用シ酌量減輕ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處シ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スヘク押收ニ係ル再渡來證明書(證第二號)ハ本件偽造公文書行使罪ノ組成物件ニシテ何人ノ所有ニモ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第一號第二項ニヨリ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主文

文書ノ偽造

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人松岡小一郎上告趣意書第一點原判決ハ被告人徐景路カ朴順伊名義ヲ以テ下付セラレタル下關警察署長ノ再渡來證明書ニ朴相今ノ寫眞ヲ剝離シ朴順伊ノ寫眞ヲ貼付シ原判決摘示ノ方法ヲ以テ下關警察署長ノ印ヲ該寫眞上ニ描寫シ再渡來證明書上ノ印ト連契セシメ之ヲ行使セシメタル行爲ヲ以テ公文書偽造行使罪ニ問擬セラレタリ然レトモ再渡來證明書ハ他人ニ下付セラレタルモノニ非スシテ朴順伊名義ヲ以テ爲サレタル證明書ナルカ故ニ寫眞ノ剝離ト印影ヲ描寫セル行爲ハ有效ニ成立セル證明書ノ内容ヲ變更シタルニ過キササルヲ以テ被告ノ行爲ハ公文書變造罪ヲ構成セルコトハ論無キ處トス然ルニ原判決カ被告ノ行爲ヲ以テ公文書偽造罪ニ問擬シタルハ明ニ擬律ノ錯誤アル違法ノ判決トス從ツテ原判決ハ此ノ點ニ於テ到底破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ

原判決カ證據ニ依リ確定シタル事實ハ被告人カ金鳳祚ノ妻朴相今ヲシテ朴順伊ナリト氏名ヲ詐稱セシメ警察官署ヲ欺キ朴相今ニ對スル判示再渡來證明書ヲ交付セシメ判示時所ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ該證明書ニ貼付シ在リタル朴相今ノ寫眞ヲ剝離シ其ノ跡ニ朴順伊ノ寫眞ヲ貼付シタル上右朴相今ノ寫眞ノ上ニ之ト右證明書本紙トノ契印トシテ押捺シ在リタル下關警察署ノ印影ノ一部ヲ薄紙ニ青インクト赤染粉トヲ混シ右印影ト同一色合ニ調合シタルモノヲ以テ模寫シ更ニ之ヲ其ノ裏面ヨリ模寫シ其ノイ

【要旨】

ンクノ未タ乾カサル間ニ該薄紙上ノ印影ヲ曩ニ貼付シタル朴順伊ノ寫眞ノ上ニ再渡來證明書本紙ノ上ニ押捺シ在ル前記契印ヲ一部ト連續符合スルカ如ク押寫シ以テ前記再渡來證明書ヲ利用シテ下關警察署長名義再渡來者ヲ該寫眞ニ表示セラレタル朴順伊トスル再渡來證明書一通ヲ偽造シ之ヲ行使シタリト云フニ在リ之ニ從ヘハ被告人ノ行爲ハ一旦下關警察署ヨリ下付セラレタル再渡來者朴相今ニ對スル判示證明書中其ノ内容ニシテ重要事項タル再渡來者ノ何人ナルヤニ付既存證明書ヲ利用シテ判示ノ手段方法ヲ以テ朴順伊ニ對スル證明書ナルモノノ如ク變更ヲ加ヘタルモノニシテ斯クノ如キハ文書ノ變造ニ非スシテ偽造ナリト解スヘキモノナリトス然レハ原判決カ敍上事實ヲ認定シ之ヲ公文書偽造行使罪ニ問擬シタルハ正當ナリ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十一年(九)第二五九號
同年五月四日第一刑事部決定) 事實審理)

【上告人】 被告人 武田喜之助 辯護人 赤井幸夫

【第一審】 高知區裁判所 【第二審】 高知地方裁判所

○判示事項

刑事訴訟法第三百二十條ト辯護人召喚

○決定要旨

被告人ニ對スル適式ノ召喚ヲ爲ササル場合ハ公判期日指定後ニ選任セラレタル辯護人ニ對シテモ召喚ヲ爲ササルヘカラサルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第三百二十條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ

第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ

○事實

第二審ハ上告趣意書記載ノ如ク辯護人ニ公判期日ノ通知ヲ爲サスシテ同辯護人不出頭ノ儘審理判決シタルモノナリ

○主文

本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

○理由

辯護人赤井幸夫上告趣意書第一點原審昭和十年十二月十二日ノ第一回公判ニハ被告人ノ選任シタル辯護人高橋茂(記録第二六八丁辯護人選任届)出廷セス(記録第二七〇丁裏公判調書參照)而シテ記録ヲ閱スルニ同辯護人ニ對シテ右公判期日ノ告知ヲ爲シタル事跡ナキハ勿論他ノ訴訟關係人中ノ何人ニ對シテモ右期日ノ告知アリタルモノト認ムヘキ證左ナシ果シテ然ラハ右辯護人不出廷ノ儘前示公判期日ニ於テ審理ヲ爲シタルハ違法ニシテ從テ該審理ニ基キテ下サレタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

【要旨】

仍テ按スルニ裁判長カ既ニ公判期日ヲ定メ被告ニ對シ召喚手續ヲ爲シタル後始メテ辯護届ノ提出セラレタル場合ニハ之ニ對シテハ最早召喚ヲ爲スノ要ナキコトハ本院ノ判例トスルトコロナレトモ右被告ニ對スル召喚ノ手續トハ刑事訴訟法第三百二十一條ニ規定セル適式ノ召喚ヲ爲シタル場合又ハ之ニ代ルヘキ方法ヲ以テ通知シタル場合ヲ指斥スルモノニシテ裁判長カ公判期日ヲ定メ被告ニ對シ右ノ如キ

刑事訴訟法第三百二十條ト辯護人召喚

召喚手續ヲ爲シタル後辯護届ノ提出セラレタル場合ニハ之キ對シテ召喚ヲ爲スノ要ナキモ被告ニ對スル適式ノ召喚ヲ爲ササル場合公判期日指定後ニ選任セラレタル辯護人ニ對シテモ召喚ヲ爲ササルヘカラサルモノト解スルヲ相當トス本件記録ニ依レハ原審裁判所ノ裁判長ハ昭和十年十二月二日ヲ以テ同月十二日ヲ本件公判期日ト指定シ被告ハ同月十日辯護士高橋茂ヲ辯護人トシテ選任シ其ノ旨ノ届出ヲ爲シタルニ拘ラス同辯護人ニ對シテ公判期日ノ通知ヲ爲スコトナク本院ノ照會ニ對スル高知刑務所ノ回答ニ依リテ明カナル如ク公判開廷當日タル十二月十二日ニ至リ始メテ被告ニ右期日ヲ通知シタルニ過キス而シテ原審公判調書ニ依レハ原審ハ前示辯護人高橋茂ノ立會ナクシテ審理シタルコト明白ナルヲ以テ辯護權ヲ不當ニ制限シタル違法アルモノト謂ハサルヘカラス尤モ同調書ニ依レハ被告ハ審理ノ最終ニ當リ前示辯護人ノ辯論ヲ拋棄スル旨申立タルコトヲ知り得ヘキモ拋棄スルマテノ公判手續ノ違法ハ之ニ依リ除去セラルヘキモノニアラス本論旨理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス因テ他ノ論旨ニ對シテハ説明ヲ與ヘス刑事訴訟法第四百四十條ニ依リ主文ノ如ク決定ス

檢事平井彦三郎關與

○偽證教唆詐欺被告事件 (昭和十一年(九)第四二二號 棄却)
(同年五月四日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 辻 常 松 辯護人 (田邊哲崖 小齋甚治郎)

【第一審】 彦根區裁判所 【第二審】 大津地方裁判所

○判示事項

假處分中ノ株券ノ賣却ト詐欺罪ノ成立

○判決要旨

被告人ハ相手方ニ於テ株券カ假處分中ノ物件ナルコトヲ知ラハ取引ヲ爲ササルヘキヲ察知シナカラ故意ニ黙秘シテ之ヲ告知セス右株券カ適法ニ賣買シ得ラルルモノナリト誤信セシメ該賣買代金名義ノ下ニ金員ヲ受取リタルトキハ詐欺罪成立ス

【參照】 刑法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

假處分中ノ株券ノ賣却ト詐欺罪ノ成立

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

民事訴訟法第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ京都市中京區柳馬場通三條上ル吳服商外村與左衛門方ニ店員トシテ雇ハレ中昭和八年十月頃ヨリ昭和九年九月十九日頃迄ノ間同市同區御池通間之町東入京都株式取引所員祝鼎ニ委託シ取引シ居リタル株式短期清算取引ニ付同人ニ對シ金千三百四十八圓三十六錢ノ債務ヲ負擔スルニ至リ右鼎ヨリ京都地方裁判所ニ清算取引損害金請求ノ訴ヲ提起セラレ同年十一月八日同廳ニ於テ被告人敗訴ノ判決ノ言渡アリ次テ該判決ハ確定シタルカ昭和十年二月七日更ニ鼎ヨリ京都區裁判所ニ右債務不拂ヲ原因トスル破産宣告ヲ申立テラレ續イテ昭和九年六月二十日同人ヨリ被告人ニ賣渡シ現ニ其ノ所有ニ係ル大日本麥酒株式會社株式三十株(時價金千三百四十圓九十四錢相當)ニ付處分禁止ノ假處分命令ヲ申請セラレ昭和十年二月七日同裁判所ヨリ右物件ノ賣買讓渡質入等一切ノ處分ヲ爲スヘカラサル旨ノ假處分決定ヲ受ケタルトコロ被告人ハ

第一 昭和十年四月二十五日大阪市今橋一丁目株式店鈴野幸次郎方ニ到リ同店外交員竹野内勝見ニ對シ右株式カ前示

ノ如ク假處分中ノ物件ニシテ勝見ニ於テ該事實ヲ知ラハ取引ヲ爲ササルヘキヲ察知シナカラ故意ニ默秘シテ之ヲ告知セス同人ヲシテ右株式カ適法ニ賣買シ得ラルルモノナリト誤信セシメ以テ同人ノ手ヲ經テ附近ノ株式取引店合資會社福本商店代表社員妹尾鶴次郎ニ賣渡シ即日右鈴野取引店ニ於テ勝見ヨリ該賣買代金名義ノ下ニ金千七百七十圓ヲ受取り之ヲ騙取シ

(第二事實省略)

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中詐欺ノ點ハ刑法第二百四十六條第一項ニ偽證教唆ノ點ハ同法第六十九條ニ各該當スルトコロ右ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ重キ偽證教唆ノ罪ニ付定メタル刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人小齋甚治郎上告趣意書第一點ハ原判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人ハ京都市中京區柳馬場通三條上ル吳服商外村與左衛門方ニ店員トシテ雇ハレ中云々破産宣告ヲ申立テラレ續イテ昭和九年六月二十日同人ヨリ被告人ニ賣渡シ現ニ其ノ所有ニ係ル大日本麥酒株式會社株式三十株(時價金千三百四十圓

假處分中ノ株式ノ賣却ト詐欺罪ノ成立

九十錢相當)ニ付處分禁止ノ假處分命令ヲ申請セラレ昭和十年二月七日同區裁判所ヨリ右物件ノ賣買讓渡質入等一切ノ處分ヲ爲スヘカラサル旨ノ假處分決定ヲ受ケタルトコロ被告人ハ第一昭和十年四月二十五日大阪市今橋一丁目株式取引店鈴野幸次郎方ニ至リ同店外交員竹野内勝見ニ對シ右株券カ前示ノ如ク假處分中ノ物件ニシテ勝見ニ於テ該事實ヲ知ラハ取引ヲ爲ササルヘキヲ察知シナカラ故意ニ默秘シテ之ヲ告知セス同人ヲシテ右株券カ適法ニ賣却シ得ラルルモノナリト誤信セシメ以テ同人ノ手ヲ經テ附近ノ株式取引店合資會社福本商店代表社員尾鶴次郎ニ賣渡シ即日右鈴野取引店ニ於テ勝見ヨリ該賣買代金名義ノ下ニ金千七百七十圓ヲ受取り之ヲ騙取シト判示シ刑法第二百四十六條第一項ヲ適用處斷シタリ然レトモ詐欺罪ハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スルコトニ因リテ成立スルモノナルカ故ニ財物ノ侵害ニ因リ對者ニ損害ヲ被ラシムルト同時ニ犯人ニ於テ不法ニ利益ヲ收メタル事實ノ發生シタルコトヲ必要トス從テ假令欺罔ノ行爲アリトスルモ對者ニ何等ノ損害ナク又犯人ニ於テモ利益ヲ收メタル事實ナクハ詐欺罪ノ成立ナキコト論ヲ俟タス而シテ本件ハ敍上ノ判示ニ徴スルモ被告人ハ自己所有ノ株式ヲ市場ノ公定相場ヲ以テ賣却シ其ノ代金ヲ得タルモノニシテ毫モ騙取シタルモノニ非サルコト明白ナリ又假處分中ノ物件ト雖賣買セラレタル目的物件ニ何等ノ瑕疵ナク取引價值ニ何ノ影響スル所ナキハ勿論何等ノ利益ナル事實存在シタルモノニ非ス從テ處分スヘカラサル物件ヲ處分シタル其ノ所爲ニ付責任ヲ問ハルルハ格別市場公定相場ノ代金ヲ騙取シタリト云フコトヲ得サルヤ當然ナリ現ニ

不動産登記ニ關スル取扱例ニ見ルニ假處分命令ニ因リ賣買讓渡抵當權設定其ノ他ノ處分禁止セラレタル場合ニ於テモ之ヲ他ニ賣却シ其ノ移轉登記ヲ爲スコトヲ許サレ居レリ即チ讓渡人ハ第三者ニ對抗シ得サルノミニシテ其ノ不動産ノ賣買移轉ヲ爲シ得ルヲ事例トス蓋シ假處分ハ執行保全ノ方法ニ過キスシテ所有權ヲ支配スルモノニ非ス故ニ買受人ニ於テ名義書換ヲ爲シ得サル事實アリトスルモ是損害賠償ノ民事責任ヲ生スルコトアルハ格別賣買ヲ無効ナラシメ又ハ取引價值ヲ消失セシムルモノニ非ス欺罔恐喝ノ場合ニ於テ其ノ騙取シタル財物カ當然之ヲ取得スヘキ權利アルモノナル場合ニ於テハ犯罪ノ成立ナキコトハ御院ノ判例トセラルル所ナリ(大正元年十一月二十六日大正二年十二月二十三日大正五年三月八日)原判決ハ爰點ニ於テ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト信スト云フニアレトモ

【要旨】

原判決ノ認メタル事實ニ依レハ被告人ハ竹野内勝見ニ於テ本件株券カ假處分中ノ物件ナルコトヲ知ラハ取引ヲ爲ササルヘキヲ察知シナカラ故意ニ默秘シテ之ヲ告知セス同人ヲシテ右株券カ適法ニ賣買シ得ラルルモノナリト誤信セシメ該賣買代金名義ノ下ニ金品ヲ受取りタリト云フニアルヲ以テ詐欺罪ノ成立スルコトハ勿論ニシテ假令被害者ニ於テ民事上ノ損害ナシトスルモ刑事上ノ騙取タルコトヲ妨ケサルモノトス所論援用ノ當院判例ハ本件ニ適切ナラサルヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事池田克關與

○詐欺被告事件(昭和十一年(九)第四四三號 棄却)
同年五月四日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 池田逸次 外一名

【第一審】 長崎地方裁判所佐世保支部 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

詐欺罪ノ成立

○判決要旨

無盡講會員カ落札金ヲ受取ル爲擔保ヲ供スヘキ場合ニ不良田ヲ安
價ニ買入レ他人所有ノ良田ヲ擔保地ナリト詐リ指示シテ講元ヲ錯

誤ニ陷レ因テ落札金ヲ交付セシメタルトキハ物的擔保以外ニ資力
アル保證人ヲ立テアルトキト雖詐欺罪ヲ構成ス

【參照】 刑法第二百四十六條第一項 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ
懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人池田逸次同松本萬太郎ヲ各懲役一年二月ニ
處ス但シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中各六十日ヲ各其ノ本刑ニ算入ス訴訟費用ハ被告人等ノ連帶負
擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人池田井上ノ兩名ハ共謀ノ上昭和七年三月三十一日井上名義ヲ以テ佐世保市島瀬町大正無盡株式會社ト無
盡契約ヲ締結シ間モナク同年六月二十五日金八百十六圓ニテ之ヲ落札シ後掛金千百圓ノ債務ニ對シ相當ノ擔保ヲ設
定スルニ非ラサレハ落札金ヲ受取ルコト能ハサル所ヨリ其ノ頃井上名義ニテ黒川平次郎 馬場孝一ヨリ長崎縣北松
浦郡鹿町村上歌ケ浦免横道五十番田八畝十九步外四筆ノ不良田 原野等ヲ合計金二百八十五圓ニテ買求メ之ヲ相當
ノ擔保價值アルモノノ如ク裝ヒ差入レムコトヲ申出テタルヲ以テ會社ヨリ同年七月十四日調査員戸伏善次郎ヲ實地
調査ニ派遣スルヤ池田ハ同人ヲ現地附近ヘ案内シ松本儀助所有ノ同村上歌ケ浦免横道六十六番田一反二畝十三步ナ
ル良田ヲ指示シテ右擔保地ナリト申僞ハリ以テ戸伏ヲシテ右申出ノ土地カ後掛債務ヲ擔保スルニ十分ナリト誤信セ
シメ其ノ旨復命報告セシメテ該報告ニヨリ錯誤ニ陷レル同會社係員ヲシテ同年八月十六日落札金名義ノ下ニ金八百
十六圓ヲ同會社ニ於テ交付セシメ寺崎小一郎ノ手ヲ經テ之ヲ受取り騙取シ

詐欺罪ノ成立

第二 被告人池田 井上 松本ノ三名ハ共謀ノ上昭和七年八月三十一日松本名義ニテ前記會社ト無盡契約ヲ締結シ間モ
 ナク同年九月六日八百五十圓ニテ之ヲ落札シ前同様後掛金千六百十圓ニ對スル擔保提供ノ必要アルトコロヨリ其ノ
 頃松本名義ヲ以テ近藤甚太郎 松本繁太郎ヨリ前顯鹿町村上歌ケ浦免中平二百五番田一反七畝步外三筆ノ不良田ヲ
 合計四百八十五圓ニテ買受ケ之ヲ相當ノ擔保價值アルモノノ如ク裝ヒ差入レムコトヲ申出テタルヲ以テ同年九月二
 十三日同會社ヨリ實地調査ノ爲調査員戸伏善次郎ヲ派遣スルヤ被告人井上ニ於テ同人ヲ現地附近ニ案内シ黒川幸
 吉黒川伊作所有ノ同村上歌ケ浦免大平二百一十一番地ノ一、二田四反二畝二十八步外一筆ノ良田ヲ指示シテ右擔保地
 ナリト申僞ハリ以テ戸伏ヲシテ右四筆カ後掛債務ヲ擔保スルニ十分ナリト誤信セシメ其ノ旨復命報告セシメ該報告
 ニ依リ錯誤ニ陥レル同會社係員ヲシテ同年十月三日落札金名義ノ下ニ前同様金八百五十圓ヲ同會社ニ於テ被告人松
 本萬太郎ニ交付セシメテ受取り騙取シ

第三 被告人池田 松本ノ兩名ハ共謀ノ上昭和七年十二月初頃平川治兵衛ヨリ池田ノ名義ヲ以テ長崎縣北松浦郡大野
 村前川時平守立頼母子講ノ持口一口ヲ讓受ケ間モナク同月十二日之ヲ金一千八百八十六圓二十錢ニテ落札シタルカ後
 掛金二千圓ニ對スル相當ノ擔保ヲ提供スルニ非サレハ落札金ヲ受取ルコト能ハサルトコロヨリ其ノ頃池田名義ニテ
 松本壽吉 山崎淺男 黒川三代吉等ヨリ前顯鹿野村上歌ケ浦免赤木坂九十二番田二十一歩外四筆ノ不良田等ヲ合計金
 六百二十圓ニテ買受メ之ヲ相當價值アル擔保物ノ如ク裝ヒテ申出テタルヲ以テ同講會ヨリ同月二十日頃管理人松永
 彌一藤田一力 牟田三代一ノ三名カ右擔保物ノ實地調査ニ赴クヤ池田 松本ノ兩名ハ之ヲ實地附近ニ案内シ馬場兼吉
 所有ノ良田ヲ指示シテ右擔保物ナリト申僞ハリ以テ右管理人等ヲシテ申出ノ擔保物カ後掛金債務ヲ擔保スルニ十分
 ナル價值アルモノト誤信セシメ因テ同月二十一日落札金名義ノ下ニ右管理人牟田三代一方ニ於テ講則ニ基ク所定ノ
 控除金並未收金ヲ差引キ殘金八百三十六圓三十錢ヲ被告人池田逸次ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

タルモノナリ

而シテ被告人等ノ右所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ出テタルモノトス
 法律ニ照スニ被告人等ノ所爲ハ孰レモ刑法第二百四十六條第一項第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ同條所定ノ刑
 期範圍内ニ於テ被告人池田逸次及松本萬太郎ヲ各懲役一年二月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日
 數中各六十日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ全部被告人ヲシテ
 連帶負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人池田逸次上告趣意書第一點原判決ハ第一事實ニ付（前略）會社ヨリ同年七月十四日調査員戸
 伏善次郎ヲ實地調査ニ派遣スルヤ池田ハ同人ヲ現地附近ニ案内シ松本儀助ノ同村上歌ケ浦免横道六十
 六番田一反二畝十三步ナル良田ヲ指示シテ右擔保地ナリト申僞リ以テ戸伏ヲシテ右申出ノ土地カ後掛
 債務ヲ擔保スルニ充分ナリト誤信セシメ其ノ旨復命報告セシメテ該報告ニ因リ錯誤ニ陥レル同會社係
 員ヲシテ同年八月十六日落札金名義ノ下ニ金八百十六圓ヲ同會社ニ於テ交付セシメ寺崎小一郎ノ手ヲ
 經テ之ヲ受取り騙取シト認定シタリ乍併本件ニ於テ擔保不動産價值不定ノ爲相被告人松本萬太郎ノ
 保證ヲ要シ以テ之ヲ補ヒタルコト記録上明ナル事實ナリトス然ルニ原判決ハ前掲ノ如ク單ニ一右申出

詐欺罪ノ成立

ノ土地カ後掛債務ヲ擔保スルニ充分ナリト誤信セシメ」ト認定シ果シテ僞リテ指示シタル擔保物ノ評價ニ付幾何價值アルカニ付充分ノ判斷ヲ爲サス漫然トシテ擔保充分ト斷定シタルハ事實ニ反シ證據ニ據ラス尠クモ審理不充分ノ違法アルモノナリト云ヒ」第四點原判決ハ「第三、被告人池田 松本ノ兩名ハ共謀ノ上(中略)同講會ヨリ同月二十日頃管理人松永彌一 藤田一力 牟田三代一ノ三名カ右擔保物ノ實地調査ニ赴クヤ池田 松本ノ兩名ハ之ヲ實地附近ニ案内シ馬場兼吉所有ノ良田ヲ指示シテ右擔保物ナリト申僞ハリ以テ右管理人等ヲシテ申出ノ擔保物カ後掛金債務ヲ擔保スルニ充分ナル價值アルモノト誤信セシメ(中略)金八百三十六圓三十錢ヲ被告人池田逸次ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ」ト認定セリ乍併右實際ノ擔保物カ指示セラレタル田ニ對シ幾何程度ノ價值ニ於テ劣レルカノ具體的表示ナシ則チ擔保田ハ金六百二十圓ニテ買求メタルモノナルカ指示シタル馬場兼吉所有ノ所謂良田カ幾何價值ナルカハ何等判示ナシ假令管理人等ハ申出ノ擔保物カ後掛金債務ヲ擔保スルニ充分ナル價值アルモノト誤信シタリトスルモ實際ニ於テ指示セラレタル馬場兼吉ノ田カ實際ノ擔保田ニ比シ差シタル價值ノ懸隔ナキモノナリセハ右ハ管理人等ノ不明ニ依ル損害トモ云フヘク未タ以テ直チニ詐欺罪ノ成立ヲ肯定スヘキモノニ非ス則チ原判決ハ事實認定ニ付審理不盡ノ不法アルモノナリト云ヒ」被告人松本萬太郎上告趣意書第三點原判決ハ「第三、被告人池田 松本ノ兩名ハ共謀ノ上(中略)同講會ヨリ同月二十日頃管理人松永彌一 藤田一力 牟田三代一ノ三名カ右擔保物ノ實地調査ニ赴クヤ池田 松本ノ兩名ハ之ヲ現

地附近ニ案内シ馬場兼吉所有ノ良田ヲ指示シテ右擔保物ナリト申僞リ以テ右管理人等ヲシテ申出ノ擔保物カ後掛金債務ヲ擔保スルニ充分ナル價值アルモノト誤信セシメ(中略)金八百三十六圓三十錢ヲ被告人池田逸次ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ」ト認定セリ乍併右實際ノ擔保物カ指示セラレタル田ニ對シ幾何程度ノ價值ニ於テ劣レルカノ具體的表示ナシ則チ擔保田ハ金六百二十圓ニテ買求メタルモノナルカ指示シタル馬場兼吉所有ノ所謂良田カ幾何價值ナルカハ何等判斷ナシ假令管理人等ハ申出ノ擔保物カ後掛金債務ヲ擔保スルニ充分ナル價值アルモノト誤信シタリトスルモ實際ニ於テ指示セラレタル馬場兼吉ノ田カ實際ノ擔保田ニ比シ差シタル價值ノ懸隔ナキモノナリセハ右ハ管理人等ノ不明ニ依ル損害トモ云フヘク未タ以テ直チニ詐欺罪ノ成立ヲ肯定スヘキモノニ非ス則チ原判決ハ事實認定ニ付審理不盡ノ不法アルモノナリト云フニ在レトモ

原判決ハ其ノ第一ニ於テハ被告人池田ハ原審相被告人井上ト共謀シ第三ニ於テハ被告人兩名共謀ノ上本件擔保ニ供スヘキ土地ハ第一ニ就テハ二百八十五圓第三ニ付テハ六百二十圓ニテ買受ケタル各不良ノ土地ナルニ大正無盡株式會社係員及賴母子講管理人カ夫々擔保地ノ實地調査ニ出張スルヤ同係員又ハ管理人ニ對シ執レモ他人所有ノ良田ヲ擔保地ナリト僞リ指示シ同係員又ハ管理人ヲシテ充分ナル擔保物ナリト誤信セシメ因テ第一ニ付テハ八百十六圓第三ニ付テハ八百三十六圓三十錢ヲ各無盡落札金名義ノ下ニ交付セシメテ騙取シタル事實ヲ認定シタルモノニシテ右被告人等ノ行爲カ詐欺罪ヲ構成ス

【要旨】
 ルコト擔保土地ノ正當價格ノ何程ナルカ又右價格ト指示シタル他人所有ノ良田ノ價格トノ差異何程ナルカノ判斷ヲ俟ツ迄モナク明白ナリト謂フヘク又假ニ被告人等カ本件無盡後掛債務ニ付擔保物ヲ供スル外保證人ヲ立テ該保證人カ相當資力アリトスルモ之カ爲ニ被告人等ノ行爲カ詐欺罪タルコトヲ妨クルモノニ非サレハ原判決ハ擔保土地ノ價值及指示シタル他人所有ノ良田ノ價值保證人ノ有無等ニ付判示スルトコロナキモ被告人等ノ行爲ヲ詐欺罪ニ問擬シタルハ正當ニシテ所論ノ如ク審理不盡又ハ證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シタルノ違法アルモノト云フヘカラス論旨ハ孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事棚町丈四郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十一年(九)第三八八號
 同年五月七日第一刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 梅澤治之助

【第一審】 糸魚川區裁判所 【第二審】 新潟地方裁判所

○判示事項

刑事訴訟法第三百六十七條ノ適用

○判決要旨

刑事訴訟法第三百六十七條ハ被告人カ不可抗カニ因リ出頭スルコト能ハサル場合ニ於テモ其ノ適用アルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第三百六十七條 罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ罰金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
 被告人ハ昭和十年九月二十四日夜新潟縣西頸城郡上早川村西山小學校ニ於テ開催セラレタル同年同月二十五日施行ノ新潟縣縣會議員選舉ニ際シ立候補シタル中村又七郎ノ政見發表演說會場ニ於テ傍聽中偶々辯士倉又一郎ニ代リ演壇ニ

刑事訴訟法第三百六十七條ノ適用

立チタル應援辯士霜越會一ニ於テ中村候補ノ主義ハ更正會ノ主義ト一致スルヲ以テ更正會ノ一員トシテ同氏ヲ推舉スル旨ノ論旨ヲ進ムルヤ更生會員タル原審相被告人霜越安新等ハ更正會ハ何時左様ナル決議ヲシタ云々ト罵リ叫ビ立騒キ居ルニ乘シ右選舉演說ヲ妨害スル意思ヲ以テ辯士下ツテ倉又君ヲ出セト喧噪彌次ヲ飛ハシ右辯士ヲシテ五分間位演說ノ續行ヲ困難ナラシメ以テ選舉ノ自由ヲ妨害シタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百五條第二號ニ該當スルヲ以テ同條所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スルヲ相當トスヘク右罰金不完納ノ場合ニハ刑法第十八條ヲ適用シ主文掲記ノ期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書第二點然ルニ第二審裁判所ノ公判期日ハ昭和十一年一月十八日午前十時ト定メラレタルニ付同日出頭ノ目的ニテ其ノ前日即チ昭和十一年一月十七日早朝自宅出發北陸線梶屋敷驛ニ至リタル處汽車不通ノ爲期日ニ出頭不出來遂ニ缺席判決ヲ受ケタル次第ナリト云フニ在レトモ
原審ハ本件ヲ以テ罰金以下ノ刑ニ處スヘキ事件ニ該當スルモノト認メタルカ爲刑事訴訟法第三百六十七條ニ則リ被告人ノ出頭ヲ待タスシテ公判ノ審理ヲ開始シ尙其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムヘキ事跡ノ生セサリシカ爲被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ罰金二十圓ニ處スル旨ノ判決ヲ

【要旨】

爲シタルモノナルコト原判文上明白ナリ而シテ刑事訴訟法第三百六十七條ハ被告人カ不可抗力ニ因リ出頭スルコト能ハサル場合ニ於テモ其ノ適用ヲ妨ケサルモノナルヲ以テ被告人ノ出頭セサリシハ列車不通ノ爲出頭スルコト能ハサリシニ由ルモノナリトスルモ原審ノ訴訟手續ニハ何等ノ違法アルナク論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○業務妨害被告事件 (昭和十一年(れ)第四八四號 同年五月七日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 本目 コン 辯護人 瓜谷 篤治

【第一審】 神戸區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判 示 事 項

刑法第二百三十三條ノ解釋

刑法第二百三十三條ノ解釋

○判決要旨

刑法第二百三十三條ニ規定スル業務妨害罪ハ虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ業務ノ執行又ハ其ノ經營ニ對シ妨害ノ結果ヲ發生セシムヘキ虞アル行爲ヲ爲スニ依リ成立シ現實ニ妨害ノ結果ヲ發生セシメタルコトヲ必要トセス

【參照】 刑法第二百三十三條 虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ神戸市須磨區西寺田町十九番屋敷理髮業者本目喜夫ノ妻ナルトコロ昭和十年四月二十五、六日頃理髮職人山本勇ヨリ同業者加藤吉太郎ヲ介シ右喜夫方ニ理髮職人トシテ雇傭セラレンコトノ申出アリタルヲ以テ右喜夫ニ於テ同人ヲ雇入ルルコトニ決意シ從來雇傭中ノ職人ヲ解雇シ同人ノ來ルヲ待チ居タルニ拘ラス給料ノ點ニ付折衝不調ニ歸シ同人ハ依然同市同區下中島町二丁目理髮業藤本松士方ニ雇ハレ居リテ全然期待ヲ裏切ルニ至リ偶週末祭日ヲ控ヘ店務多忙ノ折柄右喜夫ニ於テ深ク之ヲ憤慨シ居リタルヲ以テ被告人ニ於テモ痛ク之ヲ怨憤シ勇ヲシテ右藤本方ヲ解雇セシ

メコトヲ企テ昭和十年四月三十日頃前記被告人居宅ニ於テ顧客名義ヲ以テ勇ノ理髮技倆ハ拙劣ニシテ顧客中ニ於テモ定評アリ貴店ノ信用ノ爲速ニ之ヲ解雇スヘキコトヲ忠告スル旨ノ藤本松士宛信書一通ヲ認メ之ヲ投函郵送シ同年五月一日右藤本方ニ到達セシメ以テ偽計ヲ用ヒ山本勇ノ前記業務ヲ妨害シタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百三十三條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ該所定金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スヘク尙同法第十八條第一項ニ則リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ十日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人瓜谷篤治上告趣意書第一點原判決ハ被告人カ原判決ニ記載セルカ如キ書面ヲ山本勇ノ雇主タル藤本某ニ宛テ郵送シタル事實ヲ以テ刑法第二百三十三條ニ所謂「偽計ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタルモノ」ニ該當ストシテ同條ニ問擬シタリ然レトモ右判決ハ同條ノ解釋ヲ誤リタルカ或ハ同條ノ適用ヲ爲スニ付理由不備ノ違法アルモノト信ス(一)蓋シ同條ニヨル業務妨害罪カ成立スル爲ニハ(1)虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒタルコト(2)之カ爲他人ノ業務カ妨害サレタルコトヲ要ス從ツテ假令虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒタルコトアルモ此ニ基キ他人ニ其ノ業務カ妨害サレタルノ事實ナキ以上ハ何等本罪成立スルモノニ非ス而シテ業務カ妨害サルトハ被害者ノ業務ノ遂行上現實ニ支

障ヲ生シタルコトヲ要スルモノト解スルコトハ既ニ學說ニ於テモ一致スルトコロトイフヘク(小野博士刑法講義五四頁宮本博士刑法學粹六八〇頁)何等疑ヲ容ルルヲ要セサル所ト思料ス(二)或ハ信用毀損罪(刑法第二百三十三條)ニ於テハ人ノ財産上ノ信用ヲ害スル虞アル虚偽ノ風説ヲ流布スルノミヲ以テ之ヲ處罰スルモノトスルコト御廳從來ノ判例ナルヲ以テ業務妨害罪ニツキテモ同様ニ解シ他人ノ業務ヲ妨害スルノ虞アル虚偽ノ風説ヲ流布シタルモノヲ罰スルカ刑法第二百三十三條ノ業務妨害罪ノ法意ナリト解スルモノアラシム大ナル誤リナリ蓋シ信用毀損トハ人ノ支拂能力カ又ハ支拂意思ニ關スル他人ノ信賴ヲ失墜セシムルコトヲ意味シ從ツテ犯人ノ行爲ニヨリ他人ノ被害者ニ對スル信賴ヲ失墜スルニ至リタル事實アルコトヲ同罪成立ノ要素トセハ結局信用毀損罪ノ成立ヲ認ムルコト不能ニ歸スヘキヲ以テ信用毀損罪ニツキテハ他人ノ信用ヲ毀損スルニ足ルヘキ虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒタルモノヲ以テ信用毀損罪トシテ處罰シタルモノニシテ業務妨害ニツキテハ刑法第二百三十三條ニ於テ信用毀損罪ト同列ニ規定サレタリト雖ソノ結果ノ發生スルヤ否ヤハ必ス他人ニ明瞭ナルニ於テ信用毀損罪ト同様ニ解スヘキモノニ非サルハ當然ナリト謂フヘシ法律ノ用語ハ原則トシテ一樣ニ之ヲ解釋スヘキコトハ吾人ノ法律的生活ノ安定ト國家ノ安寧秩序維持ノ爲必要ナルコトハ言ヲ俟タス又近代國家ニ於ケル罪刑法定主義ノ基本ト謂フヘシ從ツテ殺人罪ニ於テ「人ヲ殺シタルモノハ」竊盜罪ニ於テ「他人ノ財物ヲ竊取シタルモノハ」トイフハ夫々「殺害ノ結果」「竊取ノ結果」ノ發生シタル

コトヲ意味スルモノナル以上特殊ノ理由ナキ限リ「……シタルモノハ」トイフ語ハ「……ノ結果ヲ發生セシメタルモノハ」ト解スヘキモノト思料ス果シテ然ラハ刑法第二百三十三條ニ於テ「他人ノ業務ヲ妨害シタルモノハ」トイフハ一定ノ要件ノ下ニ爲シタル行爲ニ基キ他人ノ業務妨害ノ結果ノ發生シタルトキニノミ其ノ行爲者ヲ罰スルモノト解スヘキハ至當ナリト解ス從テ業務妨害ニツキテハ信用毀損ト同列ニ解シ結果ノ發生ヲ要セスト爲ス見解ノ誤リナルハ明カナリト思料スルモノナリ(三)前般ノ見解ハ之ヲ他ノ類似ノ法規ノ規定方法ニヨリテモソノ正當ナルコトヲ窺知スルニ足ルヘシ換言セハ業務妨害罪ハ(一)他人ノ業務妨害ノ意思ト(二)此ニ基キ一定ノ方法ヲ用ヒ(三)業務妨害ノ結果ノ發生ノ三要件ニヨリテ成立スルモノニシテ結果ノ發生シタル場合ノミヲ罰スル法意ナルコトハ他ノ(一)一定ノ意思ト(二)此ニ基ク一定ノ行爲ヲ爲シタルモ(三)結果ノ發生如何ヲ問ハス前二段ノ要件ノミニヨリテ之ヲ罰スル法意ナル他ノ規定ノ立言法ト比較スレハ容易ニ明カトナルヘシ公務執行妨害ニ關スル刑法第九十五條第一項ノ規定ハ公務執行妨害ノ結果竝執行妨害ノ犯意共ニ必要トセス唯公務執行中ノ公務員ニ對スル暴行脅迫ノ犯意ノミヲ以テ足ルコトハ規定自體ニ於テ明カナリ然レトモ同第二項ノ犯罪ハ(一)公務員ニ對シ或ル處分ヲ爲サシメ又ハ爲ササラシメ又ハ其ノ職ヲ辭セシムル意思ト(二)此ニ基キ公務員ニ對シ暴行脅迫ヲ爲ス事實トノミニヨリ成立シ公務員カ加害者ノ暴行脅迫ニヨリ第一段ニ掲クル行爲ヲ爲シタル結果ノ發生ヲ必要トセス又電信法第三十三條ノ犯罪ハ(一)

自己若シクハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル意思ト(2)此ニ基キ電信又ハ電話ニヨリ虚偽ノ通信ヲ發スル事實トノミニヨリテ成立シ虚偽ノ通信ヲ發スルコトニヨリ第一段ニ掲ケタル目的ヲ達シタルヤ否ヤヲ問ハス又取引所法第三十二條ノ四ノ犯罪ハ(1)取引所ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル意思ト(2)此ニ基キ虚偽ノ風説ヲ流布シ偽計ヲ用ヒ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタル事實トニヨリテ成立シ第二段ノ行爲ニヨリ第一段ノ目的ノ實現アリタルカ否カヲ問ハス而シテ今此等ノ各規定ハ共ニ「……スル目的ヲ以テ……シタルモノハ……ニ處ス」トノ立言法ヲ用ヒ以テ最初ノ目的ノ實現サレタルヤ否ヤハ問ハサル旨ヲ明ニセリ果シテ然ラハ刑法第二百三十三條ニ於テ業務妨害ノ目的ヲ以テ偽計ヲ用ヒ又ハ虚偽ノ風説ヲ流布シタルモノハスヘテ其ノ結果ノ發生如何ヲ問ハス罰スルノ法意ナラハ前記各規定ト同様ノ立言法ヲ用フヘキニ拘ラスコレト反對ニ虚偽ノ風説ヲ流布シ偽計ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタルモノハ……」ト規定スルコトニ徴スレハ同條ハ結局虚偽ノ手段ニヨリ人ノ業務妨害ノ結果ノ發生シタルトキニ限り此等ノ虚偽方法ヲ用ヒタルモノヲ處罰スルノ法意ナルコトヲ知ルヲ得ヘシ

(四)警察犯處罰令第二條第五號ハ他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者ヲ處罰スル旨ヲ規定ス而シテ若シ刑法第二百三十三條カ他人ノ業務ニ對シ妨害ヲ爲シタルモノノ中虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒタルモノハソノ結果ノ發生如何ヲ問ハス之ヲ罰シ同法第二百三十四條カ他人ノ業務ニ對シ妨害ヲ爲シタルモノノ中暴行又ハ脅迫ソノ他威力ヲ用ヒタルモノハ其ノ結果ノ發生如何ヲ問ハス之

ヲ罰スルノ法意ナリトセンカ結局警察犯處罰令第二條第五號ハ殆ント其ノ存立ノ意義ヲ失ヒ他人ノ業務ニ對シ惡戯ヲ爲シタルモノヲノミ處罰スルノ意トナルヘシ何ントナレハ凡ソ他人ノ業務ヲ妨害スルニ刑法第二百三十三條及同第二百三十四條ニ掲クル方法ニ依ルニ非サレハ殆ントソノ方法ナク且亦然ラサレハ違法トナルコトナク假令警察的取締規定ヲ以テモ處罰スヘキ限リニ非ス結局警察犯處罰令第二條第五號ハ他人ノ業務ニ對シ惡戯ヲ爲シタル者又ハ他人ノ業務ニ對シ虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計威力等ヲ用ヒタルモ業務ノ妨害ニ至ラサリシモノヲ處罰スルノ法意ナリト解スヘク御應判例モ警察犯處罰令第二條第五號ハ「刑法業務妨害罪ノ規定ト相俟テ人ノ業務ノ安全ヲ保護スルカ爲ニ設ケラレタル規定ナレハ他人ノ業務ヲ妨害スル程度ニ至ラサルモ其ノ業務ノ安全ヲ脅ス虞アル行爲」ヲ禁止スルカ立法ノ精神ナリトシテ飲食店ノ酌婦ニ對シ病氣ノ爲酌婦營業ヲ爲ス能ハサレハ自由廢業ヲ爲シ得ヘキ旨竝抱主ニ對スル前借金ヲ支拂ハスシテ逃走スヘシト懲憑シタル事案ヲ同條ニ間擬シタリ(御應大正十五年(レ)第二〇八〇號判決判例集第六卷六一頁)果シテ然ラハ結局刑法ト警察犯處罰令ト重複規定セル部分ニツキテハ換言セハ虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ威力ヲ用ヒテ他人ノ業務ヲ妨害スル價值アル行爲ニ付キテハ被害者ニ於テ業務ヲ止息シ又ハ之ヲ繼續スルニ支障ヲ生シタル場合ニ於テ始メテ刑法ニヨリ處罰サレ其ノ他ノ場合換言セハ未遂ノ場合ニ於テハ警察犯處罰令ニ依リテ罰セラルヘキモノト思料ス此ノ點ヨリ考フルモ前段ニ述ヘタル處ノ正當ナルコトヲ知ルヲ得ヘシト信ス

(五) 以上ノ見解ニシテ是認サルルニ於テハ被告人ハ結局刑法第二百三十三條ニヨリ處罰サルヘキモノニ非ス蓋シ被告人ノ行爲ハ判示ノ如キ書面ヲ山本勇ノ雇主タル藤本松士ニ宛テ郵送シタルニ止マリソノ爲山本勇ニ對シ何等ノ不利益ヲ生シタルモノニ非スシテ寧ロ同人ハ現ニ引續キ藤本方ニ雇傭中ナルコトハ第一審並原審ノ被告人ノ陳述スル處ニヨリテ明カニシテソノ他如何ナル妨害アリタルカ何等ノ證據ナシ結局被告人ノ所爲ハ刑法第二百三十三條ニ該當セサルモノナリ依ツテ本件ニ於テ被告人ノ所爲ヲ以テ刑法第二百三十三條ニ擬律スル爲ニハ單ニ判示ノ如キ信書ヲ作成送付シタルノミニテハ足ラス山本勇ニ於テ業務妨害サレタル事實ノ存否ヲ判定セサルヘカラサルモノト信ス然ルニ原判決ハ漫然「藤本松士宛信書一通ヲ認メ之ヲ投函郵送シ(中略)偽計ヲ用ヒ山本勇ノ前記業務ヲ妨害シタルモノ」ナシ「刑法第二百三十三條ニ該當スル」モノト判示セルハ同條ノ解釋ヲ誤レル擬律錯誤ノ違法アルカ同條ヲ適用スルニツキ理由不備ノ違法アルモノト信スト云フニ在レトモ

刑法第二百三十三條ニ規定スル業務妨害罪ハ虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ業務ノ執行又ハ其ノ經營ニ對シ妨害ノ結果ヲ發生セシムヘキ虞アル行爲ヲ爲スニ依リ成立シ現實ニ妨害ノ結果ヲ生セシメタルコトヲ必要トセス蓋同條ハ人ノ經濟的方面ニ於ケル安全ヲ保護スルヲ以テ目的トシ信用ト業務トヲ併セテ規定シ信用毀損罪ニ付テハ結果ノ發生ヲ必要トセサルコト夙ニ本院判例ノ趣旨トスル所ニシテ業務妨害罪ニ付テモ妨害ノ結果ヲ發生セシムヘキ虞アル行爲ヲ爲シタルトキハ經濟的方面ニ於

【要旨】

ケル安全ヲ害スルモノト解スルヲ妥當トスレハナリ故ニ理髮業者ニ對シ雇人ヲ解雇セシムル目的ヲ以テ理髮技術拙劣ニシテ顧客中ニモ定評アリ店ノ信用維持ノ爲速ニ解雇スヘキ旨ノ信書ヲ顧客名義ヲ以テ郵送シ之ヲ到達セシムルカ如キハ所謂偽計ヲ用ヒテ雇人ニ對シ解雇其ノ他ノ業務ノ妨害トナルヘキ虞アル行爲ヲ爲シタルモノト謂ハサルヲ得ス原判示ハ之ヲ要スルニ被告人ハ理髮業者本目喜夫ノ妻ナルトコロ雇人ノ申出アル理髮職山本勇カ給料ニ付折衝不調ニ歸シ理髮業藤本松士方ニ雇ハレタルヲ憤慨シ勇ヲシテ藤本方ヲ解雇セシメントテ企テ顧客名義ヲ以テ勇ノ理髮技術ハ拙劣ニシテ顧客中ニ於テモ定評アリ貴店ノ信用ノ爲速ニ之ヲ解雇スヘキコトヲ忠告スル旨ノ藤本松士宛信書一通ヲ認メ之ヲ投函郵送シ之ヲ藤本方ニ到達セシメ以テ偽計ヲ用ヒ山本勇ノ業務ヲ妨害シタリト云フニ在ルヲ以テ刑法第二百三十三條ニ該當スルト同時ニ業務妨害罪ノ理由トシテ備ハラサルモノアルヲ見ス所論警察犯處罰令第二條ノ五ハ敍上業務妨害罪ノ要件ヲ充タササル業務ノ妨害ヲ取締ル規定ニシテ兩者相埃ツテ人ノ業務ノ安全ヲ保護スル爲設ケタルモノナレハ該處罰令ニ立脚シテ本件ヲ律スルハ當ラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事池田克關與

○放火被告事件(昭和十一年(九)第一八號
同年四月十五日第三刑事部判決) 棄却

【上告人】 被告人 前村常雄 辯護人 (柏原語六)
法定代理人 前村四郎助
【第一審】 鹿兒島地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

辯護ノ範圍ニ制限ヲ付シタル辯護人ノ選任

○判決要旨

公判裁判所證人訊問ノ囑託ヲ爲シタル場合ニ於テ被告人力新ニ受託裁判所所在地ニ於テ辯護人ヲ選任シ之ト連署シタル書面ヲ受託裁判所ニ差出シタルトキハ當該辯護人ノ辯護關係ハ受託判事ノ證人訊問ノ立會ニ制限セラレタルモノトス

辯護ノ範圍ニ制限ヲ付シタル辯護人ノ選任

【参照】 刑事訴訟法第三十九條 被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及配偶者並被告人ノ屬スル家ノ戸主ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

同法第四十一條 辯護人ノ選任ハ審級毎ニ之ヲ爲スヘシ

豫審中爲シタル辯護人ノ選任ハ第一審ノ公判ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

同法第四十二條 辯護人ノ選任ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

○ 事 實

被告人ニ對スル放火被告事件ニ付長崎控訴院ニ繫屬中被告人ハ辯護士田川務ヲ辯護人ニ選任シ而シテ同院ハ證人吉元爾ノ訊問ヲ鹿兒島地方裁判所豫審判事ニ囑託シタルトコロ被告人ハ更ニ同地在住ノ辯護士鮫島宗雄ヲ辯護人ニ選任スル旨ノ届書ヲ同豫審判事ニ提出シ同辯護人ハ右證人訊問ニ立會シタリ其ノ後原院ニ於テ第二回公判開廷ノ際辯護人田川務ニ對シテハ召喚狀ヲ送達シタルモ辯護人鮫島宗雄ニ對シテ右公判期日ノ召喚狀ヲ發セザリシ爲同辯護人ハ該第二回公判期日ニ出頭セザリシモノナリ

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

辯護人柏原語六上告趣意書第一點原審判決ハ其ノ手續上ニ於テ重大ナル違法アルヲ以テ破毀ヲ免レヌ則チ原判決ノ基本トナリタル第二回公判調書(昭和十年十二月六日)ヲ閱スルニ被告人ノ辯護人鮫島宗雄(辯護届記録第七五三丁)カ出頭シ居ラス仍而同辯護人ニ對シ第二回公判期日タル昭和十年十二月六日ノ公判期日召喚狀ヲ送達シタルヤ否ヤヲ調査スルニ第一回公判調書中「次回期日ハ追テ指定スト告ケ閉廷シタリ」(記録七四〇丁)ト記載シアリテ第一回公判期日ニ於テハ次回期日ヲ指定セザリシモノナリ故ニ第二回公判期日ヲ指定シタルトキハ其ノ旨右辯護人ニ送達スルカ又ハ期日請書ヲ徵スヘキニ不拘其ノ何等ノ痕跡ナキヲ以テ同辯護人ニ對スル公判期日ノ召喚狀ノ送達ヲナササリシコトニ歸シ且同辯護人不出廷ノ儘公判ヲ開キ審理ヲ爲シタルコト明ナレハ這ハ同辯護人ノ辯護權ヲ不法ニ制限シ公判手續上重大ナル違法アリト云フヘシ尤モ記録第七五三丁ノ辯護届ハ昭和十年十月二十八日附ヲ以テ其ノ宛名ヲ「鹿兒島地方裁判所豫審判事御中」トアレトモ當時本件ハ既ニ長崎控訴院ニ於テ審理中ニ係リ同辯護人ハ同院ノ囑託ニ因ル證人訊問ニ立會ヒセルコト明カナル以上同辯護人ハ原審ニ於ケル辯護人ニシテ辯護届ノ宛名ハ誤記ナリト云ハサルヲ得ス然ラハ斯ル違法ノ公判ニ基キテナサレタル原判決ハ違法ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

【要旨】

仍テ按スルニ辯護人ハ一定ノ被告人ヲ保護スヘキ任務ヲ有スルモノニシテ畢竟被告人ノ利益ヲ防禦スル機關ニ外ナラス從テ被告人ハ審級ノ或ル期間又ハ訴訟行爲ノ或部分ヲ限リテ辯護人ヲ選任スルコト

辯護ノ範圍ニ制限ヲ付シタル辯護人ノ選任

ヲ得ルモノト解スルヲ相當トシ斯ノ如キ場合ニ於テハ其ノ辯護人ノ辯護權ハ限定セラレタル期間又ハ訴訟行為ノ完結ニ因リテ終了スルモノトス本件ニ於テ被告人原審ニ於ケル第一回公判以來ノ辯護人田川務及前示鮫島宗雄三者ノ住所ノ地理的關係原審ニ於ケル訴訟手續進行ノ模様被告人及鮫島宗雄連署ノ辯護届(記録第七五三丁)ノ様式其ノ他ノ事情ヨリ推考スルトキハ辯護人鮫島宗雄ト被告人トノ間ノ辯護關係ハ兩者間ノ默示ノ特別意思表示ニ因リ前掲囑託證人訊問ノ立會ノミニ局限セラレ從テ右證人訊問ノ終結ニヨリテ絶對的ニ終了シタルモノト認ムルヲ相當トス況ンヤ前掲辯護届ナルモノヲ查閱スルニ宛名ハ鹿兒島地方裁判所豫審判事御中トアリ同豫審判事ニ於テ之ヲ受付ケタルノ事迹アルヲ以テ假令右辯護届カ本件ノ原審繫屬中ニ提出セラレタリトスルモ前示鮫島宗雄ヲ目シテ原審辯護人ナリト認ムルヲ得サルニ於テヲヤ尤モ同人カ前掲囑託證人訊問ニ立會ヒタルコトハ記録ニ徵シ明白ナルモ受託裁判所ノ行フ證人訊問ハ公判ノ準備タルニ過キスシテ必シモ辯護人ヲ立會ハシムルコトヲ要セサルヲ以テ同人カ右訊問ニ立會ヒタルノ故ヲ以テ同人ヲ原審辯護人ナリト斷シ前示辯護届ノ宛名ヲ誤記ナリト主張スル所論ハ正鵠ヲ得タルモノト爲スヲ得サレハ右鮫島宗雄ハ以上孰レノ意味ニ於テモ原審第二回公判ニ出廷スヘキモノニ非サルヲ以テ所論ノ如ク原審カ同人ヲ同公判期日ニ呼出ササレハトテ之ヲ以テ辯護權ノ不法制限延イテハ公判手續ノ違法ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス仍テ本論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事池田克關與

○府會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十一年(九)第四八八號 同年五月七日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 森 熊治郎 辯護人 狩野一郎 秋山高三郎 池田野田一助 菅野助 金野雄
 外一名
 【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

犯罪後ノ處罰規定ノ改正ト新舊兩法ノ比照

○判決要旨

衆議院議員選舉罰則違反ノ犯罪後其ノ處罰規定ノ改正アリタル場

犯罪後ノ處罰規定ノ改正ト新舊兩法ノ比照

合ニハ新舊兩法ヲ比照シ其ノ刑ニ輕重ナキトキハ行爲時法タル舊法ヲ適用スヘキモノトス

【參照】 刑法第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人森熊治郎ヲ禁錮四月ニ同藤井悅太郎ヲ禁錮二月ニ處ス但シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中被告人森熊治郎ニ對シ十五日同藤井悅太郎ニ對シ十日ヲ夫々被告人等ノ右各本刑ニ算入ス被告人藤井悅太郎ヨリ金三圓六十四錢ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人森熊治郎ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル大阪府會議員選舉ニ際シ豫テ大阪市北區ノ選舉區ヨリ立候補ノ決意ヲ爲シ居リタル廣瀨勝ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同人立候補ノ曉ニ於テ其ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

- (一) 同年六月三日頃大阪市天王寺區茶臼山町三十二番地料亭榎佐ニ於テ同選舉區ノ選舉人タル被告人藤井悅太郎外十餘名ニ對シ暗ニ廣瀨勝ノ爲投票並選舉運動ヲ依頼シ其ノ報酬ト爲ス趣旨ノ下ニ一人前金三圓六十四錢餘ニ相當スル酒食ノ饗應接待ヲ爲シ
- (二) 同月六日頃大阪府北河内郡守口町九百二十二番地料亭中島屋ニ於テ同選舉區ノ選舉人江森覺之助鹽見清六外十餘名ニ對シ暗ニ前同様ノ依頼ヲ爲シ前同様ノ趣旨ノ下ニ一人前約二圓五十錢ニ相當スル酒食ノ饗應接待ヲ爲シ

以テ無資格選舉運動ヲ爲シ

第二 被告人藤井悅太郎ハ

- (一) 右廣瀨勝ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同人立候補ノ曉ニ於テ同人ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同年三月末頃ヨリ同年六月中頃ニ至ル迄ノ間大阪府北區東野田町五丁目二十一番地高島勘一方外數十名ノ同選舉人方ヲ戶別ニ訪問シ其ノ都度同人等ニ對シ暗ニ廣瀨勝ノ爲投票アリタキ旨依頼シ以テ無資格選舉運動ヲ爲シ
- (二) 前示第一(一)記載ノ日時場所ニ於テ同項記載ノ趣旨ヲ諒知シナカラ被告人森熊治郎ヨリ同項記載ノ饗應接待ヲ受ケ

タルモノニシテ被告人森熊治郎ノ右各饗應接待ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人森熊治郎ノ判示所爲中饗應接待ノ點ハ行爲時法ニ依レハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法(昭和九年法律第四十九號ニ依ル改正前ノモノ)第百二十二條第一號刑法第五十五條ニ判決時法ニ依レハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法(同前改正後ノモノ)第百二十二條第一號刑法第五十五條ニ各該當スルトコロ右ハ犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタル場合ナルヲ以テ刑法第六條第十條ニ則リ右新舊兩法ノ刑ヲ比照シ輕キ舊法ノ刑ヲ適用スヘク無資格選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法(同前改正前ノモノ)第九十六條本文第百二十九條ニ該當スルトコロ右無資格選舉運動及饗應接待ノ所爲ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ後者ノ罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中禁錮刑ヲ撰擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ禁錮四月ニ處スヘク被告人藤井悅太郎ノ判示所爲中無資格選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法(同上)第九十六條本文第百二十九條ニ戶別訪問ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法(同上)第九十八條第一項第百二十九條ニ該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前

段第十條ニ則リ犯情重シト認ムル戸別訪問罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中禁錮刑ヲ撰擇シ變應接待ヲ受ケタル點ハ行爲時法ニ依レハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法(同上)第一百十二條第四號第一號ニ判決時法ニ依レハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法(同前改正後ノモノ)第一百十二條第一項第四號第一號ニ各該當スルトコ右ハ犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタル場合ナルヲ以テ刑法第六條第十條ニ則リ右新舊兩法ヲ比照シ輕キ舊法ノ刑ヲ適用シ所定刑中禁錮刑ヲ撰擇スヘク右戸別訪問罪ト變應接待ヲ受ケタル罪トハ刑法第四十五條前段所定ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條本文第十條ニ則リ重キ後者ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍ニ於テ同被告人ヲ禁錮二月ニ處スヘク同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中主文第二項記載ノ各日數ヲ夫々被告人等ノ右各本刑ニ算入スヘク被告人藤井悅太郎カ第二(二)ノ變應接待ニ因リテ受ケタル利益ハ全部之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ府縣制第四十條衆議院議員選舉法(同前改正前ノモノ)第一百四條ニ依リ主文第三項記載ノ如ク其ノ價額ヲ追徵スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人森熊治郎辯護人秋山高三郎 池田和夫 菅野勘助 金石一雄 上告趣意書第一點原判決ニハ擬律錯誤ノ違法存ス衆議院議員選舉法ハ其ノ第六十七條ニ於テ議員候補者タラントスル者ハ選舉ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル日ヨリ選舉ノ期日前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ選舉人名簿ニ記載セラレタル者他人ヲ議員候補者ト爲サントスルトキハ前項ノ期間内ニ其ノ推薦ノ届出ヲ爲スコトヲ得ト規

定シ同法第八十八條ニ於テハ議員候補者ハ選舉事務長一人ヲ選任スヘシ但シ議員候補者自ラ選舉事務長ト爲リ又ハ推薦届出者議員候補者ノ承諾ヲ得テ選舉事務長ヲ選任シ又ハ自ラ選舉事務長ト爲ルコトヲ妨ケスト規定シ更ニ同法第八十九條ニハ選舉事務所ヲ設置シ又ハ選舉運動ノ爲使用スル勞務者ヲ選任スルコトヲ得ス云々同第九十六條ニハ議員候補者選舉事務長又ハ選舉委員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス云々同第九十六條ニハ議員候補者選舉事務長又ハ選舉委員ニ在リテハ所謂法定ノ選舉運動者ナル者アルヘキ筈ナク從テ法定選舉運動者ノ選舉運動ナルモノモ之アルコトナシ左レハ右届出前ニ於テ同法第一百十二條ニ該當スルカ如キ行爲アリタル場合ハ總テ皆同法第九十六條第一百二十九條ニ該當スルモノト謂ハサルヘカラス以上ノ次第ナルニ拘ラス新法カ特ニ新ニ第九十五條ノ二ノ規定ヲ設ケ同條ニ違反スル所爲アルモノニ對シテハ同法第二百二十九條ニヨリ處罰スル旨規定セル點ヨリ見ルトキハ舊法時代ニ於テハ同法第六十七條ニ依ル届出前ノ選舉運動ハ之ヲ處罰セサルノ趣旨ナリシモノト解スルヲ正當トスヘク假ニ舊法時ニ於テハ之ヲ所謂無資格運動者トシテ處罰スヘキモノト解スヘカリシトスルモ新法施行後ニ於テハ此等ノ所爲ハ總テ皆第九十五條ノ二ノミニ該當スルモノトシテ處罰スルノ法意ナルコト洵ニ明ナル處ナリト信ス(即チ第九十六條ノ規定ハ第六十七條ノ届出後ノ運動ニ關シテノミ適用アルモノ)原判決ノ認メタル事實ハ「被告人森熊治郎ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル大阪府會議員總選舉ニ際シ豫テ大阪市北區ノ選舉區ヨリ立候補ノ決

犯罪後ノ處罰規定ノ改正ト新舊兩法ノ比照

意ヲ爲シ居リタル廣瀬勝ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同人立候補ノ曉ニ於テ其ノ當選ヲ得シ
 ムル目的ヲ以テ(一)同年六月三日頃大阪市天王寺區茶臼山町三十二番地料亭榎佐ニ於テ同選舉區ノ
 選舉人タル被告人藤井悅太郎外十餘名ニ對シ暗ニ廣瀬勝ノ爲投票竝選舉運動ヲ依頼シ其ノ報酬ト爲ス
 趣旨ノ下ニ一人前金三圓六十錢餘ニ相當スル酒食ノ饗應接待ヲ爲シ(二)同月六日頃大阪府北河内郡
 守口町九百二十二番地料亭中島屋ニ於テ同選舉區ノ選舉人江森覺之助 鹽見清六 外十餘名ニ對シ暗ニ
 前同様ノ依頼ヲ爲シ前同様ノ趣旨ノ下ニ一人前約二圓五十錢ニ相當スル酒食ノ饗應接待ヲ爲シ以テ無
 資格運動ヲ爲シタルモノナリト云フニ在リテ新舊法比照ノ上舊衆議院議員選舉法第百十二條第一項
 第一號同第九十六條本文(改正前ノ)第百二十九條等ヲ適用シテ有罰ノ言渡ヲ爲シタリト雖右饗應接
 待ハ衆議院議員選舉法第六十七條ノ届出前ニ在ルモノナルコト該判示事實自體ニ依リテ明ナル處ナル
 ヲ以テ前述ノ理由ニ依リ非法定運動者ノ運動ノ點ハ全ク原判決適用ノ法條ニ該當セサルモノト解スヘ
 ク假ニ舊法當時ニ於テハ原判決適用ノ罰條ニ當ルモノト解スヘカリシモノトスルモ新法ノ施行セラレ
 タル裁判當時ニ於テハ同法第九十五條ノ二ニ該當スルモノトシテ處斷セサルヘカラサルモノナリトス
 然ルニ原判決ノ事竝ニ出テサリシハ違法ニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云ヒ」第二
 點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アルモノナリ凡ソ犯罪後刑罰法規ノ改正アリタル場合ニ於テハ刑法第六條
 ノ規定ノ適用アル場合ノ外裁判時ノ法律ヲ適用スヘキモノナリ加之犯罪後法律ノ改正ニ因リテ刑ノ變

更アリタルヤ否ヤハ新舊兩法ヲ對照比較シテ後始メテ之ヲ知ルコトヲ得ヘキモノナルカ故ニ假ニ其ノ
 刑同一ナルカ爲新法ヲ適用シテ處斷スヘキ場合ニ於テモ先ツ新舊兩法ヲ比照セサルヘカラサルモノナ
 リトス(御院判例明治四十一年判決錄第一一一一丁參照)然ルニ原判決ハ事竝ニ出テス上告人ノ所謂
 無資格運動ノ點ニ付直チニ改正前ノ法律ヲ適用シテ處斷シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ
 府縣制第三十九條ニ依リ府縣會議員選舉ニ付準用セララル衆議院議員選舉法第九十六條(昭和九年法
 律第四十九號ニ依ル改正前ノモノ)ニ依レハ議員候補者選舉事務長選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレ
 ハ演說又ハ推薦狀ニ依ル以外ノ選舉運動ハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノナレハ同法第六十七條第一項乃
 至第三項ノ届出ヲ爲ササル爲未タ右ノ如キ法定ノ選舉運動者タル資格アル者存在シ得サル時期ニ於テ
 モ演說又ハ推薦狀ニ依ル以外ノ選舉運動ハ何人ニモ之ヲ許ササル法意ナリト解スルヲ相當トス從ツテ
 其ノ届出前ニ於テ何等法定ノ選舉運動者タル資格ナキニ拘ラス右ノ如キ選舉運動ヲ爲シタルトキハ同
 法第九十六條(前同)ニ違反スルモノトシテ府縣制第四十條ニ依リ準用セララル同法第百二十九條
 (前同)ヲ適用スヘキモノトス然ルニ昭和九年法律第四十九號ニ依ル衆議院議員選舉法ノ改正ニ依レ
 ハ第九十五條ノ二ヲ追加シ選舉運動ハ第六十七條第一項乃至第三項ノ届出アリタル後ニ非サレハ之ヲ
 爲スコトヲ得スト規定シ其ノ届出前ニ於テハ一切ノ選舉運動ヲ許ササルコトト爲シタルヲ以テ右法律
 改正後ニ於テハ其ノ届出前ニ於ケル選舉運動ニ對シテハ同法第九十五條ノ二第百二十九條(右法律第

【要旨】

四十九號ニ依ル改正ノモノヲ適用處斷スヘク同法第九十六條第一項(前同)ハ專ラ右届出後ノ選舉運動ヲ律シ敍上改正前ヨリモ其ノ適用範圍縮小シタルモノト解スヘキモノトス原判示ニ依レハ被告人森熊治郎ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル大阪府會議員總選舉ニ際シ豫テ大阪市北區ヨリ立候補ノ決意ヲ爲シ居リタル廣瀬勝ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同人立候補ノ曉ニ於テ其ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年六月三日頃及同月六日頃同選舉區ノ選舉人十餘名ニ對シ廣瀬勝ノ爲投票並選舉運動ヲ依頼シ酒食ノ饗應接待ヲ爲シ以テ無資格選舉運動ヲ爲シタリト云フニ在リテ該事實ニ依レハ同被告人ノ行爲ハ立候補届出前ニ於ケル無資格選舉運動タルコト明カナリ而シテ昭和十年七月三日公布セラレタル同年法律第四十四號附則ニ依レハ大阪府會議員選舉ニ付テハ右總選舉ヨリ同法施行セラレルト共ニ同法ノ適用ニ付テハ同時ニ昭和九年法律第四十九號モ亦施行セラレタルモノト看做スヘキモノニシテ原判決當時ニ於テハ犯罪後法律ノ改正アリタル場合ニ該當スルヲ以テ新舊兩法ヲ比照スルニ同被告人ノ右行爲ハ舊法即チ行爲時法ニ依レハ府縣制第三十九條第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法(改正前ノモノ)第九十六條第百二十九條ニ該當シ新法即チ原判決時法ニ依レハ同シク府縣制第三十九條第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法(改正ノモノ)第九十五條ノ二第百二十九條ニ該當シ兩者其ノ刑同一ニシテ輕重ナキヲ以テ行爲時法タル右舊法ニ從ヒ處斷スヘキモノトスサレハ原判決ニハ第一點所論ノ如キ擬律錯誤ノ違法アルコトナキヲ以テ此ノ點ノ論旨ハ其ノ理由ナク又原判決カ新舊兩法ノ比照ヲ爲ササルハ失當ナレトモ舊法タル行爲時法ヲ適用處斷シタル點ニ於テ結局擬律ノ錯誤ナキニ歸シ右瑕疵ハ未タ以テ原判決ヲ破毀スル理由ト爲スニ足ラス論旨第二點モ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事池田克關與

○強盜殺人死體遺棄被告事件 (昭和十一年(レ)第五〇六號 棄却)
(同年五月七日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 上田貞利 辯護人 (岡田庄枝 古森幹枝)

【第一審】 松江地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

豫審請求書ト日附ヲ誤リタル受付印

○判決要旨

豫審請求書ト日附ヲ誤リタル受付印

豫審請求書ニ押捺シタル裁判所受付印ノ日附ニ誤アリトスルモ之
カ爲ニ同請求書ヲ無効ナラシムルモノニ非ス

【参照】 刑事訴訟法第七十一條 官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場

合テ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ

書類ニハ每葉ニ契印スヘシ

同法第七十二條 官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄スヘカラス挿入、削除又ハ

關外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ削除シタル部分

ハ之ヲ讀得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

同法第二百九十一條 公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及罪名ヲ示スヘ

シ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テス

ヘシ

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ死刑ニ處ス押收ニ係ル獵銃一挺(證第九
號)ハ之ヲ沒收ス押收ニ係ル現金七十五圓(證第十號)ハ之ヲ被害者ニ還付ス訴訟費用ハ全部被告人
ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書本籍地ニ居住シ農ノ傍ヲ狩獵ニ從事シ其ノ生計ヲ立テ居レルモノナルカ昭和十年三月頃約三千餘圓ノ負

債アリ殊ニ居村信用組合ニ對スル借金用ノ利息、村役場ヘノ租税、徴兵保險料、頼母子講返掛金及遊興費等ノ支拂ニ迫
ラレ其ノ金策ニ腐心シ居リタル折柄同年三月二十三日午前十一時頃豫ア毛皮ノ買取方ヲ依頼シ置キタル鳥取縣鹿足郡
小川村大字寺田毛皮商吉尾徳市實弟吉尾幸一(當時二十七年)カ被告人ノ招電ニ依リ毛皮買受ノ爲被告人ノ居宅ヲ訪
ルルヤ幸一カ相當多額ノ現金ヲ所持シ居レルコトヲ察知シ同人ヲ山中ニ誘致シテ之ヲ殺害シ其ノ所持金ヲ強奪センコ
トヲ決意シ眞實賣却スヘキ毛皮ナキニ拘ラス毛皮ハ居村大字飯ノ浦ニ存スルニ付現場マテ案内シ取引ヲ爲スヘキ旨詐
言ヲ弄シ尙途中狩獵ヲ爲スコトニ藉口シ押收ニ係ル被告人所有ノ獵銃(證第九號)彈丸ヲ携ヘ幸一ヲ伴ヒテ右居宅ヲ
立出テ小野村大字戸田字梅ヶ谷地内ノ山林ヲ越ユ同日午後二時頃同村飯ノ浦字花ヶ谷地内ノ山林ニ差蒐リタル際幸一
カ先頭ト爲リタルヲ機トシ所携ノ獵銃ニ猪打用彈丸ヲ裝填シ幸一ノ背後ヨリ其ノ後頭部ヲ目掛ケテ發砲シ以テ同人ヲ
シテ頭部貫通創ニ因リ即死セシムルニ至ラシメテ殺害シ該死體ヲ殺害ノ現場ヨリ約一丁隔リタル同密林中ニ持運ヒ其
ノ懷中ヨリ現金二百三十餘圓在中ノ財布一個(證第十號現金七十五圓ハ其ノ一部)竝現金約五圓在中ノ墓口一個ヲ強
奪シ死體ハ其ノ場ニ放置シ以テ遺棄シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中強盜殺人ノ點ハ刑法第二百四十條後段ニ該當スルヲ以テ所定刑中死刑ヲ選擇シ死體
遺棄ノ點ハ同法第九十條ニ該當シ以上ハ同法第四十五條ノ併合罪ナルモ右強盜殺人罪ニ付死刑ヲ選擇シタルヲ以テ
同法第四十六條第一項ニ依リ他ノ主刑ヲ科セス押收ニ係ル證第九號獵銃一挺ハ本件強盜殺人ノ用ニ供シタルモノニシ
テ犯人以外ノ者ニ屬セサルニ依リ同法第十九條ニ則リ之ヲ沒收シ證第十號現金七十五圓ハ右犯行ニ因リ得タル贓物ニ
シテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ依リ之ヲ被害者ニ還付スヘク訴訟費
用ハ同法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○ 主 文

豫審請求書ト日附ヲ誤リタル受付印

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人岡田庄作上告趣意書第二點記錄一三四丁ノ本件豫審請求書ヲ閱スルニ其ノ作成年月日トシテ「昭和十年三月三十一日」ト記載シアルモ同請求書ニ押捺シアル松江地方裁判所濱田支部ノ受付印ニハ「昭和十年三月三日」受付ケタル旨記載シアリテ（一）右豫審請求書ハ果シテ何年何月何日ニ作成セラレタルモノナリヤ知ルニ由ナク無効ナルノミナラス（二）同起訴狀ハ本件犯罪以前（犯罪ハ昭和十年三月二十三日）ニ於テ裁判所ニ提出セラレタルモノト謂フヘク何レニスルモ無効ナルヲ以テ原院ニ於テハ刑事訴訟法第三百六十四條第六號ニ依リ公訴棄却ノ判決ヲ爲スヘキモノナルニ事茲ニ出テサリシハ違法ニシテ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ所論ノ豫審請求書ヲ査閲スルニ同請求書ニハ明ニ昭和十年三月三十一日ノ日附記載アリ其ノ他刑事訴訟法第七十一條第七十二條第二百九十一條ノ要件ハ總テ之ヲ完備シ何等缺クル所ナシ而シテ同請求書ニ押捺シタル松江地方裁判所濱田支部ノ受付印ニハ昭和十年三月三日トアルモ同請求書記載ノ犯罪事實ハ昭和十年三月二十三日ニ行ハレタルモノニ係ルト豫審請求ト同時ニ請求セラレタル令狀カ昭和十年三月三十一日附ヲ以テ發セラレ居ルコト記錄中右請求書直後ニ編綴シアル拘引狀中ノ記載ニ依リ明白ナルトニ依リ之ヲ稽フレハ右豫審請求書ハ昭和十年三月三十一日ニ作成セラレタルモノニ係リ受付

【要旨】

印ノ日附ノ誤謬ニ過キサレコト極メテ明白ナリト謂フヘシ斯ノ如ク何等瑕疵アリト認ムヘカラサル豫審請求書ニ偶日附ヲ誤リタル受付印ノ押捺セラルルモ之カ爲ニ所論ノ如ク本件豫審請求書ヲ以テ何年何月何日ニ作成セラレタルカヲ知ルヘカラサル無効ノモノト爲スヘキモノニ非サルカ故ニ原審カ之ヲ有効トシ公訴棄却ノ判決ヲ爲ササリシハ洵ニ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事池田克關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件（昭和十一年（九）第四三六號 棄却）
同年五月十一日第一刑事部判決

【上告人】 被告人 野田季三郎 辯護人 花本福次郎

【第一審】 岡山區裁判所 【第二審】 岡山地方裁判所

選舉違反常習認定ノ資料

○判示事項

選舉違反常習認定ノ資料

○判決要旨

衆議院議員選舉法第一百十二條ノ二ノ第二項ニ所謂常習犯ヲ認定スルニ付同項制定前ノ事項ヲ資料ニ供スルモ妨クルモノニ非ス

【參照】衆議院議員選舉法第一百十二條ノ二 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ五

年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

一 財産上ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ議員候補者ノ爲多數ノ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ前條第一項第一號乃至第三號第五號又ハ第六號ニ掲グル行爲ヲ爲シ又ハ爲サシメタルトキ

二 財産上ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ議員候補者ノ爲多數ノ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ前條第一項第一號乃至第三號第五號又ハ第六號ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ請負ヒ若ハ請負ハシメ又ハ其ノ申込ヲ爲シタルトキ

前條第一項第一號乃至第三號第五號又ハ第六號ノ罪ヲ犯シタル者常習者ナルトキ亦前項ニ同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役五月ニ處ス第一審ニ於ケル未決勾留

日數中十五日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年九月二十六日施行セラレタル岡山縣會議員總選舉ニ付岡山市選舉區ヨリ立候補シタル林泰八ノ爲同月九日其ノ選舉委員ニ選任セラレタルモノナル處

第一 同候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十日頃ヨリ同月二十一日頃迄ノ間岡山市下石井柴田自動車株式會社ニ於テ選舉人土居五十二ニ同市森下町岡山バス株式會社事務所ニ於テ同藤田彰同田中傳一同大森仙三郎同小林芳男同山崎菊二ニ岡山驛前路上ニ於テ同藤田昇一ニ對シ個々ニ面接シ暗ニ同候補者ノ爲投票アリ度キ旨依頼シテ選舉運動ヲ爲シ

第二 曩ニ昭和七年二月中施行セラレタル衆議院議員總選舉ニ當リ候補者大山斐瑛磨ヨリ選舉運動報酬等ノ資金トシテ金五百圓ノ交付ヲ受ケ運動者タル岡崎陽馬其ノ他十數名ノ者ニ運動報酬等トシテ之カ供與ヲ爲シ又同八年七月施行セラレタル岡山市會議員總選舉ニ當リ候補者林泰八ヨリ選舉運動報酬等トシテ金三十圓ノ供與ヲ受ケ内十三圓ヲ自己ノ配下運動者タル補見春雄外二名ノ者ニ運動報酬トシテ供與シタルコトアルニ拘ラス更ニ常習トシテ同十年九月二十八日午後四時頃岡山市下田町二番地ナル岡山縣會議員候補者林泰八居宅ニ於テ同候補者ノ選舉運動者藤原久三郎ヨリ被告人ノ配下運動者數名ニ對スル運動報酬金ノ交付方申込ヲ受ケタルニ對シ今日直ニ該金員ノ交付ヲ受ケルハ危険ナルニ依リ時効完成後ニ貫受ケ供與シ遺ルヘキ旨應ヘ以テ右交付方申込ヲ承諾シタルモノナリ

尙辯護人ハ本法ニ所謂常習者ノ認定ニ付テハ本法施行後ニ於ケル選舉違反事實ヲ其ノ資料ニ供スルハ格別本法施行前ノ違反事實ヲ採リテ之カ資料ト爲スカ如キハ處罰規定ノ遡及效ヲ認ムルノ結果ニ歸シ許容スヘカラサルコトナル旨辯疏スレトモ凡ソ常習者トハ反覆累行ノ習癖アル者ヲ指稱シ之カ認定ハ諸般ノ事情ヲ綜合シテ判斷スルヲ相當トスヘク

選舉違反常習認定ノ資料

一定ノ標準アルモノニ非サルカ故ニ本法施行前ニ於ケル選舉違反事實ヲモ採テ以テ常習者ト認定スルノ一資料ト爲スモ毫モ妨ナク之カ爲ニ辯護人所論ノ如ク法律ノ週及效ヲ認容スルノ結果トナルコトナキニ依リ辯護人ノ辯疏ハ之ヲ排斥ス

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第二百九條第九十八條第二項ニ該當スルヲ以テ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ判示第二ノ所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百二十二條ノ二第二項第一項第一百二十二條第一項第五號後段第三號第一號ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇スヘク而シテ右第一、二ノ所爲ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條但書第十條ニ從ヒ併合罪ノ加重ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五月ニ處シ尙同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中十五日ハ之ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人花本福次郎上告趣意書第八點衆議院議員選舉法第一百二十二條ノ二ノ第二項ニ所謂「常習者」トハ刑法第八十六條ニ所謂「常習」ト之ヲ別異ニ解スヘキ理由アルコトナシ而シテ常習トハ同一行爲ヲ反覆累行スルノ習癖性ヲ云フモノニシテ前行爲ト現ニ行ハレタル行爲トカ其ノ同一性ヲ帶有スルノ事實ハ必スシモ習癖アリト云フヘカラサルハ屢々御院ノ判示セラルルトコロナリ(御院第三刑事部昭和二年(れ)第六六四號同年六月二十九日判決)原判決ハ第二事實ニ於テ被告人カ(イ)昭和七年二月

中施行セラレタル選舉ニ於テ運動報酬等ノ資金トシテ金五百圓ノ交付ヲ受ケ之ヲ他十數名ノ運動者ニ供與シタル事實ヲ認定シ(ロ)又昭和八年七月中施行セラレタル選舉ニ於テ運動報酬金等トシテ金三十圓ノ供與ヲ受ケ内十三圓ヲ他數名ノ運動者ニ供與シタル事實ヲ認定シタル後(ハ)更ニ常習トシテ昭和十年九月二十八日藤原久三郎ヨリ被告人ノ配下運動者ニ對スル運動報酬金交付方申込ヲ受ケテ之ヲ承諾シタリトノ事實ヲ認定シタリ然レトモ第一判決冒頭掲記ノ事實即チ前記(イ)及(ロ)ノ事實ト本件即チ(ハ)事實トハ如何ナル關係アリヤ右(イ)(ロ)(ハ)ノ事實カ何故ニ選舉違反行爲ノ習癖性ヲ認メサルヘカラサルカノ理由ニ至リテハ判文中毫モ明示スルトコロナシ而シテ被告人ハ所謂選舉ブローカーニアラス又選舉毎ニ不正ノ利益ヲ得テ生活スル者ニモアラサルコトハ一件記録上明白ニシテ判示事實ニ依リテハ未タ以テ習癖ノ認ムヘキモノナク從テ所謂常習者ニアラスト云ハサルヘカラス第二加之判決カ常習認定ノ資料トナシタル前記(イ)及(ロ)ノ事實ハ何レモ昭和七年及昭和八年中ノ事ニ屬スルノミナラス該事實ハ違反行爲トシテ當時處罰セラレタルモノニアラサルヲ以テ該事實カ果シテ選舉違反行爲ヲ構成スルヤ否ヤハ今日即斷シ得ヘカラサル筋合ナリトス然ルニ原審ハ漫然右事實ハ違反行爲ナリト斷定シ「常習ノ點ハ判示第二冒頭掲記ノ事實アルノミナラス更ニ同判示掲記ノ選舉違反ノ所爲アリタル事跡ニ徴シ之ヲ認ム」ト認定シタルハ違法ナリト信ス若シ然ラストセハ裁判所ハ起訴ナキ事實ニ對シ訴訟法ノ認ムル被告人ノ防禦權行使ヲ爲サシメスシテ而モ被告人ニ取リテハ

選舉違反常習認定ノ資料

重大問題タル常習認定ノ資料トナスモノニシテ乃チ前科ニアラサル事實ニ對シ前科同様ノ價值ヲ認ムルノ不合理ヲ見ルニ至リ極メテ不當ナリト云ハサルヘカラス第三衆議院議員選舉罰則中常習ニ關スル法條ハ何レモ前記(イ)(ロ)ノ事實アリタル後ニ新ニ施行セラレタルモノニシテ其ノ施行後ノ事犯ニ對シ施行前ノ事實ヲ資料ニ供シテ之カ認定ヲ爲スカ如キハ亦失當タルヲ免レス右何レノ點ヨリスルモ判決カ被告人ニ對シ選舉違反ノ常習者ナリト認定シタルハ不法ナリト信スト云フニ在レトモ

衆議院議員選舉法第百十二條ノ二ノ第二項ニ所謂常習者トハ選舉違反行爲ヲ反覆累行スル習癖アル者ヲ指稱シ必スシモ前科アルコトヲ要セサルカ故ニ違反行爲ヲ反覆シタル事實ノミニ依リ常習者ト判斷シ得ルモノトス判示事實ニ依レハ原審ハ證據ニ依リテ被告カ前二回ノ選舉ニ際シ選舉運動報酬ヲ受取リ之ヲ他ノ運動者ニ運動報酬トシテ供與シタル違反事實ヲ認定シ之ニ今回ノ事犯ヲ加ヘテ選舉違反ノ習癖アルモノト爲シタルモノナレハ所論ノ如ク不當ノ點ナシ法律制定前ノ事實ヲ制定實施後ノ常習犯認定ノ資料ニ供スルモ何等妨クルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事秋山要關與

【要旨】

○放火被告事件(昭和十一年(九)第五二一號 事實審理)

(昭和十一年(九)第五二一號 同年五月十一日第二刑事部決定)

【上告人】 被告人 古谷 鶴松 辯護人

(井上 吾郎 金原 藤一 吉見 百藏)

【第一審】 奈良地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

聽取書中ノ陳述肯定ノ供述ト其ノ證據力

○決定要旨

地方裁判所事件ニ付判事ノ訊問ニ對シ被告人カ司法警察官又ハ檢事ニ對シテ斯ル陳述ヲ爲シタリトノ供述ヲ爲スモ之ヲ採テ以テ其ノ陳述ノ内容ヲ爲ス事實ノ證據ト爲スハ違法ナリ

【參照】 刑事訴訟法第三百四十三條 被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲ス
聽取書中ノ陳述肯定ノ供述ト其ノ證據力

コトヲ得

- 一 供述者死亡シタルトキ
 - 二 疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト能ハサルトキ
 - 三 訴訟關係人異議ナキトキ
- 區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六年ニ處ス未決勾留日數中第一審ニ於ケル九十日及第二審ニ於ケル三十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大正十一年頃ヨリ奈良縣磯城郡上之郷村大字和田一番地ニ於テ酒菓子其ノ他日用雜貨荒物等ノ小賣商ヲ營ミ居リタル者ナルトコロ近時營業不振ニシテ借財漸ク嵩ミ昭和十年一月頃ニハ總額五千餘圓ニ及ヒ而モ其ノ内株式會社南都銀行ヨリノ借入金三千餘圓保證責任上之郷信用購買販賣利用組合ヨリノ借入元利金一千二百餘圓ニ付テハ何レモ嚴シク之カ辨濟ノ督促ヲ受クルニ至リシヲ以テ焦慮ノ末遂ニ同所一番地ナル自己所有ノ木造中二階建瓦葺納屋一棟木造平家建葺納屋一棟竝内縁ノ妻白井井らく事實上ノ養女安田ちよ子ト共ニ居住中ノ木造平家建葺納屋店鋪兼住宅一棟木造二階建瓦葺倉庫兼住宅一棟ニ多額ノ火災保險契約ヲ締結シテ之ヲ燒燬セハ該保險金ノ受領ニ因リテ右窮境ヲ脱シ得ヘシト思惟スルニ至リ此等ノ建物ニ付テハ既ニ日本火災保險株式會社ト金一千五百圓ノ火災保險契約ヲ締結シ居リタルニ拘ラス更ニ昭和十年二月十三日頃日本共立火災保險株式會社ト金六千圓同月十七日頃東邦火災保險株式會社ト金

六千圓同年三月十一日頃大倉火災海上保險株式會社ト金八千圓及同月十九日頃前示日本火災保險株式會社ト金二千五百圓ノ各火災保險契約ヲ締結シ同年四月八日右らく及ちよ子ヲシテ有價證券貯金通帳實印被告人ノ保管中ナリシ火災保險證券二通等ヲ納メタル木箱ヲ携帶シテ他出セシメタル後愈々前掲店鋪兼住宅ノ南隣ナル葺納屋ニ放火シテ住宅其ノ他ノ建物ニ延燒セシメンコトヲ決意シ同月十日午前一時過頃右納屋ニ到リ所携ノ燐寸ヲ以テ同納屋内ニ積載シアリタル麥藁ニ放火シ因テ前記人ノ住居ニ使用セル家屋二棟及納屋二棟ヲ全燒スルニ至ラシメタルモノナリ法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第八條ニ該當スルヲ以テ所定期中有期懲役刑ヲ撰擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六年ニ處シ同法第二十一條ヲ適用シ未決勾留日數中當審ニ於ケル三十日及原審ニ於ケル九十日ヲ右本刑ニ算入スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ全部被告人ノ負擔トスヘキモノトス尙原判決ハ其ノ證據説明中ニ左ノ如キ證據ヲ引用シタリ

- 一 第一審第一、二回公判調書中被告人ノ供述トシテ自分ハ事實ニ非サルモ警察官及檢事ノ各取調ニ對シ判示ノ如ク放火シタルコトヲ自認スル趣旨ノ供述ヲ爲シタルコトハ相違ナキ旨ノ記載

○主文

本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

○理由

辯護人井上吾郎上告趣意書第一點一、原判決ハ「所携ノマツチヲ以テ同納屋内ニ積載シアリタル麥藁ニ放火シ」ナル事實ヲ認定シ其ノ證據説明中「原審第一、二回公判調書中被告人ノ供述トシテ自分ハ

聽取書中ノ陳述肯定ノ供述ト其ノ證據力

事實ニハ非サルモ警察官及檢事ノ各取調ニ對シ判示ノ如ク放火シタルコトヲ自認スル趣旨ノ供述ヲ爲シタルコトハ相違ナキ旨ノ記載」ヲ援用セラレタリ抑モ犯罪ノ手段方法ハ即チ具體的犯罪事實ノ内容ヲ形成スルモノニシテ特定ノ手段方法ヲ抹殺シテ具體的犯罪事實ヲ認識スル能ハサルハ理論上當然言フ俟タス而シテ其ノ認定ノ資料トシテ必ス直接乃至間接ノ證據ノ存在ヲ要スルハ刑事訴訟法第三百六十條ノ命スルトコロナルニ拘ラス原判決ハ斯ル「罪トナルヘキ事實」ヲ認定スルニ當リ「之ヲ認メタル理由」トシテ證據ニ依ラス又ハ證據トナスヘカラサルモノニ基キテ判斷シ結局判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルノ不法アルニ歸スルヲ以テ破毀ヲ免レサルモノト思料ス即チ被告人カ第一審公判ニ於ケル供述内容ハ同公判調書記載ノ如ク「事實ニハ非サルモ」ナル消極的言辭ヲ接頭シテ「警察官及檢事」ニ對シ判示ノ如キ手段方法ニテ放火シタル旨ヲ述ヘタルヲ爭ハサリシノミ如斯ハ毫モ殺上手段方法ニヨリテ之ヲ爲シタル旨ノ公判廷ニ於ケル自白ニ非サルハ勿論檢事及司法警察官ノ聽取書内容ヲ同公判廷ニ於ケル供述ニ代フルノ趣旨ニモ非サルハ明白疑ヲ容レス檢事及司法警察官ノ聽取書カ所謂「法令ニヨリ作成セラレタル訊問調書」ニ非ス從ツテ刑事訴訟法第三百四十三條所定ノ要件ヲ具備スル場合ニ非サル限り之ヲ以テ罪證ニ供スルヲ得サルハ夙ニ御院判例アルトコロニシテ本件ノ場合カ同條所定ノ要件ヲ具備セサルハ勿論ナルヲ以テ考フレハ原判決カ「事實ニハ非サルモ云々相違ナキ旨ノ記載」ヲ以テ犯罪ノ手段方法ヲ認定セラレタルハ恰モ檢事司法警察官ノ聽取書ヲ直チニ罪證ニ供スル

ト毫モ選フトコロナク探證法則ニ反ス或ハ原判決舉示スル事實ノ決斷ハ裁判所ノ專權ニ屬シ其ノ當否ノ論難ヲ許サストセラレムカ之實ニ所謂「自由心證」ノ意義ノ誤解ニ出ツルモノト信ス蓋シ「證據ノ證明力ノ自由判斷」トハ適法ニ成立セル證據ノ判斷ニ付テ云フモノニ外ナラスシテ無制限ニ如何ナル事實ニ因リテモ自由心證ニ依ル判斷ヲ可能ナラシムルモノニ非ス今本件ニ就テ適法ニ成立セル證據ニシテ犯罪ノ手段方法ニ對スル證明ニ最モ關係アリト思料セラルヘキ唯一ノ被告人ノ前敘第一審公判廷ニ於ケル自供カ裁判官ニ對シ其ノ自由心證ニヨル判斷ヲ可能ナラシムル範圍ハ「事實ニハ非サルモ云々相違ナシトスル供述アル旨ノ記載」事項ニ限定セラルヘク然ラハ該供述自體カ供給スル證明力ハ公判調書記載ノ範圍ニ於テ裁判官之ヲ發見セサルヘカラス即チ被告人カ檢事又ハ司法警察官ニ對シ果シテ眞實ニ述ヘタルヤ否ヤニ付其ノ眞實ニ述ヘタリトスル心證ヲ得ヘキニ止リ更ニ超ヘテ「判示手段ニ依ル放火」ノ事實迄ヲモ認定シ得ヘキニアラス蓋シ若シ然ラサレハ訴訟法學上ノ證據概念ヲ覆スノミナラス恒ニ裁判所カ法令ニ依ラサル訊問調書ノ内容ヲ否認スル被告人ノ供述ニシテ單ニ斯ク述ヘタルヲ爭ハストスル公判廷ノ陳述ヲ直チニ採ツテ有罪ノ認定ヲ爲シ得ルニ至リ臣民ノ權利自由ノ保證ハ全ク失ハルルニ至ルヘシ殊ニ況ンヤ之ヲ記録ニ徵スルモ其ノ或ハ戸ノ節穴ヨリ放火シタリトナシ或ハ戸ヲ開キテ行ヒタリトナス等被告人カ檢事又ハ司法警察官ノ訊問ニ答フル狀態全ク統一ナシ其ノ統一ナキハ其ノ供述カ眞實ニ符合セサルコトヲ疑フニ足ル充分ナル理由アルヘク假ニ之ヲ罪證ニ供セム

聽取書中ノ陳述肯定ノ供述ト其ノ證據力

トセハ公判廷ニ於テ之ヲ統一セサルヘカラサルニ毫モ此ノ事ナシ執レニヨルモ原判決ハ證據ニヨラス又ハ證據トナスヘカラサルモノニ基キテ有罪ヲ斷定シタル不法アリト云ヒ辯護人金原藤一上告趣意書第二點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ「被告人ハ昭和十年四月十日午前一時過頃右納屋ニ到リ所携ノ燐寸ヲ以テ同納屋内ニ積載シアリタル麥藁ニ放火シ因テ前記人ノ住居ニ使用セル家屋二棟ヲ全燒スルニ至ラシメタルモノナリト認定シタリ然ルニ其ノ證據說明ノ部ニハ判示家屋二棟及納屋二棟カ全燒シタリトノ證據ハ之ヲ舉示シアルモ右認定ノ如ク被告人ハ右納屋ニ到リ所携ノ燐寸ヲ以テ同納屋内ニ積載シアリタル麥藁ニ放火シタリトノ證據ハ更ニ之ヲ舉示スルトロナシ然ラハ原判決ハ證據ニ基カスシテ事實ヲ認定シタル違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云ヒ」第三點原判決ハ其ノ證據理由ノ部ニ「原審第一、二回公判調書中被告人ノ供述トシテ自分ハ事實ニ非サルモ警察官及檢事ノ各取調ニ對シ判示ノ如ク放火シタルコトヲ自認スル趣旨ノ供述ヲ爲シタルコトハ相違ナキ旨ノ記載」ト説明シ之ヲ本件斷罪ノ資料ニ供シタリ然ルニ第一審第一、二回公判調書ヲ閱スルニ其ノ第一回公判調書ニハ「問然シ被告人ハ司法警察官及檢事ニ對シテハ自分ハ放火シタ様ニ自白シ其ノ方法マテ詳シク申述ヘテ居ルテハナイカ答夫レハ壓制ニ堪ヘラレス無實ノ自白ヲ致シタノテアリマシテ私ニハ何ト云ハレテモ覺ヘカナイノテアリマス」(記録八二〇丁裏)ト供述記載アリ其ノ第二回公判調書ニハ「問然シ被告人ノ取調ニ當ツタ櫻井警察署ノ木村警部補ハ豫審ニ於テ被告人カ放火ヲ自白シタ經路及被告人

カ書イタト云フ只今示シタ圖面ノ事ニ付テ斯様ニ申述ヘテ居ルカ如何此ノ時裁判長ハ證人木村岩造ニ對スル豫審訊問調書中第五、六問答ノ記載ヲ讀聞ケタリ答夫レハ嘘テアリマス私ハ木村警部補トモウ一人巡查カ部長カ知りマセヌカ札葉ト云フ人カラ頭ヲ叩タカレタリ首ヲ突上ケラレタリシテ寔ニエライ目ニ遭ハサレタノテアリマス夫レカツラサニ心ニモナイ自白ヲシタノテアリマシタ」(記録八二七丁裏以下)ト供述記載アリテ右供述記載ニ依レハ被告人ハ警察官ノ拷問ニ堪ヘスシテ不實ノ自白ヲナシタルモノナリト云フニ在リテ原判決摘示ト其ノ趣旨大ニ異ナルモノアリトス然ラハ原判決ハ被告人供述ノ趣旨ヲ分割變更シテ罪證ニ供シタル違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在リ仍テ第一審第一、二回公判調書(殊ニ記録第八二〇丁裏一行目ヨリ十一行目迄及第八二六丁表十行目ヨリ第八二八丁裏二行目迄)ヲ査閱スルニ被告人ハ判事ノ訊問ニ對シ司法警察官及檢事ノ取調ニ對シテハ壓制ニ堪ヘカネ放火シタル旨ノ無實ノ自白ヲ爲シタリトノ趣旨ノ抽象的供述ヲ爲シタルニ止マリ原判示ノ如ク藁葺納屋ニ到リ所携ノ燐寸ヲ以テ同納屋内ニ積載シアリタル麥藁ニ放火シタリトノ放火ノ方法ニ關スル具體的事實ニ付テハ司法警察官及檢事ノ取調ニ對シテ之ヲ自認シタリトノ趣旨ノ供述ヲ爲シタルモノニハ非ス然ルニ原判決カ同調書中被告人ノ供述トシテ自分ハ事實ニ非サルモ警察官及檢事ノ各取調ニ對シ判示ノ如ク放火シタルコトヲ自認スル趣旨ノ供述ヲ爲シタルコトハ相違ナキ旨ノ記載ト摘示シ判示放火ノ方法ニ關スル事實ヲ認定スル唯一ノ證據ト爲シタルハ虛無ノ證據ニ依リテ事

聽取書中ノ陳述肯定ノ供述ト其ノ證據力

實ヲ認定シタル違法アルモノト謂ハサルヘカラス加之司法警察官又ハ檢事カ被告人ノ陳述ヲ聽キ之ヲ錄取シタル聽取書ノ如キハ刑事訴訟法第三百四十三條第一項ニ所謂法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルヲ以テ同條同項第一號乃至第三號ノ場合ニ非サル限リ地方裁判所ノ事件ニ付テハ之ヲ證據ト爲スコトヲ得サルモノトス然ルニ若シ判事カ豫審又ハ公判ニ於ケル取調ノ際斯ル聽取書記載ノ陳述ニ依據シテ被告人ヲ訊問シ司法警察官又ハ檢事ニ對シテ斯ル陳述ヲ爲シタリトノ供述ヲ爲シタルトキ之ニ對スル被告人ノ辯解如何ニ拘ラス直ニ採テ以テ其ノ陳述ノ内容ヲ成ス事實ノ證據ト爲スコトヲ得ルモノトセハ上叙ノ證據ノ制限存スルニ拘ラス單ニ右ノ如キ判事ノ訊問テフ迂回方法ヲ執ルニ依リ容易ニ敘上聽取書ノ内容ヲ罪證ニ供スルコトヲ得ルニ至リ斯クノ如キハ證據ヲ制限シタル右規定ノ精神ニ背反スル違法アリ從ツテ斯ル供述ヲ證據ト爲スコトハ之ヲ許ササルモノト解スルヲ相當トス然レトモ其ノ聽取書ヲ作成シタル司法警察官ヲ證人トシテ之ヲ宣誓セシメテ訊問シ其ノ證言ヲ證據ニ供スル場合ト彼是混淆シテ同一ニ律スヘカラサルハ論ヲ俟タスサレハ原判決ハ此ノ點ニ於テモ亦證據ト爲スヘカラサルモノヲ證據ト爲シタル違法アルモノト謂ハサルヘカラス而シテ以上ノ違法ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキコト明カナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

檢事棚町丈四郎關與

【要旨】

○縣會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十一年(九)第七五四號
同年五月十一日第二刑事部判決)

棄却)

〔上告人〕 被告人 海田信義

〔第一審〕 船木區裁判所 〔第二審〕 山口地方裁判所

○判示事項

財産上ノ義務ヲ候補者ニ負擔セシムル行爲ト衆議院議員選舉法第百三十四條

○判決要旨

選舉委員カ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得スシテ演說會場トシテ公會堂借受交渉ノ爲自動車ヲ借切乗用シ其ノ賃金支拂義務ヲ候補者ニ負擔セシメタルトキハ衆議院議員選舉法第一百一條第一項第百三十四條ノ罪責ヲ免レサルモノトス

財産上ノ義務ヲ候補者ニ負擔セシムル行爲ト衆議院議員選舉法第百三十四條

【參照】衆議院議員選舉法第一百條 立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者又ハ選舉委員ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ妨ケス
 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非サル者ハ選舉運動ノ費用ヲ支出スルコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ノ費用ハ此ノ限ニ在ラス
 同法第三十四條 第一百條ノ規定ニ違反シテ選舉運動ノ費用ヲ支出シタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮二月ニ處ス但第一審ニ於ケル未決勾留日數中十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年十月五日施行山口縣縣會議員選舉ニ際シ同縣厚狹郡ヨリ立候補セシ候補者大井太郎ノ選舉委員ナル處候補者兼選舉事務長タル右大井太郎ノ文書ニ依ル承諾ヲ得シテ同年十月四日右候補者ノ演說會場トシテ同縣同郡厚南村字中野公會堂ノ借受交渉ノ爲同縣同郡小野田町ヨリ右公會堂迄勝瀨市太郎ヨリ自動車ヲ借切乗用シテ其ノ賃金二圓二十五錢ノ支拂義務ヲ負擔セシメ以テ選舉運動ノ費用ヲ支出シタルモノナリ
 法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ府縣制第三十九條第四十條ニ依リ準用セラレタル衆議院議員選舉法第一百條第三百十四條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮二月ニ處スヘク刑法第二十一條ニ則リ原審未決勾留日數中十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書第一點ハ候補者大井太郎ノ選舉事務所ハ勝瀨市太郎自動車營業所ノ二階ニシテ普通常識上ヨリ見ルモ選舉運動ニ要スル自動車ハ隨時勝瀨市太郎ノ自動車ヲ借受ケ乗用スル暗黙ノ契約アルコトヲ認メサルヘカラス選舉事務所ハ事務長ニ於テ借受クヘキモノナルヲ以テ一應事務長大井太郎ノ借受ケタルモノト推定スルヲ相當トス事務長大井カ之ヲ借受ケタル當時當然選舉運動用ノ自動車ハ事務所ノ階下ニ備付ノ勝瀨市太郎營業用ノ自動車ヲ雇入ルルコトハ暗黙ノ契約アリタリト認ムルコトノ至當ナルコト如上ノ如ク其ノ雇入レ方ハ隨時法定運動員ノ注文ニ任スル了解アリタルモノト認メサルヘカラス從テ被告人カ必要ニ應シ事務長ノ命ニ依リ演說會場借入ノ爲之ヲ乗用シタルハ事務長ノ雇入レタルモノトシテ犯罪トナラス加之此ノ事ハ事務長ヨリ事務所借受當時口頭ヲ以テ契約シタルモノナルヲ以テ旁々原判決ハ失當ナリト云ヒ」第二點ハ自動車雇入ハ請負契約ニシテ完全ニ仕事ヲ終了シテ始メテ代金支拂義務ヲ生スルモノニシテ本件ニアリテモ被告ノ乗用ヲ終リ事務所ニ歸リテ始メテ事務長ニ支拂責任生スルモノニシテ被告人カ乘リ始メルト同時ニ支拂義務發生スルモノニアラス原審ハ事實ヲ不當ニ認定シタル不法アリト云フニ在レトモ

本件自動車ハ選舉事務長ノ雇入レタルモノナリトノ所論ハ原判示ニ副ハサル主張ナリトス而シテ縣會

財產上ノ義務ヲ候補者ニ負擔セシムル行爲ト衆議院議員選舉法第三十四條

議員選舉ニ際シ選舉委員カ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得スシテ選舉運動ノ費用ヲ支出シタルトキハ府縣制ニ依リ準用サルル衆議院議員選舉法第百一條第一項違反ノ罪ヲ構成スルコト同條項ノ解釋上明ナリ又同條項ニ所謂費用ノ支出トハ當ニ現金ノ支出ヲ爲シタル場合ノミナラス議員候補者ニ財産上ノ義務ヲ負擔セシメタル場合ニモ亦支出ヲ爲シタルト謂ヒ得ヘキコト同法第百三條ノ律意ニ徴シ疑ナキ所ナリ故ニ縣會議員選舉ニ際シ選舉委員カ議員候補者兼選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得スシテ右候補者ノ演說會場トシテ公會堂借受交渉ノ爲自動車ヲ借切乗用シ其ノ賃金支拂義務ヲ候補者ニ負擔セシメタルトキハ右第百一條第一項第百三十四條ノ罪責ヲ免レサルモノトス原判示ハ之ヲ要スルニ被告入ハ昭和十年十月五日施行ノ山口縣縣會議員選舉ニ際シ立候補セシ大井太郎ノ選舉委員ナルトコロ候補者兼選舉事務長タル右大井太郎ノ文書ニ依ル承諾ヲ得スシテ同月四日右候補者ノ演說會場トシテ公會堂借受交渉ノ爲同縣小野田町ヨリ厚南村宇中野公會堂マテ勝瀬市太郎ヨリ自動車ヲ借切乗用シテ其ノ賃金二圓二十五錢ノ支拂義務ヲ負擔セシメ以テ選舉運動ノ費用ヲ支出シタルモノナリト云フニ在リテ該事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ證明スルニ足り敍上選舉法違反ノ罪ニ該當スルコト言フテ該事實尙又判示自動車ヲ借切乗用トハ自動車ノ用法ニ依リ賃金支拂義務發生ノ原因ヲ作爲シタル趣旨ト解スヘキヲ以テ原判決ハ所論ノ如ク不當ニ事實ヲ認定シタルモノト謂フヘカラス更ニ記錄ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ認メス論旨理由ナシ

(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事棚町丈四郎關與

○業務上過失傷害被告事件 (昭和十一年(れ)第二九五號 棄却)
(同年五月十二日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 小島 銀松 辯護人 (大道寺慶男 西村勝矣)
 【第一審】 一宮區裁判所 【第二審】 名古屋地方裁判所

○判示事項

自動車運轉手ノ注意義務ト行政上ノ取締規則

○判決要旨

自動車運轉手ハ自動車取締令等ノ規定以外ニ於テモ尙運轉上ノ注

自動車運轉手ノ注意義務ト行政上ノ取締規則

義務ヲ負フモノニシテ該規則ヲ嚴守シタルノミニ依リ注意義務ヲ盡シタルモノト謂フヲ得ス

【參照】 刑法第二百一十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
内務省令第二十三號自動車取締令第五十一條第一項 自動車ノ最高速度ハ左ノ制限ニ依ルベシ

- 一 自動車ノ總重量二千五百斤未滿(乘車定員七人以下ノ乗用自動車ニ在リテハ總重量三千斤未滿)ニシテ全車輛ニ空氣入輪帶ヲ使用シ且全車輪ヲ制動スル制動裝置ヲ有スルモノニ在リテハ毎時五十軒
 - 二 其ノ他ノ自動車ニ在リテハ毎時三十五軒
- 同第五十四條第一項 交通整理ノ行ハレザル道路ノ交叉點ニ異リタル方向ヨリ同時ニ入ラントスル自動車相互間ニ在リテハ左方ノ自動車ニ進路ヲ讓ルベシ但シ小道路ヨリ大道路ニ入ラントスル自動車ハ大道路ノ自動車ニ進路ヲ讓ルベシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサル時ハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ甲種自動車運轉手ニシテ貨物自動車運轉業ヲ營メル兄小島彌曾市ノ許ニ在リテ貨物自動車運轉業ノ業務ニ從事中昭和十年三月六日午後五時頃割木約九百貫ヲ積載セル岐阜縣第二八四三號貨物自動車ヲ運轉シテ愛知縣葉栗郡草井村大字草井地内ノ木曾川堤防路(幅員約四間)ヲ時速約二十哩ノ速力ヲ以テ東ヨリ西ニ向ヒ進行中同堤防路ト木曾川砂利取場ヨリ同縣丹羽郡古知野町ニ至ル南北ニ通スル道路(幅員約二間)ノ交叉點ニ差蒐ラントシタルカ該交叉點ノ四方ノ通路ニ面スル兩側ニハ人家併立シ爲ニ右東西ニ通スル道路ヲ進行スル者ハ右交叉點ニ至ルニ非サレハ南北ニ通スル道路上ノ車馬ヲ完全ニ見通シ得サルカ故ニ自動車運轉ノ業ニ從事スル者ニシテ自動車ヲ運轉シテ右東西ニ通スル道路ヲ進行シテ右十字路ニ差蒐ラントスル場合ニハ何時側面道路即南北ニ通スル道路ヨリ自動車等ノ進行シ來ルヤモ測リ難キカ故ニ其ノ進路ノ前方ヲ警戒シ何時ニテモ急停車ヲ爲シ得ヘキ様速力ヲ緩減シテ進行シ若シ其ノ側面道路ヨリ他ノ自動車カ進行シ來リテ自己ノ自動車ヨリモ該交叉點ニ接近セルコトヲ發見タルトキハ急停車又ハ徐行ノ繼續等適宜ノ措置ヲ執リ以テ事故ノ發生ヲ未然ニ防止スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス被告人ハ右ノ如キ注意ヲ怠リ右十字路ニ差蒐ルヤ時速約十六哩ノ速力ヲ持續シテ進行シタル爲右交叉點ノ前方約五間ノ地點ニ至リタル際約七間右斜前方ニ前記南北ニ通スル道路上ヲ被告人運轉ノ自動車ヨリモ該交叉點ニ接近シテ南進セル金最殊ノ運轉ニ係ル貨物自動車ヲ發見シタルモ同自動車ノ手前ニテ停車シ得ヘキ様急停車ノ措置ヲ執ルコト能ハスシテ進行シ遂ニ被告人運轉ノ自動車ノ右側面ヲ金最殊運轉ノ自動車ノ左側面並其ノ運轉臺左端ニ同乘シ居リタル自動車助手金明天ノ左腕ニ接觸セシメ因テ同人ノ左上膊下部同前膊上部ニ治療約十六、七日間ヲ要スル打撲傷及擦過傷ヲ加ヘタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ右所爲ハ刑法第二百一十一條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ所定罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處シ同法第十八條ニ則リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモ

自動車運轉手ノ注意義務ト行政上ノ取締規則

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人大道寺慶男 西村勝矣上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由トシテ「被告人ハ甲種自動車運轉手ニシテ貨物自動車運輸業ヲ營メル兄小島彌曾市ノ許ニ在リテ貨物自動車運轉ノ業務ニ從事中昭和十年三月六日午後五時頃割木約九百貫ヲ積載セル岐阜縣第二八四三號貨物自動車ヲ運轉シテ愛知縣葉栗郡草井村大字草井地内ノ木曾川堤防路(幅員約四間)ヲ時速二十哩ノ速力ヲ以テ東ヨリ西ヘ向ヒ進行中同堤防路ト木曾川砂利取場ヨリ同縣丹羽郡古知野町ニ至ル南北ニ通スル道路(幅員約二間)ノ交叉點ニ差蒐ラントシタルカ該交叉點ノ四方ノ道路ニ面スル兩側ニハ人家併立シ爲ニ右東西ニ通スル道路ヲ進行スル者ハ右交叉點ニ至ルニ非レハ南北ニ通スル道路上ノ車馬ヲ完全ニ見通シ得サルカ故ニ自動車運轉ノ業ニ從事スルモノニシテ自動車ヲ運轉シテ右東西ニ通スル道路ヲ進行シテ右十字路ニ差蒐ラントスル場合ニハ何時側面道路即チ南北ニ通スル道路ヨリ自動車等ノ進行シ來ルヤモ測リ難キカ故ニ其ノ進路ノ前方ヲ警戒シ何時ニテモ急停車ヲ爲シ得ヘキ様速力ヲ緩減シテ進行シ若シ其ノ側面道路ヨリ他ノ自動車カ進行シ來リテ自己ノ自動車ヨリモ該交叉點ニ接近セルコトヲ發見シタル時ハ急停車又ハ徐

行ノ繼續等適宜ノ措置ヲ執リ以テ事故ノ發生ヲ未然ニ防止スヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス被告人ハ右ノ如キ注意ヲ怠リ右十字路ニ差蒐ルヤ時速十六哩ノ速力ヲ持續シテ進行シタル爲右交叉點ノ前方約五間ノ地點ニ至リタル際約七間右斜前方ニ前記南北ニ通スル道路上ヲ被告人運轉ノ自動車ヨリモ該交叉點ニ接近シテ南進セル金晟洙ノ運轉ニ係ル貨物自動車ヲ發見シタルモ同自動車ノ手前ニテ停車シ得ヘキ様急停車ノ措置ヲ執ルコト能ハスシテ進行シ遂ニ被告人運轉ノ自動車ノ右側面ヲ金晟洙運轉ノ自動車ノ左側面竝ニ其ノ運轉臺左端ニ同乘シ居リタル自動車助手金明天ノ左腕ニ接觸セシメ因テ同人ノ左上膊下部同前膊上部ニ治療約十六、七日間ヲ要スル打撲傷及擦過傷ヲ加ヘタルモノナリ」ト事實ヲ認定シ刑法第二百一十一條ヲ適用シテ處斷セルモ斯ル十字路ノ交叉點ニ於テ異ナリタル方面ヨリ同時ニ入ラントスル自動車相互間ニ於テハ其ノ際如何ナル處置ヲ執ルヘキヤハ法律ハ明カニ此ノ場合ノ動作ヲ指導シ居レリ即チ昭和八年八月十八日內務省令第二十三號自動車取締令第五十四條第一項ニハ「交通整理ノ行ハレサル道路ノ交叉點ニ異リタル方面ヨリ同時ニ入ラントスル自動車相互間ニ在リテハ左方ノ自動車ニ進路ヲ讓ルヘシ但小道路ヨリ大道路ニ入ラントスル自動車ハ大道路ノ自動車ニ進路ヲ讓ルヘシ」ト明示シ居ルニ非スヤ而シテ本件ノ現場ニ於ケル當時相互間ノ自動車ノ動作ハ雙方共貨物自動車ニシテ被告人ノ自動車ハ東ヨリ西ニ向テ進行シ被害者金晟洙ノ自動車ハ北ヨリ南ニ向ツテ進行シ共ニ十字路ニ入ラントスルモノナルヲ以テ金晟洙ノ自動車ヨリ被告人ノ自動車ニ對シテハ左方ニ

自動車運轉手ノ注意義務ト行政上ノ取締規則

當リ被告人ノ自動車ヨリ金晟洙ノ自動車ニ對シテハ右方ニ當ルモノナレハ此ノ場合ニハ金晟洙ノ自動車ハ當然其ノ左方ニ在ル被告人ノ自動車ニ之カ進路ヲ讓ルヘキハ明カニ自動車取締令ノ命スル處ナラシヤ然ルニ金晟洙ハ斯法ノ命スル處ニ背キ左方ナル被告人ノ自動車ニ進路ヲ讓ラスシテ十字路ニ突入シ來タリシノミナラス又一面ニ被告人ノ自動車カ進行中ナリシ木曾川堤防路ノ道幅ハ四間ニシテ金晟洙ノ自動車カ進行シ來リシ砂利取場ヨリノ道幅ハ二間ナルヲ以テ此ノ場合ニモ法律ハ小道路ヨリ大道路ニ入ラントスル自動車ハ大道路ノ自動車ニ進路ヲ讓ルヘシト規定セルニ拘ラス金晟洙ハ右規定ニ背キ大道路進行中ノ被告人ノ自動車ニ進路ヲ讓ラスシテ交叉點ニ猛進シ來リシニ非スヤ斯ノ如ク金晟洙ノ自動車ハ二重ニ取締令ヲ破リ無法ニ突進シ來リテ被告人運轉ノ自動車ノ進路ヲ遮リタルカ爲此ノ樁事ヲ惹起シタルモノニシテ本案ノ原因ハ全ク金晟洙ノ亂暴ナル運轉ニ在リテ毫モ被告人ノ行動ニ起因スルモノニ非サルナリ然ルニ原審ハ此ノ明白ナル金晟洙ノ法規違反ノ行動ヲ看過シ漫然被告人ニ過失ノ原因アリト斷セシハ實ニ不法ノ裁判ナリト云ハサルヘカラスト云ヒ」同第二點本案ハ被告人ニ毫モ違法ノ廉ナキニ拘ラス金晟洙ハ二重ニ自動車取締令第五十四條第一項ノ法規ヲ破リ其ノ結果此ノ衝突ヲ見ルニ至リシモノナル事情ハ第一點所論ノ通りナルモ其ノ際被告人ニ於テモ果シテ無過失ナリト云ヒ得ヘキヤ否ヤニ就テハ原判決理由ニ依レハ被告人ハ木曾川堤防路ヲ二十哩ノ速力ヲ以テ進行シ來リ十字路ニ差蒐リ時速十六哩ノ速力ヲ持續シテ進行シタル點ヲ過失ノ一原因ナルカ如ク判示セルモ

自動車取締令第五十一條第一項ニハ自動車ノ制限速度ハ毎時五十軒乃至三十五軒トアリ(換算三十一哩餘乃至二十一哩七分餘ニ當ル)從テ當時被告人ノ運轉セシ速度ハ適法ノ範圍ヲ守リ決シテ不當ナリト云ヲ得ス又原判決ハ十字路ニ差蒐ラントスル場合ニハ何時側面道路ヨリ自動車等ノ進行シ來ルヤモ測リ難キカ故ニ何時ニテモ急停車ヲ爲シ得ヘキ様速力ヲ緩減シテ進行スヘキニ拘ハラス其ノ措置ヲ執ラサリシヲ過失ノ一原因ナルカ如ク判示セルモ元來何時ニテモ急停車シ得ヘキ様ト云フカ如キハ如何ナル自動車モ何時ニテモ急停車シ得サル筈ナク唯急停車ノ所置ヲ爲シタル後何間進ミタル處ニテ停止スヘキヤカ問題タルノミ之ヲ必ス嚴格ニ急停車シ得ヘシト云ヘハ總テノ十字路ニ望ンテハ常ニ全ク一旦停車スルヨリ外ナキニ至ルヘク交通機能ノ進歩セル現代ニ於テハ到底斯ル吞氣ノ行動ヲ強ユヘキニ非ス是カ爲ニ國家ハ其ノ場合ニ處スル爲取締令ヲ設ケテ運轉方法ヲ指示セルニ非スヤ被告人ハ對手ノ自動車モ無論法規ニ從ヒ運轉スルモノト信シ進行ヲ續ケタルニ金晟洙ハ取締令ニ違反シ亂暴ニ突進シ來リシ爲被告人ハ豫期ニ反シ大ニ驚キ急停車ノ處置ヲ執リシモ時既ニ遅ク遂ニ及ハサリシノミ本案ハ雙方共同様ノ貨物自動車運轉手ナルヲ以テ被告人カ對手ノ自動車カ取締令ヲ守ルモノナリト豫見スルハ當然ニシテ此ノ適法ノ豫見ニ基キ運轉シタル行爲ヲ決シテ過失トシテ責ム能ハサルヘシ右ノ如ク毫末モ被告人ニ咎ムヘキ過失ナク金晟洙ノ違法行爲カ此ノ不祥事ノ原因ヲ爲セルコトハ極メテ明白ナルニ拘ラス原審ハ尙且被告ニ犯行アリトシテ處罰スルカ如キハ重大ナル事實ヲ誤認セル不法ノ判決ナ

ルヘシト云ヒ」同第五點本件カ最初檢事ニ於テ略式命令ノ請求アリシ當時ハ被告人ト同一氏名ノ自動車取締違犯ノ前科三犯ヲ有スルモノト誤認セラレ公判ニ於テ全ク其ノ別人ナリシコトハ明瞭セシモ此ノ不幸ノ一事カ本件ノ如キ誤リタル起訴ノ一動機ヲ爲シタルモノニシテ被告人ハ本案ノ如キ輕微ナル罰金刑ヲ最上級審マテ多額ノ經費ヲ投シテ争フ所以ハ被告人ハ自動車運轉業ニ従事スルコト約六箇年ニ及ヒ此ノ間一回ノ事故ヲ起シタルコトナク現ニ昭和八年六月二十五日岐阜縣交通安全協會ヨリ「業務ニ精勵克ク法規ヲ遵守シ交通事故ヲ惹起シタルコトナク他ノ模範タリ」ト表彰狀ニ木盃ヲ添ヘテ下賜セラレテ居ルモノニシテ(記録二〇五丁參照)交通上ノ自信ト他ノ模範タリトノ表彰ヲ汚ササラントノ一念ヨリ公正ナル御審理ヲ煩サントスル次第ニシテ此ノ信念夫レ自體ハ本件ノ真相何レニアリヤヲ斷スルニ足ルヘク吳レ吳レモ被告人當時ノ心境ハ決シテ自己ニ過アリトハ信セス重大ナル事實ヲ誤認セル原判決ハ是非共破毀ヲ望ンテ止マサルナリト云フニ在レトモ

論旨ノ引用スル内務省令第二十三號自動車取締令第五十一條第一項第五十四條第一項等ノ規定ハ孰レモ交通ヲ整理シ事故ノ發生ヲ防止スルコトヲ目的トスル行政上ノ取締規則ニシテ自動車運轉手カ其ノ業務ノ執行ニ付之ヲ遵守スヘキハ固ヨリ當然ノコトナリト雖斯ル取締規則ハ是唯右ノ目的ヲ達スルノ方法トシテ最モ普通ノ事項ヲ規定シタルモノニ過キサカ故ニ自動車運轉手ハ此等規定ノ命スル所以外ニ於テ尙運轉上ノ注意義務ヲ負ハサルヘカラサルハ勿論ニシテ單ニ前記ノ如キ取締規則ヲ嚴守シタ

【要旨】

レハトテ之ヲ以テ其ノ注意義務ヲ完全ニ盡シタルモノト謂フヘキニアラス故ニ本件ニ於テハ被告人カ事故發生ノ當時自動車取締令ノ規定ニ從ヒ自動車ヲ運轉シ居リタルコト所論ノ如シトスルモ必スシモ注意義務ヲ怠ラサリシモノト速斷スルヲ得サルノミナラス自動車運轉手カ自動車ヲ運轉シテ判示ノ如キ十字路即チ道路ノ交叉點ヲ通過セントスルカ如キ場合ニ在リテハ或ハ側面ノ道路ヨリ馬車自動車等ノ突進シ來ルコトナキヲ保シ難キカ故ニ能ク其ノ進路ヲ警戒シ何時ニテモ急停車ヲ爲シ得ヘキ豫メ速力ヲ緩減シテ進行シ若シ其ノ側面道路ヨリ馬車自動車等ノ進行シ來ルヲ發見セハ直ニ急停車ヲ爲シ又ハ徐行ヲ繼續スル等適宜ノ措置ヲ執ルコトニ依リ事故ノ發生ヲ未然ニ防遏スルニ全力ヲ盡スヘキ業務上ノ注意義務アルコトハ寔ニ原判決説明ノ如クニシテ之カ爲ニ多少交通機關ノ敏活ヲ阻害スルノ結果トナルコトアリトスルモ通行者ノ安全ヲ期スルノ必要上已ムヲ得サルコトト云フヘシ果シテ然ラハ本件ニ於テ被告人カ其ノ貨物自動車ヲ運轉シテ判示十字路ニ差蒐リタルニ拘ハラス右ノ注意ヲ怠リ依然時速約十六哩ノ速力ヲ持續シテ進行シタル爲該十字路交叉點ノ前方約五間ノ個所ニ至リ初メテ金晟洙ノ運轉スル貨物自動車カ判示ノ如ク側面ノ道路ヨリ進行シ來ルヲ發見シタルモ機宜ノ措置ヲ執ルノ餘裕ナクシテ遂ニ被告人運轉ノ自動車ヲ金晟洙運轉ノ自動車竝之ニ同乗セル助手金明天ノ左腕ニ接觸セシメテ同人ニ負傷セシメタルコト原判示ノ如クナル以上被告人ニ於テ其ノ結果ニ付過失ノ責任ヲ免レサルカ故ニ原審カ被告人ノ所爲ヲ業務上過失傷害罪トシテ處斷シタルハ相當ナリト云フヘク而モ右

ノ判示事實ハ原判決援用ノ證據ニ徴シ其ノ證明十分ニシテ記録ヲ査スルモ原審ノ事實認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由ナキヲ以テ論旨ハ孰レモ理由ナキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事秋山要關與

○收賄被告事件(昭和十一年(れ)第五六二號 棄却)
(同年五月十四日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 小松 忠夫 辯護人 渡邊 忠雄
菅野 勲 森保 勲 昌助

【第一審】 廣島地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

不正處分不能ト收賄罪ノ成立

○判決要旨

地方專賣局技手兼書記トシテ葉煙草耕作者ヨリ收納スル葉煙草ノ品質ヲ鑑定スル職務ニ從事スルモノカ事實上鑑定ニ付等級ニ手心ヲ爲スヘキ餘地ナシトスルモ右職務ニ關シ金品ヲ收受シタルトキハ收賄罪ノ成立ヲ阻却スヘキモノニ非ス

【參照】 刑法第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役七月ニ處シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入ス同被告人ヨリ金三百九十四圓七十四錢ヲ追徴ス(訴訟費用負擔ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

廣島地方專賣局ニ於ケル葉煙草ノ收納ハ其ノ所屬ナル廣島縣佐伯郡中村所在能美煙草取扱所ニ於テハ昭和六年度ハ自不正處分不能ト收賄罪ノ成立

十月八日至十月二十九日同七年度ハ自十月六日至十月二十七日同八年度ハ自十一月九日至十二月七日同九年度ハ自十月七日至十一月二日同縣加茂郡西條町所在西條煙草取扱所ニ於テハ昭和六年度ハ自十一月十日至十二月七日同七年度ハ自十月二十八日至十一月十九日同八年度ハ自十月一日至十月二十四日同九年度ハ自十一月四日至十一月七日同專賣局秋穂出張所所屬ノ山口郡吉敷郡西岐波村字床波所在西岐波煙草取扱所ニ於テハ昭和七年度ハ自十二月五日至十二月二十三日同八年度ハ自十月十六日至十一月八日同九年度ハ自十月二十二日至十一月十八日同縣同郡秋穂二島村字長濱所在ノ長濱煙草取扱所ニ於テハ昭和七年度ハ自十一月二十日至十二月三日同八年度ハ自十一月十日至十一月二十五日同九年度ハ自十月五日至十月二十日迄ノ期間ニ夫々專賣局官制ニ依ル官吏ヲ右取扱所ニ派遣シ各管内ニ於ケル耕作者ノ納入スル葉煙草ニ付規定ニ基ク品質ノ鑑定ヲ爲サシメテ等級ヲ定メ價格ヲ算出シテ賠償金ヲ支拂フモノナルトコロ

(中略)

第二 被告人小松忠夫ハ同專賣局秋穂出張所勤務ノ專賣局技手兼書記トシテ冒頭記載ノ西岐波及長濱兩取扱所ニ於テ同記載ノ各年度ノ期間中同管内ノ葉煙草耕作者ヨリ收納スル葉煙草ノ品質ヲ鑑定スル職務ニ從事シタルモノニシテ同管内ナル左記葉煙草耕作者ヨリ其ノ收納スル葉煙草ニ付左記ノ日時場所ニ於テ收納前ニアリテハ被告人ニ對スル右職務上ノ鑑定ニ付有利ノ取扱アリ度キ旨ノ請託ノ趣旨ニテ又收納後ニアリテハ右職務上ノ鑑定ニ付特別有利ノ取扱アリタルコトニ對スル報酬ノ趣旨ニテ爲サレタル左記供與ノ金錢並財產上ノ利益又ハ獎勵ヲ何レモ其ノ趣旨ヲ知悉シナカラ犯意ヲ繼續シテ之ヲ收受シタルモノナリ

- 一 西岐波取扱所管内葉煙草耕作者ナル曾根田兼太郎ヨリ昭和八年十一月八日其ノ年度ノ收納後被告人ノ下宿先ナル山口縣吉敷郡西岐波村小堀巖ニ對スル下宿料債務十六圓六錢ノ代拂
- 二 同西正民ヨリ清水義貞ヲ介シテ昭和八年十月二十五、六日頃其ノ年度ノ收納後宇部市老松町木下料理部ニ於テ

一人前金二圓五十錢相當ノ響應(但九年十一月全部返還)

三 同吉谷又一及鈴木良作ノ兩名ヨリ清水義貞ヲ介シテ昭和九年十月二十六日頃其ノ年度ノ收納後山口縣吉敷郡小郡町カフエー一富士等ニ於テ一人前二十圓相當ノ響應(但昭和九年十一月中全部返還)

四 同小林淺一ヨリ清水義貞ヲ介シテ

(イ) 昭和八年十月中旬頃其ノ年度ノ收納後宇部市錦橋通新京カフエーニ於テ一人前十三圓九十六錢相當ノ響應

(ロ) 同年十月下旬頃同様同所ニ於テ一人前七圓五十錢相當ノ響應

(ハ) 同九年十月二十一日其ノ年度ノ收納前同所ニ於テ一人前五圓相當ノ響應

(ニ) 同月二十二日其ノ年度ノ收納後前記カフエー一富士等ニ於テ一人前十五圓九十三錢相當ノ響應

(ホ) 同月二十三日同様前記新京カフエー等ニ於テ一人前八圓二十四錢相當ノ響應

(ヘ) 同月二十五日同様同所ニ於テ一人前九圓七十六錢相當ノ響應

五 同管内山口縣吉敷郡井關村煙草耕作組合書記松崎德彦ヨリ

(イ) 昭和八年十月十六日其ノ年度ノ收納後前示木下料理部ニ於テ一人前八圓相當ノ響應

(ロ) 同月中旬頃前同様前示新京カフエーニ於テ一人前六圓二十六錢相當ノ響應

(ハ) 其ノ頃前同様宇部市西朝日町關文カフエー等ニ於テ一人前七圓五十六錢相當ノ響應

六 西岐波取扱所管内ノ葉煙草耕作者ニシテ西岐波村字吉田部落ノ葉煙草耕作者總代ナル中村永作ヨリ曾根田兼太

不正處分不能ト收賄罪ノ成立